

令和3年度使用中学校教科用図書
採択地区調査研究報告書

令和2年7月20日

令和3年度使用中学校教科用図書調査研究の報告について

1 教科用図書調査研究の観点

観点1 基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で、内容の精選及び創意工夫がなされているか。

観点2 主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の興味関心を生かし、自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

観点3 内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で、適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

観点4 内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料等が有効に使われるよう配慮されているか。

観点5 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

《参 考》

中学校教科用図書の種目

全種目

2. 調査研究・報告にあたっての留意点

- (1) 全発行者の教科用図書について調査研究し、報告する。
- (2) 1発行者の教科用図書について、必ず複数の調査員で調査研究をする。
- (3) 教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については、各調査員（会）において定める。
- (4) 報告書及び要約の作成については、発行者の長所だけでなく、課題と思われる点についても報告すること。

目 次

	ページ
国 語	1 ~ 19
書 写	20 ~ 30
社会 (地理的分野) . . .	31 ~ 41
社会 (歴史的分野) . . .	42 ~ 50
社会 (公民的分野) . . .	51 ~ 56
地 図	57 ~ 62
数 学	63 ~ 74
理 科	75 ~ 86
音楽 (一般)	87 ~ 93
音楽 (器楽合奏)	94 ~ 97
美 術	98 ~ 114
保健体育	115 ~ 120
技術・家庭 (技術分野) . .	121 ~ 127
技術・家庭 (家庭分野) . .	128 ~ 134
外国語	135 ~ 154
道 徳	155 ~ 173

種 目 名 (国 語)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元・題材の示し方
基礎・基本を定着させる上で扱いやすい単元・題材か。
- ② 基礎的な言語の定着
言語・漢字・文法について基本的な内容を精選して取り上げているか。
- ③ 伝統的な言語文化に関する内容の記述
伝統的な言語文化に関する内容が充実しているか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ① 生徒自らが問いを立て、主体的に学習することができるか。自己学習力を育てるのに適しているか。
- ② 課題発見・解決学習に適しているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

- ① 単元・教材等の配列（学年に応じて選ばれているか）
- ② 発展的な学習に関する内容の記述

(4) 内容の表現・表記

- ① 本文記述と関連づけがなされた図表等の挿入
- ② 巻末資料の示し方

(5) 言語活動の充実

- ① 読書と情報活用
読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等
情報活用に関わる内容
- ② 言語活動の種類
学習指導要領の各領域に示された言語活動例が具体的に示してあるか。

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

① 単元・題材の示し方

基礎・基本を定着させる上で扱いやすい単元・題材か。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の視点や方法が明確で、わかりやすい目標になっている。 ○ 一単元に2つの読み物教材がある場合、どちらも同じ目標が設定されているので、定着に向けて徹底させることができる。 ○ 教材の冒頭に、学習の目標を学習者の視点に置き換えた「問いかけ」があり、学習の目的が分かりやすい。目的を意識して、教材を読むことができる。 ○ 単元のゴールに言語活動が設定され、(例：「詩歌創作」「プレゼンテーション」) それに向けて単元内の教材が有機的に結び付いている。 ● 振り返りが2つ設定されているが、ほとんどの教材において「学んだことを、自分の言葉でまとめよう」「学んだことをこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかを書こう」となっている。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の視点や方法が明確で、わかりやすい目標になっている。 ○ 目標に対して「学びの道しるべ」で「内容を理解する」「読みを深める」「自分の考えを深める」と三段階で学習の進め方が丁寧に示されている。 ○ 単元のゴールに言語活動が設定され、それに向けて単元内の教材が有機的に結び付いている。単元名も「豊かに想像する」「わかりやすく伝える」など、学習内容がわかるものになっている。 ○ 本編のページに沿って学習を進めていけば、思考の仕方や語彙について学べるようになっている。 ● 「学びを振り返る」では、「自分の言葉でまとめよう」とあるが、「振り返りのキーワード」が示されているため、自分の言葉で記述させにくくなりがちである。 ● 「語彙を豊かに」は、コラム的内容で、本編と直接結びついていない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習目標の説明が「学びナビ」を読めばわかるようになっているので、経験年数の浅い指導者も「教材設定の理由」を学習者に理解させやすい。 ● 読むことに関する教材は目標が3つ示されているものが多い。 ● その目標に対する学習の進め方は、「みちしるべ」でわかりにくい。 ● 単元の構成が他社とは違い、言語活動ではなく、内容的な部分での括りになっているので、活動の目的を学習者に意識させにくい。 ● 「振り返り」が、目標が達成できているかどうかをチェックするようになっている。指導者が評価しにくい。 ● 振り返りは目標の文末を「～している」と変えているだけである。

光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標に対して「学習」で「とらえる」「読み深める」「考えをもつ」と三段階で学習の進め方が丁寧に示されているので、学習の進め方は一目でわかるようになっている。 ○ 「読むこと」において言語活動は「学習活動」として設定されている。 ● 韻文に関しては学習活動に即した目標を設定しているが、振り返りが3年の①作品のみである。 ● 目標とてびきと振り返りのつながりが分かりにくい。(例 p114 目標には「比喩の表現について理解して・・・」とあるが、学習の進め方を書いたてびきには、比喩という表現は出てこない。
--------	---

②基礎的な言語の定着

言語・漢字・文法について基本的な内容を精選して取り上げているか。

発行者	意 見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>【言語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など) ○ 巻末「言葉を広げよう」は、表現に使えるような語句が分類されて数多く載っており、「書くこと」の学習で参考になるよう工夫されている。 ● 読み物教材において、多くの類義語を挙げるようになっているが、生徒自身で国語辞典等を使って調べるのは難しい。 <p>【漢字】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新出漢字は、本文中にルビが振ってあり、脚注で新出漢字を取り上げ、音訓を示している。 ○ 巻末に「新出漢字一覧」部首や音訓、筆順、用例が詳しく載っている。 ○ 漢字は「漢字道場」、言語は「日本語探検」が設けられ充実している。 ○ 小学校六年の漢字について、問題を解いて確認することができる。(p222~224) ● 読み物教材の新出漢字の一覧がない。 <p>【文法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文法は、2学年で用言を取り上げているので、余裕を持って指導できる。 ○ 文法解説が三段構成で詳しい。一つ一つの品詞についても詳しく解説してある。 ● 巻末の解説と合わせて使うようになっているが、解説が3段構成になっており、レイアウトが少し扱いにくい。問題も少なく文法のワークなどで補足が必要。
三 省 堂	<p>【言語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など) 類義語や対義語などが示されているため、生徒に調べさせることができない。 ○ 「語彙の広がり」で、テーマを設け多くの言葉を紹介している。 ● 読み物教材で、意味を調べるようよい。になっている語句が他社より多く、もう少し精選した方がよい。 <p>【漢字】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 脚注にある新出漢字は本文中に使われている形のみで、音訓、用例については作品の後にまとめてある。 ○ 巻末に「新出漢字一覧」部首や音訓、筆順、用例が詳しく載っている。 ○ 漢字は「漢字のしくみ」、言語は「言葉発見」が設けられ充実している。 ○ 「参考資料」に示してある新出漢字が大きくて見やすい。

	<p>【文法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文法は、2学年で用言を取り上げているので、余裕を持って指導できる。 ● 巻末の解説と合わせて使うようになっているが、問題も少なく文法のワークなどで補足が必要。 ○ 文法については、品詞についても詳しく解説してある。ゆとりのある行間。
教出	<p>【言語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など) ○ 読み物教材のあとに、「この教材で学ぶ言葉」の一覧がある。 <p>【漢字】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新出漢字は、本文中にルビが振ってあり、脚注に漢字のみを取り上げている。教材末で音訓、用例を示している。 ○ 巻末の新出漢字一覧表には、音訓、部首、筆順、用例が示されており充実している。 ○ 漢字は「漢字の広場」、言語は「言葉の小窓」で学ぶが、言語は巻末に詳細が掲載されている。 ○ 「1年生で学習した漢字」についてかなり大きく示してある。 ● 新出漢字については、熟語のみ示されたものが多く、用例が分かりにくい。 <p>【文法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文法は2学年で品詞全てを扱うので、時間的にも生徒の学習量においても負担がある。 ● 「文法の小窓」で、文法について解説してあるが、そこまで詳しくはない。
光村	<p>【言語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など) 意味調べはやや少なめ。 ○ 読み物教材では、「関連語句を確認する」という活動が設定されている。 ● 言語については「語彙を豊かに」があるが、そこまで多くの語彙が示されているわけではない。 <p>【漢字】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 脚注に文中の漢字の読みが示されているので音読の支援になる。教材末には新出漢字の音訓、用例が示されている。 ○ 巻末の新出漢字一覧表には音訓、部首、筆順、用例が示されており、充実している。 ○ 漢字は「漢字」と「漢字に親しもう」の2部構成になっている。言語は「言葉」で学ぶ。 <p>【文法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末の解説と合わせて使うようになっていて、レイアウトは2段構成で扱いやすい。下段が練習問題になっており、量も適切である。 ● 文法は2学年で品詞全てを扱うので、時間的にも生徒の学習量においても負担がある。 ● 文法については、注意する点等の解説がそれほど詳しくはない。

③伝統的な言語文化に関する内容の記述

伝統的な言語文化に関する内容が充実しているか。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年の導入では「移り行く浦島太郎の物語」を挙げ、生徒が興味をもつような工夫がある。 ○ コラムでは基礎的な事項の確認（全学年）と3年では日本・中国の古典の一節が紹介されている。 ○ 古典の関連図書が紹介されている。 ○ 巻末に古典作品の冒頭部分や古典に関する文章が紹介されている。 ○ インターネット資料を活用できるようになっている。 ○ 「かぐや姫の成長と、五人の貴公子の難題」の部分は、カラーのページで説明してあり分かりやすい。「かぐや姫の昇天」についても、多めに記されている。 ● 漢文の読み方について学習することができるが、『白文』『訓点』などの言葉は説明されておらず、漢文の知識面については、あまり詳しくない。 ● 漢詩が第2学年、論語が第3学年での扱い。内容や量を考えると論語から入りたい。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年の導入では「月を思う心」として暦や和歌を挙げ、「竹取物語」につなげ興味を持たせる工夫がある。 ○ コラムで古典に関する豆知識が紹介されている。 ○ 古典の関連図書が紹介されている。3年の和歌がコミュニケーションツールであったことを紹介する文章は生徒の興味を引く工夫がされている。 ○ 巻末に関連する古典作品1～2作品紹介されている。 ○ 冒頭部分「いとうつくしうてゐたり。」までで覚えやすい。そのあとの「昇天」に至るまでのあらすじは、現代文で示されている。 ○ 漢文の読み方についての説明が詳しい。 ● 求婚する貴公子の解説は教材の最後にとじ込みのカラーページとして添えられている。少し離れたところにあるので、生徒によっては理解しにくい。 ● 漢詩が第2学年、論語が第3学年での扱い。内容や量を考えると論語から入りたい。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年の導入では「昔話と古典」として、昔の「桃太郎」「浦島太郎」が現在のものと異なっていたことが紹介され、生徒が興味をもって「古典を学習する意義」について考えることができるようになっている。 ○ 教材は、古文漢文ともに一般的な作品を取り上げている。 ○ 「広がる本の世界」で古典の関連図書が紹介されている。 ○ 論語が第2学年、漢詩が第3学年での扱い。 ● 巻末には小倉百人一首が掲載されているが全てを載せる必要性はない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「故事成語を使って体験文を書こう」「古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう」など、言語活動例が学習末に用意されている。 ○ 資料編で古典芸能や古典名作の冒頭、郷土ゆかりの作歌作品が紹介されている。 ○ 導入ともいえる「古典の世界」において、生徒のイラストに「この時代の人には、どんなことを考えていたのだろうか。」「なぜ古典を学ぶのだろうか。今の自分と、つながりはあるのかな。」と言わせることで、古典を学ぶ意義を意識させることができる。 ○ 古語の文章が多く生徒にとっては古文にたくさん触れる機会がある。 ● 1年の導入「いろは歌」は、書写でも取り扱うので、あえて掲載する必要を感じない。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 2年・3年は第一単元に古典1作品のみが掲載されているので、まとめて扱いにくい。● 基礎的な事項が解説されているが、詳しくはないので、補足が必要。 |
|---|

様式1-2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

①生徒自らが問いを立て、主体的に学習することができるか。自己学習力を育てるのに適しているか。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標と「てびき」がつながっているので、取り組みやすい。つまりいた時の参考にするために「たすけ」が書いてあって自ら学習を進めやすい。 ○ イラストや漫画を用いて解説してあり、生徒にとってわかりやすい。 ○ 書く単元で、完成例だけでなく、途中の例が豊富である。 ○ 完成例に至るまでの過程が分かりやすい。 ○ 「言葉の力」にポイントが書かれており、わかりやすい部分もある。 ● 教材の冒頭に、生徒の問いが書かれていて、生徒の視点で学習を進めることができるが、問いの出現が、唐突な面もある。(教材の題名を読んだだけでは、問いは立たないので。) 学習の目標が後ろにあることの違和感がある。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材冒頭に目標が示され、目的意識をもって読み進めることができる。 ○ 「学びの道しるべ」に沿って学習していけば、目標を達成できるような構成になっている。さらに学びを深めるための資料が同じページ、または、近いページに示されており、使いやすい。 ○ 単元の流れが書かれており、説明の内容も丁寧である。 ○ 「読み方一覧」が巻末についており、一年の学びが自分で振り返れる。 ○ ポイントとなる思考方法については、別途ポイントとして載せてあり、分かりやすい。 ● 「学びを振り返る」が、すべて「目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめよう。」で、後に「振り返りのキーワード」が示されている。キーワードが、目標の中で重要な言葉を抜き出したもので、どうかすると、ほとんどの生徒の振り返りの文章が同じものになりかねない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の進め方が、生徒の思考に沿ったものになっている。(単元・教材設定の理由が分かりやすい。)「学びナビ」を読めば、なぜそのような目標を設定したかが分かるようになっている。 ○ 「ここが大事」にポイントが載っており、つまりいた時の手助けとなる。 ○ 言葉の地図において一年間の見通しが表で示されており、自分で確認できる。 ● 目標を達成するための「みちしるべ」になっていない。自力で学習しようとしたとき、「みちしるべ」と「目標」との関連が分かりにくい。 ● 学習活動の流れはあるが、その中身についての説明が少ない。 ● 学習の流れの内容が薄く、例に「…」や「略」が多い。(デジタルコンテンツで補填可能)

光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭に、目標が書かれていて、目的意識をもって教材を読み進めることができる。また、その目標を達成するための学習活動も、教材末の「学習」のところに明記してあるので、主体的に学習に取り組みやすい。 ○ 巻頭に一年間の流れが観点別で書かれている。 ○ 1年生では、3年間の古典作品が載っており、3年間の古典がイメージできる。 ○ 学習の窓に身に付いた力一覧が載っており、自分で確認できる。 ○ 要所でコンパクトに説明があり、完成例を使った説明もあるが、自力ではやりづらい。 ● 「言葉を広げる」のところで、語彙を意識させているが、具体例が少ない。
--------	---

②課題発見・解決学習に適しているか。

発行者	意 見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな現代的諸課題を、文章や言語活動の題材として取り上げている。(戦争・平和、防災・安全、環境、多様性社会(人権・福祉・国際理解)、キャリア教育) ○ 「調べて分かったことを伝えよう『食文化』のレポート」「郷土のよさを伝えよう『地域の魅力』の紹介文」「編集して伝えよう『環境』の新聞」などの言語活動は、総合的な学習の時間と関連させやすい。 ○ 「話す・聞く」「書く」などの言語活動の「まとめ・表現」までの過程が、具体例がありわかりやすい。 ○ 学びの扉につまづき例がマンガで書かれていたり、単元の初めに吹き出しで疑問点が書かれたりしており、課題設定がしやすい。 ○ 各単元の「てびき」が課題発見・解決学習の流れに沿っている。 ○ 振り返りがチェック式でなく、記述式になっているので、自己の見方・考え方の成長を自覚させやすい。 ● 各単元の冒頭に目標が記載されていない。
三省 堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6「情報を関連づける」の単元では、複数の多様な情報を関連づけながら、現代の課題について学習することができる。 ○ 3年の教科書では、高校入試を意識した言語活動「条件作文」があり、生徒の関心や意欲を喚起しやすい。 ○ 「話す・聞く」(グループディスカッション)の単元のリード文が問題提起型になっている。また、3年間同じ単元を行っており、系統性がある。 ● 課題設定にあたる部分の記述が少なく、主体的な課題発見・解決学習をしづらい。 ● 「書く」ことの活動の途中の具体例がなく、生徒にイメージさせにくい。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ SDGsを踏まえており、地球規模の問題解決とつながるので、課題設定しやすい。 ○ 「学びのチャレンジ」によって、活用問題に取り組めるようになっている。 ○ 学びナビで得た知識を次の文章で実践することができる。 ○ 生徒にとって身近であるマンガなどを題材にした単元があり、課題設定がしやすい。 ● 「書く」活動の完成までの学習活動の流れの説明が詳しくなく、具体例も少ない。

光 村	<ul style="list-style-type: none">○ 「情報社会を生きる」で、情報収集の方法等が詳しく説明されている。○ 課題発見・解決学習を意識して単元が構成されている。(集める・整理する→組み立てる→表現する→振り返る)● 大単元内の読み物教材と、そのあとにくる「話す・聞く」「書く」などの言語活動が必ずしも関連しているわけではないので、単元を課題発見・解決学習として捉えることはできない。
--------	--

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

① 単元・教材等の配列（学年に応じて選ばれているか）

発行者	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	<p>1年：詩 4，小説 3，説明 4（5），古典（2），随筆（1） 2年：詩 3，小説 3，説明 3，古典 4，随筆 2 3年：詩 4，小説 2，説明評論 4，古典 3，随筆 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本編，基礎編，資料編で構成されており，「基礎編」は，「学びを支える言葉の力」についての練習問題も豊富である。 ○ 読むことの教材の後に，それに応じた別の領域の単元があるため，単元のつながりがあり，学習意欲を喚起しやすい。 ○ 古典の導入として，なじみの深い浦島太郎の物語の変遷が取り上げられており，古典に興味を持たせやすい。
三省堂	<p>1年：詩 2，小説 4，説明 3，古典 2，随筆 1 2年：詩 2，小説 3，説明 3，古典 3，随筆 0 3年：詩 2，小説 3，説明評論 3，古典 3，随筆 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読むことの教材の前後に「読み方を学ぼう」があり，学習内容に興味を持たせたり，学習内容の定着を図らせたりする工夫がある。 ○ 1年生では，古典の前に「月を思う心」があり，古典に興味を持たせやすい。 ● 読むことの教材と別の領域のつながりが感じにくい。 ● 読書の広場が巻末にまとまっており，定期的な読書推進がしにくい。
教出	<p>1年：詩 3，小説 3，説明 3，古典 3，随筆 0 2年：詩 2，小説 3，説明 5，古典 3，随筆 0 3年：詩 3，小説 3，説明評論 4，古典 3，随筆 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びナビ」の後に教材があるため，学習に意欲をもちやすい。 ○ 古典の導入に桃太郎や浦島太郎の話があり，興味を持ちやすい。 ● 随筆作品数が少ない。 ● 文法では，1学年で「単語のいろいろ」まで学習し，2学年から各品詞について詳しく学習するようになっており，文法については，2学年で学習する内容が多い。 ● 1年生時に二度意見文を書く単元があり，一年生の初期に資料を比較して得た情報を根拠に意見文を書くことは，やや難しい。 ● 他と比べて，読むことの教材と別の領域の単元とのつながりが薄い。
光村	<p>1年：詩 3，小説 3，説明 3，古典 3，随筆 1 2年：詩 3，小説 2，説明 4，古典 3，随筆 2 3年：詩 4，小説 3，説明評論 3，古典 3，随筆 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「思考の地図」が，年々内容が付け加わり，系統性がある。 ● 読むことと書くこととのつながりが薄い。 ● 教材の後に，「思考のレッスン」があるが，前にあった方が，学習内容とつなげやすい。 ● 古典の導入が「いろは歌」で生徒が興味を持ちにくい。 ● 3学年の「書くこと」の言語活動に p34「修学旅行記を編集しよう」があるが，ほ

	とんどの学校が2学年で修学旅行に行くので、そのままでは使えない。
--	----------------------------------

②発展的な学習に関する内容の記述

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>【デジタルコンテンツ内容】 文法ゲーム、音声（朗読）、動画（スピーチ例、資料映像など）、練習問題（言葉の力の問題）、補充問題（文法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音声や、スピーチ例等の動画は参考になる。 ● 補充問題は、問題集で代用可能。 <p>○ 2学年の短歌の学習（鑑賞）のあとに、「書く」学習として発展的に創作の題材「短歌のリズムで表現しよう」が組まれている。※3学年の俳句も同様。</p> <p>○ 「読む」学習の最後に「読書案内」として同じ作家の作品や似た内容の作品が紹介され、その中のいくつかが巻末の資料編に収録されているので、比較の対象として、あるいは発展的に読ませることができる。</p> <p>● QRコードへのアクセスで関連資料を閲覧できるというDマークが小さく、探しにくい。</p>
三省堂	<p>【デジタルコンテンツ内容】 故事成語（紙面・対訳・本文）、資料編の教材を「読み方を学ぼう」に当てはめたもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料編の教材を使った発展学習としては良い。 ● 量が少ない。古典と読書教材のみ。 <p>○ 「話し合いのコツ」が掲載されている。</p> <p>○ 各学年の学習の手引き「学びの道しるべ」の最後に「学びをひろげよう」というコーナーがあり、言語活動へつなぐ発展的な学習が提示されている。</p> <p>○ 巻末に学習用語辞典がある。索引として用語のみを記載するのではなく説明が加えられている。</p> <p>● QRコードによる「読み方を学ぼう」の資料の中に、データ量が重くアクセスしにくいものがある。</p>
教出	<p>【デジタルコンテンツ内容】 思考ツールなどのワークシート、資料映像、漢字問題、完成例の「…」の内容が入った完成例。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業で教師が使うためには良いが、生徒は活用しにくい。 <p>○ 「学びのチャレンジ」として発展課題が載っており、大問が三つ、各設問三つと、他と比べて量が多く、図表を使った問題、会話文を使った問題があり、力試しに良い。</p> <p>○ 巻末の「言葉の自習室」に、読み比べたり、読み広げたりする教材が古典も含めて紹介されており、発展的な学習に生かすことができる。</p>

光 村	<p>【デジタルコンテンツ内容】</p> <p>音声、動画（資料映像、作者インタビュー、スピーチ例）</p> <p>○ 作者インタビューなどの資料映像は、生徒の興味関心が高まる。</p>
	○ 読書教材が一つにつき2作品掲載されており、比べ読みもできる。
	○ 2年「君は最後の晩餐を知っているか」について、資料編に解説文が載っており、発展的・補足的に使用できる。
	○ 資料編に発展課題（学習を振り返ろう）が各領域一つずつ載っている。
	○ 「話す・聞く」「書く」領域の学習には学習の流れの最後に「つなぐ」という項目が設定されており、日常生活、学校生活、将来とつないだ発展的な言語活動が提示されている。
	● 確認する内容項目が少なく、問題の量も少ない。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

①本文記述と関連づけがなされた図表等の挿入

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文の内容を手助けする図表が挿入されており，図表の種類も豊富（棒グラフ，折れ線グラフ，写真，イラスト等）である。「私のタンポポ研究（1学年）」「ハトはなぜ首を振って歩くのか（2学年）」「鯉節—世界に誇る伝統食（2学年）」「絶滅の意味（3学年）」 ○ 本文の流れに沿ったイラストの挿入で，本文の理解がしやすいようになっている。 ○ 図表の役割を問う課題が設定されており，図表の効果や特徴について考えることができるようになっている。 ○ 「学びの扉」に漫画の形で，教材を通してどのような資質・能力を身に着けることができるか意識できるようになっている。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図表の挿入された教材がある。「クジラの飲み水（1学年）」「フロン規制の物語（3学年）」「フロン規制の物語（3学年）」は，棒グラフとイラスト，分布図が本文とマッチしており，内容理解を手助けするものとなっている。 ○ 棒グラフが挿入された教材が5題ある。 p44「クジラの飲み水（1学年）」「食感のオノマトペ（1学年）」「水田のしくみを探る（2学年）」「フロン規制の物語—〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで（3学年）」「情報社会を生きる—メディア・リテラシー（3学年）」 ○ 分布図が挿入された教材が1題ある。「100年後の水を守る（2学年）」 →水の量によって色分けされている。 ○ 折れ線グラフが挿入された教材が1題ある。 p142「情報社会を生きる—メディア・リテラシー（3学年）」 ● 2学年は本文記述と関連づけがなされた図表が少ない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1学年の「メディアと表現」では，写真と文を関連付けて学ぶ単元がある。 ○ 第2学年の「水の山 富士山」では，写真と図が本文理解の手助けとなっている。 ○ 3学年を通して，多様な視聴覚資料に触れられるようになっており（写真，漫画，絵コンテなど），それが「書く」ことを中心に表現力を高める教材の工夫がされている。 ● 3学年を通して，図表と関連付けて読む教材は少ない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『言葉をもつ鳥，シジュウカラ（1学年）」は，棒グラフと図表が挿入されており，本文理解の手助けとなっている。また，それに続くレポートの単元で，資料の活用について学べる構成になっている。 ○ 「クマゼミ増加の原因を探る（2学年）」では，多種多様な図表が用いられており，「学習の窓」では「図表の効果」や「図表と文章を結び付けて読むこと」について説明がなされているので，本文と図表を関連付けて授業を進められる。 ● 3学年には，本文の理解を手助けするための図表の挿入は見られない。

②巻末資料の示し方

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びを支える言葉の力」では、3年間の学習を系統だてて編集されており、先を見通した学習や既習事項の振り返りがしやすいように工夫されている。 ○ テーマ別表現事例集があり、生徒の各活動やスピーチ等の手助けになる。 ○ 文法は説明と問いがセットになっており、授業の構成がしやすい。また、細かな使い分けが特集されており、紛らわしい文法を押さえる場合は有効。 ○ 説明文や古典を扱ったときに併せて学習できる教材が豊富に設定されており、学習の定着を図ったり、より深めたりするのに活用することができる。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 《読み方を学ぼう》多様な文章の読解のポイントや図式化した読みについて端的にまとめられたものが全学年載せられている。 ○ 文法は、例文を中心に説明が端的でわかりやすい。また、下段に理解が難しい内容について詳しい説明がされており、理解の手助けになる。 ○ 「資料編」は「読書」「情報活用」「古典」などの項目ごとにまとめられており、扱いやすい。 ○ 「学習用語辞典」は項目の末尾に関連の深い教材名やページ数が明記しており、活用しやすい。 ○ 新出漢字一覧は同義語・対義語が記載されている。 ○ 名作紹介が年表の形となっていることで分かりやすい。 ● 「読むこと」の力を高めることに関わる項目がやや少ない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文法は、「考えてみよう」「やってみよう」という問題と説明・解説が柔軟に配列されており、授業にそのまま活用しやすい流れとなっている。 ○ 「学びのチャレンジ」が掲載されていることで、各単元の学びを生かした発展的な学習が可能である。 ○ 単元ごとの読み書き問題が付属しており、生徒の自主学習等への活用が考えられる。 ○ 「言葉の自習室」では、各学年読書作品を4作品掲載している。また、古典に関する知識やレポートの書き方など「書くこと」や模擬面接など「話すこと・聞くこと」に活用できる情報が豊富である。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年ともに、「思考のレッスン」と「情報整理のレッスン」の中で、情報整理や活用の方法が掲載されており、本編で関係のあるページも明記されているので、各単元と関連づけた指導が可能である。 ○ 感想を表す言葉のコーナーがあり、生徒作文の手立てとなり得る。 ○ 表現テーマ例集が充実しており、発展的学習の題材として身近なものが多く挙げられている。 ○ 読書感想文の書き方の詳細については、光村のみ記載されている。（1学年P292） ○ 漢字の補足として四字熟語・慣用句を中心に記載されている。 ● 文法は、1・2学年はその学年で学習する内容を、3学年は復習も含めてまとめる（1学年：17ページ、2学年：17ページ、13ページ ※資料含む）が、用語の解説が多く、授業での活用が難しいと考えられる。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

① 読書と情報活用

読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等
情報活用に関わる内容

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)	
東 書	【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】	
	3 学年合計の書籍紹介数	361 冊
	本編作品後の出展作品やその作家の他の作品，テーマに関する作品の紹介冊数	1～3 冊
	読書単元の設定	3 単元
	読書単元後のテーマ別本の紹介冊数	10～12 冊
	○ 「読書への招待」で扱っている題材が，「平和」「福祉」「国際」など多様で興味を引く。	
	○ 各学年とも，「資料編」に「本の世界に楽しもう」として，様々なテーマごとに分類した書籍紹介を掲載している。	
	第 1 学年	・ 図書館で調べよう ・ 本のポップを作ろう
	第 2 学年	・ ビブリオバトルをしよう
	第 3 学年	・ 読書会を開こう
	【情報活用に関わる内容】	
	第 1 学年	ニュースの見方を考えよう (情報活用) 案内や報告の文章を書こう (書く活動)
	第 2 学年	「正しい」言葉は信じられるか (情報活用) 調べて一枚レポートにまとめよう (書く活動)
	第 3 学年	いつものように新聞が届いた (情報活用)
	○ 各学年「メディア・リテラシー」に関わる単元が設定されている。(1 学年：ニュースの見方を考えよう，2 学年：「正しい」言葉は信じられるか，3 学年：いつものように新聞が届いた)	
● 情報活用について学んだ後，その学習を生かして表現する (書く活動) の設定が少ない。 (資料編の情報活用に関する教材)		
第 1 学年	・ 情報の調べ方	
第 2 学年	・ 取材の仕方 (インタビュー・アンケート)	
第 3 学年	・ 情報の信頼性を高める	

三省堂	【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】	
	3学年合計の書籍紹介数	270冊
	本編作品後の出展作品やその作家の他の作品，テーマに関する作品の紹介冊数	3～4冊
	読書単元の設定	資料編の「読書の広場」として各学年5作品
	読書単元後のテーマ別本の紹介冊数	7～8冊
	○ 巻末に「読書の広場」として，3学年合計で100ページ程度扱っており，「小説」「古文」「随想」「講演録」など多種多様な文章に触れることができるよう工夫している。	
	第1学年	・ブッククラブ
	第2学年	・ビブリオバトル
	第3学年	・ブックトーク
	【情報活用に関わる内容】	
	第1学年	複数の情報を関連づけてまとめる 必要な情報をわかりやすく伝える
	第2学年	複数の情報を関連づけてまとめる 情報を関連づけて根拠を明確に示す
第3学年	複数の情報を関連づけてまとめる 情報の信頼性を確かめて考えを発信する	
○ 各学年ともに，本編に情報活用に関する教材を掲載している。また，それを書く活動とつなげる単元構成となっており，学習の手順もカラー写真などを使い，丁寧に説明されている。 (資料編の情報活用に関する教材)		
全学年	情報探しの方法 引用と著作権	
○ 資料編では，全学年に情報活用に関する教材が掲載されているが，3学年とも内容は全く同じである。		
教出	【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】	
	3学年合計の書籍紹介数	260冊
	本編作品後の出展作品やその作家の他の作品，テーマに関する作品の紹介冊数	単元ごとに10冊
	読書単元の設定	2単元
	読書単元後のテーマ別本の紹介冊数	同じ文豪作家の他の作品1冊
	○ 各学年とも，読書単元「読書への招待」に文豪の1作品を掲載している。1学年「蜘蛛の糸」，2学年「坊っちゃん」，3学年「最後の一句」とともに作品解説と作者紹介を4ページにわたって掲載している。複数の写真や直筆の手紙・原稿，エピソードがあり，生徒の興味を引く作りとなっている。	
	○ 資料編の「言葉の自習室」では読書作品を各学年4作品掲載している。	
	第1学年	・本の帯，ポップづくり ・本の情報を取り出す入り口
	第3学年	・ビブリオバトル ・読書の記録を取ろう
	● 読書活動に関する教材が，第1・3学年の単元三「みちしるべ」において紹介しているが，作業手順は書かれていない。	

【情報活用に関わる内容】 ○ 各学年ともに「メディアと表現」として情報活用に関する教材を3～4つ掲載しており、複数のカラー写真や映画などを取り上げて興味を引く。また、その教材の後に、情報を読み取る活動と発信する活動が設定されており、一連の流れで学べる構成になっている。	
第1学年	「メディアと表現」 <ul style="list-style-type: none"> ・全ては編集されている ・写真で「事実」を表現する ・広告の情報を考える ・漫画で「物語」を表現する
第2学年	「メディアと表現」 <ul style="list-style-type: none"> ・SNSから自由になるために ・脚本で働きを説明する ・映像作品の表現を考える
第3学年	「メディアと表現」 <ul style="list-style-type: none"> ・メディア・リテラシーはなぜ必要か？ ・新聞が伝える情報を考える ・ニュースで情報を編集する

【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】	
3学年合計の書籍紹介数	268冊
本編作品後の出展作品やその作家の他の作品、テーマに関する作品の紹介冊数	1～2冊
読書単元の設定	2単元
読書単元後のテーマ別本の紹介冊数	12～20冊

○読書単元「読書に親しむ」の中に作家による「読書コラム」を1編ずつ紹介している。

第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップを作ろう ・読書掲示板で感想を共有しよう ・読書記録を続けていこう
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介合戦をしよう ・読書ポスターを作ろう ・読みたい本のリストを作ろう
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「本の一冊」を探しにいこう ・読書記録をつける

光
村

【情報活用に関わる内容】
 ○ 各学年ともに、「思考のレッスン」と「情報整理のレッスン」の中で、情報整理や活用の方法を3～4教材掲載されている。
 ○ 情報活用に関する単元の中では、新聞記事等を豊富に用いており、情報活用に関する注意点も掲載している。

第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・情報整理のレッスン「比較・分類」 ・情報を読み取ろう ・情報を集めよう ・情報を引用しよう
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・情報整理のレッスン「思考の視覚化」 ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう ・「自分で考える時間」をもとう ・メディアを比べよう
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・情報整理のレッスン「情報の信頼性」 ・報道文を比較して読もう ・実用的な文章を読もう

○ 資料編には、第1・2学年に情報活用に関する教材を掲載している。	
第1学年	アンケート調査の方法
第2学年	インタビューをする

②言語活動の種類

学習指導要領の各領域に示された言語活動例が具体的に示してあるか。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)													
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の言語活動例が網羅されている。 ○ ①本編の導入「学びの扉」で漫画を使い学習内容を提示。 ②その後に言語活動を設定。上段に学習の手順を、下段に作品例をわかりやすくまとめている。随所に吹き出しの形でポイントを示している。 ③巻末の基礎編「学びを支える言葉の力」で具体例を使いながらトレーニングできる。 ○ 作品例が学習の手順それぞれに示されていて、具体的でわかりやすい。 													
		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>話すこと・聞くこと</th> <th>書くこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年</td> <td>3教材 質問・スピーチ・ グループディスカッション</td> <td>7教材 作詩・レポート・意見文・ 案内文・報告文・物語・随筆</td> </tr> <tr> <td>第2学年</td> <td>3教材 比較して聞く・ プレゼンテーション・ リンクマップによる話し合い</td> <td>4教材 作歌・紹介文・意見文・物語</td> </tr> <tr> <td>第3学年</td> <td>3教材 評価して聞く・条件スピーチ・ 合意形成を目指す話し合い</td> <td>4教材 句会・新聞・批評文・手紙</td> </tr> </tbody> </table>		話すこと・聞くこと	書くこと	第1学年	3教材 質問・スピーチ・ グループディスカッション	7教材 作詩・レポート・意見文・ 案内文・報告文・物語・随筆	第2学年	3教材 比較して聞く・ プレゼンテーション・ リンクマップによる話し合い	4教材 作歌・紹介文・意見文・物語	第3学年	3教材 評価して聞く・条件スピーチ・ 合意形成を目指す話し合い	4教材 句会・新聞・批評文・手紙
		話すこと・聞くこと	書くこと											
	第1学年	3教材 質問・スピーチ・ グループディスカッション	7教材 作詩・レポート・意見文・ 案内文・報告文・物語・随筆											
第2学年	3教材 比較して聞く・ プレゼンテーション・ リンクマップによる話し合い	4教材 作歌・紹介文・意見文・物語												
第3学年	3教材 評価して聞く・条件スピーチ・ 合意形成を目指す話し合い	4教材 句会・新聞・批評文・手紙												
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の言語活動例が網羅されている。 ○ ①本編を例に「読み方を学ぼう」で、端的なまとめを図解で提示。 ②「言葉発見」で言語の基礎知識がまとめられ、問題も設けられている。 ③その後に言語活動を設定。具体例を使いながら学習の手順をまとめている。 ④資料編「社会生活に生かす」で、言語活動を支える学習方法がまとめられている。 ● 言語活動の紙面構成がわかりにくい。 													
		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>話すこと・聞くこと</th> <th>書くこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1学年</td> <td>3教材 グループディスカッション・ スピーチ・編集会議</td> <td>7教材 レポート・随筆・なりきり作文・ リーフレット・作詩・意見文・ 学級新聞</td> </tr> </tbody> </table>		話すこと・聞くこと	書くこと	第1学年	3教材 グループディスカッション・ スピーチ・編集会議	7教材 レポート・随筆・なりきり作文・ リーフレット・作詩・意見文・ 学級新聞						
	話すこと・聞くこと	書くこと												
第1学年	3教材 グループディスカッション・ スピーチ・編集会議	7教材 レポート・随筆・なりきり作文・ リーフレット・作詩・意見文・ 学級新聞												

	第2学年	3教材 グループディスカッション・ プレゼンテーション・編集会議	7教材 手紙・メール・作歌・作句・随 筆・投稿文・創作文・論説文・ 地域情報紙
	第3学年	3教材 グループディスカッション・ パブリックスピーキング・ 編集会議	4教材 課題作文・批評文・紹介文・ 名言集
教 出	<p>○ 学習指導要領の言語活動例が網羅されている。</p> <p>○ ①本編の導入「学びナビ」で学習内容を提示。 ②その後に言語活動を設定。上段に学習の手順を、下段に作品例を示している。</p> <p>● 手順の説明や具体例が不十分であるため、追加の説明が必要である。</p>		
		話すこと・聞くこと	書くこと
	第1学年	5教材 紹介・説明・質問・話し合い 報告	7教材 意見文(2)・案内文・随筆・ 報告文・作詩
	第2学年	5教材 説明・提案・質問・討論	教材6 投書・手紙・意見文・新聞記事・ 物語・作歌
	第3学年	4教材 説明・スピーチ・対話・討論	5教材 説明文・批評文・自己PR文・ 作品集・作句
光 村	<p>○ 学習指導要領の言語活動例は網羅されている。</p> <p>○ ①学習の進め方を簡潔に示す。 ②その後に具体例を示す。</p> <p>○ 全てではないが、本編の導入「情報」に技術や思考の種類を簡潔にまとめ、下段に練習問題を掲載している。</p> <p>● 説明が右ページ、具体例が左ページの構成や具体例が1編のみ、具体例のポイントが簡潔すぎるなど、追加の説明が必要である。</p>		
		話すこと・聞くこと	書くこと
	第1学年	5教材 メモ・スピーチ・質問・発表・ グループディスカッション	7教材 説明文・作詩・案内文・レポー ト・書評・随筆・フリップ
	第2学年	2教材 プレゼンテーション・質問・ 討論・話し合い	6教材 職業ガイド・手紙・電子メール・ 意見文・鑑賞文・物語・壁新聞
	第3学年	4教材 スピーチ・質問・話し合い・ 発表	4教材 修学旅行記・批評文・小論文・ 冊子

種 目 名 (書 写)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

姿勢・執筆法，用具の扱いの示し方

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

見通しを立てたり振り返ったりする学習のための工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

学年に応じた題材や資料が配置されているか。

(4) 内容の表現・表記

手本の字が平明で学びやすいものであり，挿絵や図及び資料が用いられているか。

(5) 言語活動の充実

日常生活に生かされる学習活動が示されているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

姿勢・執筆法，用具の扱いの示し方

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の学習内容をふりかえり，姿勢を正しくして書くために必要なことが示されており，写真（横向き）で捉えられるようになっている。 ○ 毛筆と硬筆の姿勢で気を付けるべき項目が同じ記述であり，写真（正面）で比べられるようになっている。 ○ 毛筆・硬筆の筆や鉛筆の持ち方，用具の名前・置き方，片付け方については写真と説明がある。筆の各部の名称，筆以外の用具の扱い方については墨のすり方と筆の構え方について記述がある。 ○ 鉛筆・筆の持ち方についての説明と写真がある。鉛筆を持った状態がわかりやすいように，鉛筆を横から見たところと鉛筆の先から見たところが示されている。大筆，小筆それぞれの使い方について，写真と説明がある。 ○ 基本の点画の説明にイラストや擬態語を用いて筆の動きを分かりやすく示している。写真で筆の向きを示している。漢字の後に平仮名の筆遣いについての説明がある。 ● 姿勢を正すことや道具をきちんと片付けることの意義が示されていない。 ● 基本の点画の「右上払い」がない。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆・硬筆の姿勢と構え，筆の持ち方について，写真をもとに気をつけることを示している。大筆と小筆の持ち方が写真とともに示しており，二つの持ち方を比較できるようになっている。 ○ 用具の名前・置き方，毛筆の持ち方，硬筆の持ち方，墨の持ち方・すり方，片づけ方は写真とともに記述があり，用具の扱い方については墨のすり方の記述がある。 ○ 硬筆では鉛筆の持ち方について，不適切な持ち方3通りと比較して気づけるように示されている。鉛筆を先から見た所の写真からは，持ち方のポイントも示されている。 ○ 基本的な点画の種類と筆使いでは，穂先の向きと筆圧が分かるよう写真に穂先の形が書き込まれている。 ○ 点画の種類に右上払いがある。 ● 毛筆の姿勢と硬筆の姿勢の間に3ページあり，習得しにくいと感じられる。基本の点画の「点」は三種類あるが，「縦画」は二種類で，払いがない。 ● 点画の種類と筆使いでは，穂先の向きや矢印が白線で示されており，わかりにくい。

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆の基本の姿勢が写真付き（横）で記述されており、気をつける点が明記されており、自分でふりかえられるようになっている。 ○ 用具の置き方、筆の各部の名称、筆のすり方、鉛筆やペンの持ち方、片づけ方について写真を見ながら理解できるようになっている。 ○ 毛筆・硬筆の筆記具の持ち方を写真を見ながら理解できるようになっている。 ○ 姿勢を正し、筆記用具を正しく持って書くことの意義について説明してある。 ○ 基本的な点画の説明で、それぞれの種類の穂先の向きと筆圧が分かるよう穂先の形が書き込まれている。 ○ 筆圧の違いについて線の太さを変えて①②③の三段階で説明してあり、基本の点画のそれぞれにおいても同じように三段階で筆圧のかけ方を説明している。 ○ 基本の点画の「点」が三種類掲載してある。「そり」は二種類ある。 ● 硬筆の姿勢についての写真や説明がない。
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毛筆の姿勢が写真付き（横、正面）で掲載されており、正しい姿勢のポイントが示され、それをチェックできるようになっている。 ○ 用具の置き方、片付け方、筆の各部の名称、筆の持ち方、鉛筆の持ち方について写真を見ながら理解できるようになっている。 ○ 点画の種類では筆圧を三段階で表し、力の入れ方が穂先の形で示されている。 ○ 点画の種類を学習した後、二つの作品に取り組むようになっている、学習したことを確認して書くことで定着することが期待できる。 ● 硬筆は、鉛筆の持ち方のみが取り上げられており、説明も少なく、写真も手先だけのものになっている。姿勢については写真も説明もない。 ● 墨のすり方についての説明がなされていない。 ● 点画の種類については9種類が1ページに説明されている。 ● 点画の種類の「反り」「点」が1種類である。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

見通しを立てたり振り返ったりする学習のための工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「書写で学ぶこと」の部分で、3年間の学習内容と学習の進め方、身に付けたい力が示されており、教科書を用いてどのように学習していくか見通しが立てやすくなっている。 ○ 学習の目標を示し、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の三段階の活動に分けて学習内容や手順が書かれているので、それぞれの段階で何をするのが明確で、見通しを立てやすい。 ○ 「書写のかぎ」で文字を正しく整えて書く原理・原則を確認することができる。 ○ 「生活に広げよう」では、活動の流れが①⇒②⇒③と示されており、見通しを持って取り組みやすい。 ● 「振り返って話そう」で学習の振り返りをするようになっており、「説明しよう」「話し合おう」等と明記されているが、説明したり話し合ったりする手立てが示されていない。 ● 行書の学習では、特徴や書き方や筆の動きは示されているものの、ページが変わるため、実際に書く際の見通しが立てにくい。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめに書写を学習する意義や、自分の文字をよりよくするためにどうしたらよいか述べてあり、活動の見通しが持てる。 ○ 単元の基本構成をもとに、学習の流れが示されているので、見通しを立てやすい。 ○ 毛筆は、見開き2ページで構成されており、すべての教材に学習目標と振り返りがある。教材の冒頭の「書き方を学ぼう」では、書き方のポイントを取り上げ、各教材で学習すべき内容がひとめでわかる。 ○ 教材冒頭の「書き方を学ぼう」は学習内容が順番に示されており、その教材で何を学習するのが明確になっている。また、「どこに気をつけて、どのように書けばよいか」について、具体的な字形例とともに書き方のポイントが示してある。習得すべき書き方のコツを明確に捉えられる。 ○ 硬筆の教材には、学んだことを書き残すスペースがある。 ● 単元の基本構成は7項目からなるが、すべての課題で行うものではないため。見通しが立てにくい。また、項目の言葉がイラスト(記号)で示されているためわかりにくい。 ● 学習の振り返りの項目は目標を踏まえた内容になっているが、どのように評価するのが示されていない。また、直接書き込めないので指導者が自己評価表等を準備することになる。 ● 基礎編と資料編の関連性が明記されていない。

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次がわかりやすく、3年間の学習の見通しが持て、各学年の学習内容をとらえやすい。 ○ 書写学習の構図が木のイラストとともに示されている。 ○ 目次の次の「目的に合わせて書こう」では書写を学ぶ意義が詳しく述べられている。また、「誰に書くか」「何を書くか」「何を使って書くか」「どのように書くか」についての説明もあり、相手、書く内容、用具、方法がわかり、必要な場面に応じて書くことの大切さについて示されているので、学習と実生活とのつながりがとらえやすい。 ○ 「目標」→試し書き→「考えよう」→「生かそう」→まとめ書き→「振り返ろう」の学習手順を示し、基礎・基本の習得場面から学習や日常生活への活用場面を考える、つながりのある学習になっている。 ○ 書写の学習を通してつきたい力が木の幹や枝葉に表現されている。 ○ 学習の振り返りの項目が目標を踏まえて簡潔に示されており、自己評価や相互評価が可能。(できた○・もう少し△)教科書に記入できる。 ○ イラストで、既習内容を思い出させたり留意点を確認させたりするような工夫があり、見通しをもって学習を進めやすくなっている。 ○ 手本に中心線や補助線、筆順があり、これらを手掛かりに書くことができる。
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「さあ、書こう」では三年間の書写の目標が明記されており、目次に「三年間の目標」や基本的な学習の流れが掲載されている。中学校三年間の学習の見通しが持てるようになっている。 ○ 三年生では、「三年間のまとめ」があり、三年間で学習した内容を振り返られるようになっている。 ○ ①考えよう⇒②確かめよう⇒③考えようで活動の流れをわかりやすく示され、学習のポイントをまとめた「学習の窓」があることで、見通しをもって取り組める。 ○ 学習の振り返りは項目がわかりやすく示されており、到達度を振り返りやすい。 ○ 「日常に役立つ書式」「中学生のための漢字辞典」「書初め」では、学習したことを生かしたり、日常生活に役立ったりする内容になっており、学んだことをもとに学習を深めていく内容になっている。 ● 書初めを除けば3年の手本が二つしかない。 ● 学んだことを生かして取り組む活動は多いが、既習事項との関連がわかりにくく、学習のつながりが感じられない。 ● 学習の振り返りが、できたかできないかをチェックするようになっているが、生徒が自分でチェックするためにはもう少し明確な基準が必要である。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

学年に応じた題材や資料が配置されているか。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)	毛筆の手本数 硬筆のページ数 (練習ページ)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校書写との関連や高校書道へのつながりがわかる構成になっている。 ○ 言語活動と関連した「生活に広げよう」は、基本単元で身につけた知識・技能を生活に生かす単元となっている。1年生では「案内の手紙を書こう」「年賀状を書こう」「職場訪問をしよう」2年生では「本のポップを書こう」「防災訓練に参加しよう」3年生では「思いを文字で表そう」(卒業に向けた作品作り)が設定されている。国語や他教科の学習に合わせて学習できる。 ○ 文字文化コラム「文字のいずみ」は、学年に応じた題材を扱っており、文字の歴史や用具用材を作っている伝統産業の紹介や、文字絵や中国古典の書が掲載されている。3年生の「仕事の中の手書き文字」は、将来の自分と文字との関わりを考える内容になっている。 ○ 学年ごとに、学習のまとめとして、短い「書写テスト」がある。 ○ 巻末の「書写活用ブック」に、「常用漢字表」として常用漢字 2,136 字の楷書と行書を掲載している。 ○ 「人名漢字」一覧も掲載しており、名前の指導に使いやすい。 	<p>1年 毛筆 6 硬筆 18 (7)</p> <p>2年 毛筆 6 硬筆 14 (5)</p> <p>3年 毛筆 2 硬筆 6 (1)</p>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校書写との関連や高校芸術科書道へのつながりがわかる構成になっている。 ○ 1年時の自分の字と3年時の自分の字を並べて書き、教科書の学習の初めと終わりでどのように成長するのか確かめられるようになっている。 ○ 各学年に1単元ずつ「やってみよう」があり、1学年では「グループ新聞を作ろう」2学年では「情報誌を作ろう」3学年では「名言集を作ろう」という学年に応じた言語活動が設定されている。 ○ 1学年では、「文字の変遷」が紹介されており、古文の仮名文学の学習と関連する。 ○ 2学年では、47都道府県名の硬筆書写があり、地方の特産品の紹介と行書をなぞる学習活動がある。 ○ 3学年の「身のまわりの文字」では、手書きや活字による伝え方の変遷を扱っており、文字に関わる仕事について紹介している。 ○ 巻末に楷書・行書一覧表がある。 ● 毛筆手本数が少ない。 ● 3年の毛筆については、書き初め以外は「生活に生かそう」の中に示されている小さいものしか手本がない。 	<p>1年 毛筆 6 硬筆 14 (12)</p> <p>2年 毛筆 4 硬筆 10 (8)</p> <p>3年 毛筆 1 硬筆 2 (0)</p>

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校書写で学習する基本の点画が、復習できるようになっている。3年生では高校書道への接続を図る「芸術としての書道」が設けられている。 ○ 書写を学ぶ意義として、初めの扉のページで目的・相手・方法を必要な場面に応じて書くことの大切さ、身につける力について示されているので、学習と実生活とのつながりがとらえやすい。 ○ 硬筆の教材には、「竹取物語」「走れメロス」「枕草子」「平家物語」「奥の細道」など、国語の教科書と関連した文学作品が掲載されている。学年に応じて、国語と関連した学習計画が立てやすい。 ○ 「補充教材集」として毛筆の補充教材が11教材示されている。また、「個」に応じた学習にも対応できるよう、2・3学年には「発展」教材として高校書道につながる「短冊と色紙」「古典書道」などが設けられている。 ○ 「小学校で学習した漢字一覧表」「中学校で学習する漢字一覧表」によって2,136字の楷書と行書が掲載されている。掲載順は部首によるもので、字形の似た漢字を確認したり、部首を組み合わせで掲載されていない漢字を書いたりすることが可能である。 	<p>1年 毛筆7 硬筆10(6)</p> <p>2年 毛筆5 硬筆10(8)</p> <p>3年 毛筆3 硬筆3(1)</p>
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しを持つための目標と、学習したことを振り返り次の学習に生かすための項目が示されている。 ○ これまでの学習を確認しながら課題に取り組むことで、3年間のまとめ(振り返り)ができる。 ○ とじ込みの「書写ブック(硬筆練習帳)」が用意され、毛筆教材の字形の特徴と同じ学習要素がある硬筆課題が設定されている。硬筆の練習課題が豊富である。 ○ 1学年の行書の学習においては、文字を速く書いてみたり楷書と行書を並べて比べたりすることで、学習者自身が行書の特徴に気づき理解するように構成されている。 ○ 「資料」として「日常に役立つ書式」を掲載。手紙の書き方・はがき・送り状・願書・のし袋・原稿用紙の使い方など、生活に用いる書写をまとめている。総合的な学習の時間と関連付けて活用したり、学年や段階に応じて取り上げたりすることができる。 ○ 巻末の「中学生のための漢字字典」には、常用漢字と人名用漢字を楷書と行書の硬筆で掲載している。 ○ 楷書・行書に調和する平仮名・片仮名・数字・アルファベット、部首別行書一覧を硬筆で掲載している。 ○ 47都道府県名の硬筆書写があり、行書で練習する学習活動がある。 ● 3年の手本数が少ない。 	<p>1年 毛筆7 硬筆12(11)</p> <p>2年 毛筆5 硬筆12(10)</p> <p>3年 毛筆2 硬筆8(4)</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

手本の字が平明で学びやすいものであり、挿絵や図及び資料が用いられているか。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙面はA B判で従来の大きさより横にやや広い。 ○ 朱と黒の二色の淡墨で筆跡が写真で示されているので、わかりやすい。 ○ 中心線や補助線も色を変えて示されている。 ○ 単元の初めに原寸サイズの大きな手本があり、平明な文字で示されている。 ○ 行書を書くときのポイントを4つの動き(二, 十, 口, 人)にしぼって示している。 ○ 手本には、書くときのポイントが「書写のかぎ」として示されており、何に留意して書けばよいのか一目で分かるようになっている。 ○ 「文字のいずみ」や「生活に広げよう」などでは、作品例や手本、資料として写真やイラストが多用され、興味をもてるようになっている。 ○ 毛筆基本單元には、インターネットを使って見ることができる動画があり、Dマークで示してある。学習に役立つデジタルコンテンツもあり、個別家庭学習にも対応できる。 ● ページの情報量が多く、図やふき出しがあちこちにあるため、少し雑多な印象。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「書き方を学ぼう」では、どこに気をつけてどのように書けばよいか、具体的な字形とともにポイントが示されている。 ○ 各教材が見開き2ページに掲載され、統一されている。朱の淡墨で書かれた文字で筆跡を確認することができる。 ○ 書き方のポイントが必要な事だけにしぼられており、ひとめで学習内容がわかるようにすっきりしたレイアウトになっている。 ● 課題となる文字の書き方のポイントが、簡潔に示されておりわかりやすいが、手本に中心線や筆順、字形のバランスなどは示されていないため、手本に書きこんだり実演を見たりする必要がある。 ● 3学年の学習内容には、「名言集を作ろう」の例しか大きい毛筆手本がない。 ● デジタルコンテンツや運筆動画の資料がどれくらいあるのか不明。(姿勢と構え方のページにのみ、「二次元コード」がある。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙面はA B判で従来の大きさより横にやや広い。 ○ 手本の文字はやや細めで平明である。大きさは、半紙形をイメージしたものになっている。 ○ 手本の左ページに学習内容や字の配列や字形、筆順などが示されており、見開きで書き方を確認できるようになっている。 ○ 朱と黒の二色の淡墨で筆跡が写真で示されているので、わかりやすい。中心線や字形を示す補助線も手本と同じ見開きページにあり、指導に役立てやすい。 ○ 「行書の筆使い『大』」では行書の筆使いを二色の淡墨の写真で示し、行書の筆の動きを丁寧に確認できるようになっている。 ○ 生徒の写真と先生のイラストが多く使われており、吹き出しなどで学習のヒントを

	<p>示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学習を生かして書く」などの活動の紹介には大きめの写真が用いられ、例として挙げられている写真も多い。活動の手順や留意点が簡潔に文で示されている。 ○ 学習に役立つ情報を集めたウェブサイト「まなびリンク」が紹介されている。ここでは、運筆動画を見ることができる。
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朱と黒の二色の淡墨で筆跡が写真で示されている。筆順の数字はない。運筆のポイントが添えられている。 ○ 手本は半紙原寸大で掲載されており、参照しやすい。書き方のポイントは手本のページにはないので、前ページの学習内容を振り返りながら書く必要がある。 ○ 生徒や書道の用具がやさしいイラストで描かれ、吹き出しでヒントを示している。 ○ 「学習の窓」で学習のポイントやヒントなどを示している。 ○ 「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の流れで学習活動に取り組むよう統一されており、わかりやすい。 ○ 書き方のポイントは、重要事項が大きく示されており、読みやすいレイアウトになっている。 ○ 文字のおもしろさを感じるためのコラムが各学年に設定されており、イラストや写真など視覚的な資料が多く用いられている。 ○ 運筆動画や姿勢、用具の持ち方などの動画コンテンツが用意されている。教科書に読み込むための「二次元コード」があり、個人で学習することができる。 ● 手本に中心線や字形のバランスなどは示されていないため、手本に書きこんだり実演を見たりする必要がある。 ● 3年の手本は、3年間のまとめとして2つのみが示されている。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

日常生活に生かされる学習活動が示されているか。

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末に、「書写活用ブック」(全32ページ)を配置し、教科の学習や日常生活でよく使う書式をまとめている。手紙、新聞、リーフレット、レポート、原稿用紙、入学願書、電子メールなどの書き方を紹介している。 ○ 「生活に広げよう」のページが各学年に設定されており、書写で学習したことをどのように実の場で活用するのかを、話し合う活動例が設定されている。 ○ 書写の学習をどの場面でどのように生かすのか、具体的に考えて書きこむようになっているので、実際に実施しやすい。 ○ 「生活に広げよう」のページ <ul style="list-style-type: none"> 1年生:「案内の手紙を書こう」「年賀状を書こう」「職場訪問をしよう」 2年生:「本のポップを書こう」「防災訓練に参加しよう」 3年生:「思いを文字で表そう」(卒業に向けた作品作り)
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「書いて身につけよう」では、毛筆で書いて習得したことを硬筆でも書くことができるように、書き込み欄を多く取ってある。鉛筆でなぞり書きしてから練習できるので、字形を取ることが難しい生徒にも効果的である。 ○ 学校で使う言葉や、四字熟語なども硬筆で練習できるようになっている。 ○ 巻末の「資料編」には、「日常の書式」として便箋と封筒、はがき、手紙、送り状や願書、原稿用紙の書き方などが簡潔に示されている。大きいレイアウトで読みやすい。 ○ 巻末の「資料編」の「書写の広場」には、毛筆の用具の紹介、楷書・行書一覧表、平仮名・カタカナ・数字・アルファベット・毛筆補充教材が掲載されている。 ○ 「やってみよう」の単元が各学年に一つずつ設けられており、1学年では「グループ新聞を作ろう」2学年では「情報誌を作ろう」3学年では「名言集を作ろう」とそれぞれ言語活動が示されている。 ● 言語活動の作品例や書き方の手順などが簡潔に示されているが、具体性に欠ける。見開き2ページにまとめられているので、詳しい説明となっていない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写学習で習得した能力を他の教科の学習や社会生活に活用できる教材が、各学年に設定されている。1学年では、レポート作成、手紙、本の帯、ポップ、ポスターなどを、大きめの作品例や写真で分かりやすく示している。2学年では、新聞作り、案内文、報告文、掲示物などの言語活動例を豊富な写真で示している。3学年では、「多様な表現による文字」で表現方法について学び、「3年間の学習の成果を生かそう」で、メッセージカードづくりや未来の自分への手紙作成などに生かせるようになっている。 ○ 「学習を生かして書く」課題が單元ごとに設定されており、身につけた力をすぐに確認して活用できるようになっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「書式の教室」として巻末に、手紙、はがき、往復はがき、のし袋、エアメール、原稿用紙、ノート、メモ、志願理由書、送り状の書き方が掲載されている。 ○ 「情報を整理して活動につなげよう」では、思考ツールや表、三点ロジックの書き方など、情報の整理の仕方があり、言語活動に役立てられる。
光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の冒頭には、文字の特徴や書き方のポイントを生徒が考えたり話し合ったりする活動を位置づけ、言語活動をととして文字の書き方の理解を深めることができるようになっている。 ○ 巻末「資料」に「日常に役立つ書式」を掲載。手紙の書き方・はがき・送り状・願書・のし袋・原稿用紙の使い方などが例示されており、日常と書写のつながりを意識できるようになっている。 ○ 「文字を使い分ける」の単元は主に2・3学年で扱うが、「デザインと文字を考えよう」「全国文字マップ」「ユニバーサルデザイン書体って何だろう」など、生活の中で文字が多様な表現で示され役割をはたしていることを考えさせる教材になっている。 ○ 学校生活や日常生活でも活かせる書写を分かりやすく紹介している。 1学年では「目標を書こう」2学年では「行書を活用しよう」「デザインと文字を考えよう」などが取り上げられており、作品例が示されている。書き方の説明は非常に簡潔で、補足が必要である。 ○ 国語教科書と連動させて学習する教材が多くあり、国語と一体的に扱うことで、単元全体の配当時数に余裕をもつことができる。1学年にはないが、2学年では「行書を活用しよう」「壁新聞を作ろう」3学年では「冊子にまとめよう」が掲載されており、全学年に「季節のしおり」として国語教科書の古典や短歌・俳句を書く教材が掲載されている。 ● 作品例は豊富だが、説明はあまりない。

種 目 名 (社会【地理的分野】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や单元ごとの内容が適切であるか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点② 課題を明確にしたうえで、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を身に付けることができるような内容となっているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点③ 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

視点④ 内容の表現・表記は、資料等を有効に活用し、生徒にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点⑤ 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現する力を育てる工夫がなされているか。

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的技能を身に付ける「スキルアップ」コーナーが随所に設けられている。(p 5に一覧表がある。) ○学習課題を解決するために、項の学習の最後(見開き2ページの下部)に課題が設定されており、「チェック」で基礎的・基本的な内容を確認したのち、「トライ」で発展的な学習ができるよう工夫されている。(p 9, 11, 13, 17など) ○編や章で学習した基礎的・基本的な知識や技能を確認できる「基礎・基本のまとめ」を編や章ごとに設けている。(p 32, 53, 72など) ○縮尺と実際の距離, 断面図の作り方, 2万5千分の1と5万分の1の地形図が同一ページで比較できるなど, 地形図の内容が充実している。(p 144-147)
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○作業を通して地理的技能(地図, グラフなど資料の扱い方)を身に付ける「地理の技」が8か所設けられている。(p 11, 15, 17など) ○学びリンクでデジタル情報へのアクセスを案内している。(p 5) ●世界や日本の面積や人口を表すグラフがアジア州のページ(p 50)に掲載されているだけで, 他の地域の学習ページには掲載されていない。 ●写真資料の色彩が他者と比べて暗い。(p 155扇状地, 三角州など) ●尾根と谷の模式図が示されていない。(p 138-139)
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭ページに学習の仕方や地理的な見方・考え方について, どのような視点を持ってばよいか示されている。(巻頭1~7) ○単元の初めのページに二次元コードがあり, スキャンするとその地域の動画を見ることができ, 学習単元へのイメージをもちやすい。(p 84など) ○「技能をみがく」でグラフの作り方など細かく示してあり, 資料が鮮明で読み取りやすい。(p 45-46など) ○縮尺と実際の距離の関係, 断面図の作り方, 2万5千分の1と5万分の1の地形図が見開きのページにあるなど, 地形図の内容が充実している。(p 134-137) ●節末に学習の振り返りコーナーがあり, 地図を示した問題は二次元コードにアクセスすれば解答を確認できるが, 語句等の説明については, 解答の確認ができない。(p 64など)

日 文	<p>○巻末地理の学習を進めるにあたり必要な技能を，6種類に整理し，系統立てて習得できるよう「スキルUP」を設けて詳しく解説している。(巻頭Ⅶ，p4，26など)</p> <p>●2万5千分の1の地形図のみで，他の縮尺がなく比較できなかつたり断面図の作成部分が小さくて作業しにくかつたりする。また，尾根と谷の模式図が示されていない。(p122-125)</p> <p>●巻末に用語解説のページはあるが，本文横に語句の注(解説欄)がない。</p>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○各章の最初のページに「小学校の社会で習ったことば」が示されており、小学校での学習内容を想起させるよう配慮している。</p> <p>○「地理にアクセス」のコーナーを設けて、生徒の興味・関心を喚起し、生徒の主体的な学びを促している。(p12など)</p> <p>○各章の終わりに、探究課題を追究し解決するコーナーが設けられており、クイズ作りなど楽しみながら生徒が自主学習できるよう工夫されている。(p19, 31など)</p> <p>○地域に特徴的な資料を取り上げ、読み取ったり考えたりすることで、その地域の理解を深め、資料を読み取る力を身に付ける「資料からの発見」が設定されている。(p71など)</p> <p>●各頁に設けられている「考える」「見方・考え方」「トライ」の中に教科書の内容だけでは生徒が答えにくいものがある。(p205など)</p>
教出	<p>○章のはじめに「まなびリンク」のコーナーを設け、二次元コードを読み取ると学習単元の様子を見ることができるよう工夫している。(p47など)</p> <p>○学習への導入資料や追究していくヒントになるような資料を「LOOK!」として紹介するなど生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。(p42など)</p> <p>○節の中には「読み解こう」のコーナーを設け、生徒が自主的に学習できるよう工夫されている。(p23, 43, 71など)</p> <p>○ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載され、生徒の主体的な学びを促している。(p46, 81, 105など)</p> <p>●「読み解こう」の課題の中には教科書を調べるだけでは答えるのが難しいものがある。(p223①など)</p>
帝国	<p>○主体的な学びを促すために、章・節を貫く問い(学習課題)が設定されており、生徒が学習への見通しを持ちやすい。(巻頭5, p2, 14など)</p> <p>○二次元コードを読み取ると、学習の仕方が示されるため、学習をすすめやすい。(p12など)</p> <p>○節末に「地理的な見方・考え方を働かせて説明しよう」や節のテーマに関わって思考力・表現力・判断力を問う発展的な内容が掲載され、主体的な学びを促している。(p13, 25, 44など)</p> <p>○「日本の諸地域」の冒頭ページには親しみやすいイラスト地図があり、小学校の既習事項も含まれているなど生徒の興味関心を引く工夫がなされている。</p> <p>●「学習を振り返ろう」の課題の「ステップ3(発展)」は生徒が教科書だけでは答えるのが難しいレベルの高いものもある。(p107など)</p>

日 文	<p>○内容の導入になる資料と問いを設けて学習課題につなげ、生徒の主体的な学びを促している。(巻頭Ⅵ, p2, 4, 6)</p> <p>○ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されており、生徒の主体的な学びを促している。(p57, 71, 81など)</p> <p>○単元の導入での見開き2ページで、生徒に興味をもたせるキャラクターの吹き出しやクイズ等が掲載されている。(p44, 58, 82など)</p> <p>●「チャレンジ地理」で自分の意見をまとめさせる設定になっているが、生徒が自主学習するには難しい内容が含まれている。(p94など)</p>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○巻頭の 2 ページを使い、学習のすすめ方や各コーナーについての説明がある。</p> <p>○各章の冒頭には、小学校の社会で習ったことばがキャラクターによる会話形式で示され、編や章の学習を貫く「探究課題」につながる工夫がなされている。(p 4, 6, 33など)</p> <p>○日本と同じ緯度、経度の国々、時差を学習した後で、日本の領域まで学んでから「世界のさまざまな地域」の学習に入る構成である。</p> <p>○編・章の学習を貫く「探究課題」を設定し、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという 3 つの流れで構成し、探究的な学習活動を仕組んでいる。(p 4, 5)</p> <p>○防災のページが 4 ページ、日本の諸地域で 6 ページ設けられている。</p>
教出	<p>○巻頭に学習の仕方や地理的な見方・考え方とはどのような視点なのか、地理的分野の学習の全体像を見通すページが 4 ページ分設けられている。</p> <p>○節の初めの示された学習テーマが「アジアではなぜ経済が発展したのだろうか」のように分かりやすい表現で示されている。</p> <p>○巻末に用語のページがある。(p 282-287)</p> <p>○防災のページが 4 ページ、日本の諸地域で 5 ページ設けられており、災害から身を守る災害予測などを取り上げている。</p> <p>●日本と同緯度、同経度の国々の扱いがなく、その学習をしないまま時差の学習に入ったり、日本の領域の学習に入ったりする構成になっており、理解しづらい。</p>
帝国	<p>○「技能をみがく」コーナーでグラフの作り方や資料の読み取り方など丁寧に記載されている。(p 45-46)</p> <p>○防災のページが 6 ページ、日本の諸地域で 5 ページあり、「技能をみがく」コーナーではハザードマップの読み取り方や防災情報の入手の仕方など生活に生かせる工夫がされている。</p> <p>○導入では、驚きや疑問のある資料を設定して興味・関心を高め、学習課題につなげている。「確認しよう」「説明しよう」のコーナーを設けて、振り返る活動が行えるよう工夫している。(巻頭 5, p 2, 3 など)</p> <p>●巻末に用語解説も統計資料もないため、本書だけでは用語についての理解、学習に必要なデータの検索や比較が難しい。</p> <p>●資料が豊富で色使い等わかりやすい資料が提示されているが、1 単位時間で扱う内容の紙面を半数以上占めるページもある。(p 14-15 など)</p>

日 文	<p>○日本の位置と同緯度、同経度の国を学習し、時差の学習、日本の領域、領域をめぐる問題、日本の7地方と都道府県を経て、世界の学習に入る構成になっており、わかりやすい。</p> <p>○巻末に用語解説が設けられている。(p 280-283)</p> <p>○領域をめぐる問題については、北方領土付近の国境の変化についてもわかりやすく地図で提示されている。(p 18)</p> <p>○防災のページが8ページあり、日本の諸地域で9ページ設けられており、災害への備えやハザードマップの使い方など取り上げている。</p> <p>●単元のまとめのページが穴埋め問題と、発展的学習としての「アクティビティ」コーナー (p 105など) で構成されているが、基本事項と発展的な内容のつながりあまりない。</p> <p>●身近な地域の調査のページ (p 118-137) が20ページにもわたって丁寧に示されているが、配当授業時数内で扱うのは難しい。</p>
--------	--

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○本文の文字（地の文の字体，太字の字体）が読みやすい文字濃度で，写真やグラフ等資料の色使いが鮮明である。</p> <p>○「世界の諸地域」では，各節最初の見開きで，その州の特徴的な写真（1 ページ分）とその位置が地図に掲載されている。（p100 など）</p> <p>○「世界の諸地域」では，アジア州やヨーロッパ州など，各州の降水量と人口密度を表す地図のすぐ下に雨温図があり，どの州も同じ配置で構成されているため，比較しやすい。（p58 など）</p> <p>○章末のまとめの「用語を説明しよう」には，それぞれの用語に対して教科書での掲載ページが示されているため，既習事項を確認しながら振り返ることができる。</p> <p>○「日本の諸地域」の学習の進め方について，地域の特色をとらえる視点がカテゴリー一別に示され，7 地方の学ぶ視点を示す一覧表がある。（p184）</p> <p>○「日本の諸地域」では，地形図のすぐ下に雨温図が掲載されているため，関連付けて考えることができる。（p198）</p>
教 出	<p>○本文の文字（地の文の字体，太字の字体）が読みやすい文字濃度である。</p> <p>○見開き 2 ページの学習内容と関連する単元がページ下に記載されている。（p51 など）</p> <p>○教科書中央部分に折り込みの「地図を活用しよう①～④」があり，生徒の興味関心を引く工夫がされている。</p> <p>●気温と降水量を表す地図と雨温図が，別ページに記載（p94, 95）されているものがあり，関連付けて考えにくい。「日本の諸地域」の雨温図は縦に配列されていたり大きさの違う雨温図が 3 つ並んでいたりする（p31）等，配置や構成が統一されておらず比較して考えづらい。</p> <p>●世界編「地域から世界を考えよう」，日本編「現代日本の課題を考えよう」のページが設定されてはいるが，文章中心で生徒の興味関心を引きにくい。</p> <p>●各地の暮らしを取り上げる際，地球上の位置が示されているが，地球の絵が小さく，国の位置がわかりにくい。（p32, 34, 36 など）</p>

<p style="text-align: center;">帝 国</p>	<p>○「やってみよう」のコーナーがあり、見開き2ページで学習した内容を確認できるよう工夫されている。(p18など)</p> <p>●本文の文字濃度(地の文の字体, 太字の字体)が他者より濃く読みにくい。</p> <p>●「世界の諸地域」では, 各節最初の見開きで, その州の特徴的な写真が掲載されているが, その写真の位置を示す地図が他者と比べて小さい。(p94など)</p> <p>●「日本の諸地域」では, 地形図と別のページに雨温図が掲載されているので, 関連付けて考えにくい。(p191)</p> <p>●行間に関連する解説マークやページ数などの情報が他者と比べて多く, 本文に集中しづらい。(p158-159など)</p>
<p style="text-align: center;">日 文</p>	<p>○各章の冒頭に導入見開きが設けられており, 写真や資料, それらに関わるクイズなど生徒の興味関心を引く工夫がなされている。</p> <p>●本文の文字濃度(地の文の字体, 太字の字体)が, 他者より濃く読みにくい。</p> <p>●「世界の諸地域」では, 各節最初の見開きで, その州の特徴的な写真が掲載されているが, その写真の位置を示す地図が他者と比べて小さい。(p82など)</p> <p>●地形図及び人口密度を表す地図と雨温図の掲載位置が離れているため, 関連付けて考えにくい。(p84, 180など)</p> <p>●地域の調査で, 2万5千分の1地形図と5万分の1地形図が別のページに掲載されているため, 比較しづらい。</p> <p>●掲載されている地図の平野と山地の色の濃淡が薄く, 読み取りにくい。(p140など)</p> <p>●ページの余白部分が他者に比べて目立つページがある。(p188, 3, 8, 10など)</p>

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○「みんなでチャレンジ」のコーナーでは、他者との協働学習から学ぶことができるよう課題が設定されており、各章末での「○○の学習をまとめよう」や「探究課題を解決しよう」のコーナーで、調べたり考えたりしたことを自分の言葉でまとめる学習が設定されている。(p18-19, 86-87など)</p> <p>○「見方・考え方」「地理にアクセス」などのコーナーが設けられ、これらを通して調べ方や学び方、考え方などを学ぶことができる。</p> <p>○調査結果をレポートにまとめて発表する際、7つの手順(p141下部)を意識させるとともに、図、地図、表、AR技術などを入れることで内容を伝えやすくするための例を示している。(p140-155)</p> <p>●各項に設けられている「考える」「見方・考え方」「トライ」の中に、教科書の内容だけでは生徒が答えにくいものがある。(p67, 205など)</p>
教 出	<p>○調査結果をレポートにまとめて発表する際、6つの手順(p134下部)を意識させるとともに、地図、表、グラフなどを入れることで内容を伝えやすくするための例を示している。(p133-146)</p> <p>○本文の流れに即して、各所に「読み解こう」のコーナーが設けられ、具体的に資料を読み取りながら考える学習活動を行うことができる。</p> <p>●編や章の終わりの「学習を振り返って整理しよう」では、「ワードチェック」コーナーが設けられているが、語句数が多く、生徒にとって難しい。(p46など)</p> <p>●章末に学習のまとめと表現のコーナーがあるが、「意見を交換しよう」の課題の中には、教科書の内容だけでは表現しにくいものや、具体的に何について話し合えばよいのかわかりづらいものがある。(p172, 243など)</p>
帝 国	<p>○章、節の末尾にある「学習を振り返ろう」では、章(節)の問いの答えの説明や地域の特色に対する考察ができる。説明する際に使用する語句も具体的に示されており、考えやすい。(p13, 184など)</p> <p>○各項に「説明しよう」のコーナーが設けられ、毎時間授業後に生徒が取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>●調査結果をレポートにまとめて発表する際、4つの手順(p130下部)についてのみ説明となっている。(p130-141)</p> <p>●各項の「説明しよう」に対する模範解答がなく、生徒が自主学習した場合の答え合わせが難しい。</p>

日 文	<p>○「世界の諸地域を振り返ろう」で、生徒が気になった地域や国を調べるとい うページが設けられ、まとめ方のヒントやアドバイスが記載されている。</p> <p>○ヨーロッパ州や北アメリカ州の章末には「チャレンジ地理」コーナーで時事問 題（イギリスのEU離脱、シェールガスと環境問題）を取り上げ、自分の意見 を書かせる内容になっている。</p> <p>○調査結果をまとめて発表する際、7つの手順（p119上部）を意識させ、地図、 グラフ、表、写真などを入れることで内容を伝えやすくするための例を示して いる。（p118-137）修学旅行で訪れる学校が多い京都市（伏見区）の地形図や写 真等の資料が一貫して取り上げられているため、修学旅行の取組とも関連付け やすい。</p> <p>●「世界の諸地域」での各州のまとめのページに、言語活動を含んだもの（文章 で書かせるなど）がない。</p>
--------	--

種 目 名 (社会【歴史的分野】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や単元ごとの内容が適切であるか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 生徒が課題を発見し、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を働かせて考えることを促す工夫がなされているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記は、資料等を有効に活用し、生徒にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現する力を育てる工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

新書名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○「歴史へのとびら」で小学校での歴史学習の振り返りをしている。(P 7) ○「歴史をとらえる見方・考え方」を設け、時期や年代の表し方、歴史の流れのとらえ方やまとめ方の説明がある。(P 8～17) ○小单元ごとに色づけされた年表が、ページ下に配置してあり、時代感覚を捉えやすい。 ○巻末には、各ページの用語解説を補足するための「解説・さくいん」と「人名さくいん」と「事項さくいん」がある。 ○新出の重要事項や重要語句を太字で示している。 ○章末に「基礎・基本のまとめ」で学習の振り返りをしている。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○「教科書の使い方」で、各章の構成と学習の流れを説明している。(Ⅱ) ○「歴史すごろく」で小学校での歴史学習の振り返りをしている。(P 2～3) ○章単元の見出しの上に学習する単元の年代が小单元ごとに色づけされた年表があり、時代感覚を捉えやすい。 ○巻末に「人名さくいん」と「事項さくいん」があり、本文中に太字で掲載しているものは太字のページ番号で示している。 ○新出の重要事項や重要語句を太字で示している。
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○「歴史をたどろう」で小学校での歴史学習の振り返りをしている。(第1部) ○「歴史のとらえ方と調べ方」を設け、歴史の流れと時代や調べ方やまとめ方の説明がある。(P 2～12) ○小单元ごとに色づけされた年表が、ページ右に配置してあり、時代感覚を捉えやすい。 ○巻末に「人物さくいん」と「事項さくいん」があり、小学校で学習した人物、政治に関係のある人物、国際交流に力を尽くした人物など詳細なマークが付してある。 ○新出の重要事項や重要語句を太字で示し、ふりがながふられている。
山 川	<ul style="list-style-type: none"> ○新出の重要事項や重要語句を太字で示し、ふりがながふられている。 ○1章1節「私たちと歴史」で、年代区分や時代区分の表し方の説明がある。(P 5～7) ●「この教科書の使い方」では、ページ半分を使い指示やマークの意味について説明をしているが、章の構成等の説明がない。(P 4) ●小学校で学習した人物4名を取り上げているが、歴史全体の流れに沿って取り上げていない。 ●小单元ごとに色づけされた年表はなく、各章の始めに年表を掲載している。 ●巻末に「人名さくいん」と「事項さくいん」はあるが、重要語句などの表記はない。

日 文	<p>○「教科書の構成と使い方」では、導入ページ、本文ページ、チャレンジ歴史、学習の整理と活用へと使い方を説明している。(P 4～5)</p> <p>○「小学校で学んだ主な人物と文化遺産」で小学校での歴史学習の振り返りをしている。(P 6～8)</p> <p>○小单元ごとに色づけされた年表が、ページ右に配置してあり、時代感覚を捉えやすい。</p> <p>○「人名さくいん」と「事項さくいん」があり、各ページに記載されている重要語句のページ番号を赤字で表している。</p> <p>○新出の重要事項や重要語句を太字で示している。</p>
育 鵬 社	<p>○「歴史の流れをふり返ろう」で小学校での歴史学習の振り返りをしている。(P 8～9)</p> <p>○「人名さくいん」と「事項さくいん」があり、人名も事項とも、小学校で学習した人物にマークが付してあったり、学習の重要人物や重要事項を太字で表したりしている。</p> <p>○新出の重要事項や重要語句を太字で示している。</p> <p>●「この教科書の使い方」では、学習の流れ、マークや表記について説明をしているが、章の構成等の説明が文章のみで記載されている。(P 5)</p> <p>●小单元ごとに(色づけされた)年表はなく、各章で年表を取り上げている。</p>
学 び 舎	<p>○巻頭で教科書の使い方や「歴史の案内」で沖縄の歴史の紹介や年代表し方などが示されている。</p> <p>●「歴史を楽しく学ぼう」で小学校の学習に触れているが、3名の人物名、2つの事項を簡単に示しただけとなっている。</p> <p>●新出の重要事項や重要語句を太字で示したり、ふりがなをふったりしていない。</p> <p>●巻末のさくいんは、人名と事項が分けられておらず、重要語句などの表記もない。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○各章・各節の学習を貫く「探求課題」を詳細かつ明確に示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」が設定され、章の終わりには「探求のステップ」において、まとめる手順も示されている。 ○「歴史的な見方・考え方」を設け、より深い思考・判断ができるようにしている。(例：P9) ○「スキル・アップ」を設け、情報を集めたり読みとったりする技能を高める工夫がある。(例：P53) ○「みんなでチャレンジ」を設け、対話的な学習をすすめる工夫がある。(例：P67) ○各単元末に、「まとめの活動」を設け、学習の振り返りと探求的な学習課題を明示している。(例：P96)
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の学習を貫く「探求課題」を示し、1単位時間の学習の「学習課題」がある。また、小単元のテーマが学習課題と繋がるよう工夫されている。(例：P145, 148) ○「歴史の窓」を設け、興味・関心を広げるようにしている。(例：P63) ○「歴史の技」を設け、歴史を読み解く技能を高める工夫がある。(例：P41) ○各単元末に、「学習のまとめと表現」を設け、学習の振り返りをしている。(例：P92~94) ●グループで協力しながら取り組むような、対話的な学習をすすめる課題が他者と比べて少ない。
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○各章・各節の学習を貫く「探求課題」があり、章の終わりの「時代の特色を説明しよう」で考え方をステップに分けながらまとめる道筋を示している。 ○「技能を磨く」を設け、歴史を読み解く技能を高める工夫がある。(例：P38) ○「タイムトラベル」は、その時代の想像図が描かれ、対話的な学習をすすめるための教材となっている。(例：P58, 59) ○「歴史を探ろう」は、その時代の想像図や資料・写真などをもとに考え、深い学びができる教材となっている。(例：P72, 73) ○各単元末に、「章の学習を振り返ろう」を設け、学習の振り返りをしている。(例：P56~57) ●章の始めのページは、章・節・1単位時間それぞれの「学習課題」が1ページ内に掲載してあるので本1時間での課題が分かりにくい。(例：P210)
山 川	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の学習を貫く「探求課題」を示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」がある。(例：P62~P64) ○「〇〇世紀の世界」として、学習する日本の時代と当時の世界の様子を比較して学習できる工夫が見られる。(例：P80~81)

	<ul style="list-style-type: none"> ○「歴史へのアプローチ」を設け、興味・関心を広げるようにしている。 (例：P 32～33) ○「歴史を考えよう」は、資料・写真などをもとに考え、深い学びができる教材となっている。(例：P 76, 77) ●対話的な学習をすすめるものは他者と比べて少ない。 ●各単元末に、「まとめ」を設け、書き込みができるようになっているが、生徒が自ら考える資料や手立ては示されていない。(例：P 60～61)
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の学習を貫く「探求課題」を示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」がある。(例：P 159) ○単元の学習課題に対して「見方・考え方」で、考えていくヒントを与え学習する筋道を示し、さらに「深めよう」で他の歴史的事象との結びつきを考えさせようとしている。 ○「チャレンジ歴史」を設け、より深い学習ができるようにしている。 (例：P 216) ○写真や絵を見ながら対話的な学習をすすめる工夫がある。(P 159) ○各単元末に、「学習の整理と活用」を設け、学習の振り返りができるようにしている。(例：P 156, 157) ●小単元の最後の「確認」は、学習課題そのままを提示したものがあり、知識・技能を定着させる工夫が少ない。(例：P 101)
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の学習を貫く「探求課題」を示し、さらに1単位時間の学習の「学習課題」がある。(例：P 22, 24) ○章ごとに「鳥の目で見ると」「虫の目で見ると」を設け、歴史を広く眺めたり、一つの資料からわかる事柄を見つけ出したりするなど興味・関心を広げるようにしている。(例：P 70～73) ○「歴史ズームイン」を設け、より深く知識を得ることができるようになっている。(例：P 132～133) ○「学習のまとめ」に話し合い活動を行い、対話的な学習をすすめている。 (例：P 67) ○各単元末に、「学習のまとめ」を設け、学習の振り返りができるようにしている。 (例：P 66, 67)
学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○章の初めのページに世界地図を描き章のテーマに基づいたその時代の様子を示して生徒の関心を持たせようとしている。 ○各章の最初に、地図と資料を使いながらその時代の特色を考える資料をあたえている。 ○1単位時間の学習の「学習課題」はある(例：P 22) ●1単位時間の「学習課題」はあるが、学習内容をどのような視点でまとめているかの提示がない。 ●各単元末に、「章をふりかえる」を設け、学習の振り返りをしているが、基本的語句のみを解答する問題が多い。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○1時間で扱う内容がすべての時間で2ページにまとめられており、理解しやすい構成となっている。</p> <p>○第4章 近世の日本 第1節の1中世ヨーロッパとイスラム世界, 2ルネサンスと宗教改革, 3ヨーロッパ世界の拡大を6ページにわたり記載している。(P100~105)</p> <p>○明治時代の「領土確定」についてはロシア, 琉球, 北海道とのかかわりを取り上げるとともに、歴史的な流れを地図や年表で示し、さらに、現代においても竹島, 北方領土, 尖閣諸島について見開きの関連ページを設けている。</p> <p>○「地域の歴史を調べよう」の中で、地域の復興と平和への思いで被爆地広島についての調査を紹介している。(P276~277)</p>
教 出	<p>○1時間で扱う内容がすべての時間で2ページにまとめられており、理解しやすい構成となっている。</p> <p>○第7章 「歴史を探ろう」の中で日本の領土をめぐる課題を説明している。(P268)</p> <p>○第4章 近世の日本と世界 教会とコーランの教え, 中世からの脱却, 太陽の沈まない国を6ページにわたり記載している。(P98~103)</p> <p>●「歴史をさぐる」の中で、平和と共生を願う人々で原爆の子の像を紹介しているが、被爆地広島についての記述が2ページの内4分の1程度である。(P284)</p>
帝 国	<p>○第6章「歴史を探ろう」の中で日本の領土画定と近隣諸国を説明している。(P266~267)</p> <p>○第3章近世 第1節の1ヨーロッパの変革, 2大航海時代の幕開けを6ページにわたり記載している。(P94~99)</p> <p>●「歴史をさぐる」の中で、戦場となった沖縄を説明している(P250~251)が、被爆地広島を説明したものはない。</p> <p>●1時間で扱う学習内容が、2ページから4ページにわたるものがあり、1時間で扱う分量が異なる。</p>
山 川	<p>○歴史へのアプローチ⑩で、日本の領土の変遷を説明している。(P266~267)</p> <p>○第4章 近世の日本 第1節の1ルネサンスと宗教改革, 2大航海時代とヨーロッパの海外進出, 3ユーラシア大陸と海でつながる世界を6ページで記載している(P104~109)</p> <p>●1時間で扱う学習内容が、2ページから4ページにわたるものがあり、1時間で扱う分量が異なる。</p> <p>●本文が25~26行と文章量が多いページがあり資料も文章での資料が多い。</p> <p>●「地域からのアプローチ⑦」の中で、沖縄を説明している(P276~277)が、被爆地広島を説明したものはない。</p>

日 文	<p>○第6編 「歴史を掘り下げる」の中で近隣諸国との関係の中で、日本の領土について説明している。(P292~293)</p> <p>○第4編近世の日本と世界 第1節の1イスラム教の世界とキリスト教の世界、2つながれてゆく世界、3ヨーロッパ人の来航と信長を6ページで扱っている。(P112~117)</p> <p>●特設ページでは、被爆地広島を説明したものは無い。</p> <p>●1時間で扱う学習内容が、2ページから4ページにわたるものがあり、1時間で扱う分量が異なる。</p>
育 鵬 社	<p>○1時間で扱う内容がすべての時間で2ページにまとめられており、理解しやすい構成となっている。</p> <p>○歴史ズームインで、わが国の領土をめぐる問題の歴史ー近隣諸国との課題ーを資料を用いて説明している。(P266~267)</p> <p>●第3章 近世の日本 第1節の1ヨーロッパ人の世界進出を2ページ、コラムとしてルネサンスと宗教改革を2ページ扱っている(P108~111)が、全体として他者と比べて分量が少ない。</p> <p>●「歴史ズームイン」で戦局の悪化と終戦で沖縄戦を説明している(P248~249)が、被爆地広島を説明したものは無い。</p>
学 び 舎	<p>○1時間で扱う内容がすべての時間で2ページにまとめられており、理解しやすい構成となっている。</p> <p>●アメリカの独立、フランス革命をそれぞれ見開き2ページでまとめているが、啓蒙思想、イギリスの市民革命については記述がない。</p> <p>●市民革命、産業革命、ヨーロッパのアジア侵略などの内容が課題別に構成されているため、歴史の流れの中におけるそれぞれの関連性が分かりにくい。(第6章など)</p> <p>●明治時代の「領土確定」については本文中に北方領土、竹島、尖閣諸島の記述がない。「竹島」(P189)と「尖閣諸島」(P185)は注釈、「北方領土」は現代に記載(P257)</p> <p>●特設ページでは、被爆地広島を説明したものは無い。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふりがなの文字濃度を薄くしている。 ○復元図や想像図など歴史を実感できる資料を用いるなどして、学習効果を高める工夫がみられる。(例：P 31, 32, 34, 38) ○時代を表す特徴的な資料を、紙面を大きく使って掲載している。(例：P 174～175) ○章ごとに「地域の歴史を調べよう」を設け、資料を活用し地域の歴史を調べる手法などの説明がある。(P 92～93) ●「重要語句」について、ふりがながふられていないものがある。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○章のはじめに、「学習を始めよう」を設け、当時の写真など掲載し時代の変化に気づかせる工夫が見られる。(例：P 208～209) ○「歴史を探ろう」を設け、エピソードを加えて興味・関心を高めている。(P 106～107) ○「身近な地域の歴史を調べよう」を設け、写真等を活用して説明が記載されており、調べ学習につながる問いが示されている。(P 90～91)
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○「タイムトラベル」を設け、想像図を駆使して当時の時代の特徴に気づかせたり考えさせたりする工夫が見られる。(例：P 80～81) ○「時代プラス」を設け、短いエピソードを添えて興味・関心を持たせている。(P 82) ●身近な地域の歴史を調べるものが他者と比べて少ない。
山川	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○「地域からのアプローチ」を設け、資料等を活用し地域の歴史を調べる手法などの説明がある。(P 46～47) ●生徒にとって難解な語句が重要語句として扱われている。(例：P 123「分地制限令」P 132「海舶互市新令」など) ●他の教科書に比べ字のポイントが小さい。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○実物大の屏風絵を取り入れ、興味・関心を持たせている。(P 106～109) ○「でかけよう地域調べ」を設け、写真や資料等を活用し地域の歴史を調べる手法などの説明がある。(例：P 102～103)
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○「なでしこ日本史」を設け、女性の活躍に興味・関心を持たせている。(P 154) ○「歴史ズームイン」を設け、エピソードを加えて興味関心を高めている。(P 248～249) ○「地域の歴史を調べてみよう」を設け、4ページにわたり写真、資料等を活用し詳細に地域の歴史を学ぶことができる。(P 156～159)

学 び 舎	<p>○小単元のタイトルや見出しが興味を引くように工夫されている。(例：P122)</p> <p>●資料には番号がついているが、本文との関連表示がない。</p> <p>●掲載されている資料について解説がないものもあるため、その資料から何を讀み取ればいいかがわかりにくい。</p>
-------------	---

(5) 言語活動の充実

発行名	意 見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○章末ごとに「まとめの活動」を設け、時代の特色をまとめることができる。また、クラゲチャートなど思考ツールを用いた表現方法の工夫が見られる。(例：P60～61)</p> <p>○小単元ごとに、「チェック」、「トライ」を設け、書く活動を取り入れている。</p>
教 出	<p>○章末ごとに「学習のまとめと表現」を設け、時代の特色をまとめることができる。(例：P92～93)</p> <p>○小単元ごとに、「確認」や「表現」を設け、学習の振り返りを書く活動を取り入れている。</p>
帝 国	<p>○「多面的・多角的に考えてみよう」を設け、歴史的人物の意見や考え方の違いを対比させながら、自分の考えをもつことができる。(例：P230～231)</p> <p>○小単元ごとに、「確認」、「表現」を設け、書く活動を取り入れている。</p> <p>○章ごとにまとめで言語活動を使って学習を深めるための手順、段階を3段階のステップに分けて示すことで、学習活動をしやすく工夫している。</p>
山 川	<p>○「まとめ」を設け、設問の回答を記入できるようにしている。(P60～61)</p> <p>●小単元ごとに、「ステップアップ」を設け、考えさせる場面はあるが、書かせたり説明させたりするものとなっていない。</p>
日 文	<p>○「学習の整理と活用」を設け、設問の回答を書き込んだり、文章にまとめたりできるようにしている。(例：P62～63)</p> <p>○小単元ごとに、「確認」を設け、書く活動を取り入れている。</p> <p>○それぞれの章のおわりに、その時代の「特色」をまとめる活動の中で、3つのステップに分けて手順やヒントを示している。</p>
育 鵬 社	<p>○「学習のまとめ」を設け、設問の回答を書き込んだり、文書にまとめたりできるようにしている。(P66～67)</p> <p>○小単元ごとの右ページの下欄に、書く活動を取り入れている。</p> <p>○「歴史のターニングポイント①～⑥」を設けて、各時代の大きなできごとを取り上げて意見交換をする活動を示している。</p>
学 び 舎	<p>○「歴史を体験する」では様々な体験学習を紹介している。また、対話・討論にチャレンジするページもある。(P178, 179)</p> <p>●章ごとのまとめでは、「当てはまる語句を選ぶ」方法が中心で、他者と比べて文章でまとめたり意見交換したりする活動は少ない。</p>

種 目 名 (社会【公民的分野】)

【調査研究の具体的視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や單元ごとの内容が適切であるか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 生徒が課題を発見し、その解決に向けて調べ方や学び方、見方や考え方を働かせて考えることを促す工夫がなされているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記は、資料等を有効に活用し、生徒にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現する力を育てる工夫がなされているか。

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公民的な見方・考え方を働かせ考察する場面が設定されるとともに、具体的に働かせる見方・考え方が示されている。 ○ 1時間ごとの学習課題の解決においては、チェック&トライで基礎的・基本的な内容を確認したうえで、説明をするものとなっている。 ○ 多様な思考ツールの活用が随所に促されている。(例：p32 など) ○ 対立と合意、効率と公正などの見方・考え方を働かせ思考する場面が多様に見られる。(例：p164 など)
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 章ごとに「第○章の学習のはじめに」のページがあり、学習の見通しが、丁寧に分かりやすく示されている。 ○ ノートの取り方が例示されている。(Ⅳ) ○ 見開き2頁の学習課題が示され、解決にあたっては、「確認」で基礎的事項を確認し、「表現」において社会的事象を説明したり、話し合いを行ったりする段階的のものとなっている。 ○ シビリアン・コントロールについて他者より詳しく記されている。 ● 働かせる見方・考え方が示されているが、具体的な見方・考え方が記されていない。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2頁の学習課題と、説明を中心とした表現の振り返りとなっている。 ○ 章の問いが示されている。 ○ 章ごとの振り返りでは、一問一答の解答だけでなく、見方・考え方を働かせる課題がスモールステップで示され、学習内容の定着の工夫がなされている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「アクティビティ」が38か所設けられ、具体的な見方・考え方を働かせながら理解を深める工夫が見られる。 ○ 知識を相互に関連付けるための工夫が脚注に示されている。 ○ 情報スキルアップのコーナーがある。 ○ 編の導入において、その編でつかむ見方・考え方に関する漫画により見通しを持たせ、章末で学習の整理とともに、シンキングツールを活用しながら考察・構想し、発表する場が設定されている。 ○ 見開き2頁の1時間に、課題とまとめが設定されている。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国家の成立、人権の確立、憲法の成立など、歴史上の背景が詳しく述べられている。 ● 具体的に働かせる見方・考え方が示されていない。 ● 見開き2頁に課題とまとめが設定されているが、まとめにあたる部分を問いではなく「ここがポイント」として示している。 ● 章のまとめにおいて、基本的な語句をおさえることができるが、発展問題に示されている課題が抽象的なものもあり生徒には捉えにくい。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2頁に学習の課題とまとめが設定されている。 ○ 単元ごとに学習のまとめが設定され、重要語句の確認や表現に関する課題が示されている。 ● 見方・考え方に関しての表記が少なく、意識を持ちにくい。 ● 見開き2頁のまとめにおいて、文章記述で説明するものがやや少なく、話し合うなど活動的で見取りにくいものが多い。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○章ごとに探究課題が具体的に設定され、章末に探究課題の解決を図る流れとなっており、節ごとに探究のステップの問い、見開き2頁の項ごとに学習課題を探究する課題発見・解決学習が進められている。</p> <p>○探究課題の解決においては、自分の考えをまとめるものとなっており、社会参画が目指されている。</p> <p>○「みんなでチャレンジ」が21個設定され、対話的な学びへの工夫がうかがえる。</p> <p>○「考える」「読み取る」「集める」といった活動がわかりやすく提示され、生徒が主体的に活動できる工夫がなされている。</p>
教出	<p>○章の始めに漫画を用いた導入が設定され、日常生活と結びつく学習課題の設定になっている。</p> <p>○脚注に小学校や他分野との関連を示している。</p> <p>○38か所の公民の窓でコラムを紹介したり、「クリップ」によって人々の姿を紹介したりして、興味・関心を広げて主体的に学べるようにしている。</p>
帝国	<p>○章の始めに「やってみよう」で課題を発見する学習が設定されている。</p> <p>○「学習の前に」で見通しを示し、スモールステップになったまとめと、次の章へつながるような課題が示されている。</p> <p>○「アクティブ公民」のコーナーで、見方・考え方を働かせて思考する深い学びが促されている。</p>
日文	<p>○編の導入において、その編でつかむ見方・考え方に関する漫画により、見通しを持たせている。章末には学習の整理とともに、シンキングツールを活用しながら考察・構想し、発表する場が設定されている。</p> <p>○巻頭の見開きにSDGsを紹介し、公民の学習を貫く問いとして示されている。</p> <p>○身近なニュースや新聞記事をもとに思考を深める工夫が見られる。(p32, 101など)</p>
自由社	<p>●見開き2頁の学習課題が示されているが、まとめにあたる問いがなくポイントが示されているのみで、自分事として捉えにくい。</p> <p>●章末のまとめでは、知識を問うものが多い。資料や思考ツールが示されておらず、文章のみで問いが示されている。</p> <p>●各章の学習課題と各単元の学習課題のつながりが明確に示されておらず捉えにくい。</p>
育鵬社	<p>○章の初めに「入り口」として資料から学習課題を発見し、章末に「これから」を設け、見方・考え方を働かせて学習した内容に関する課題を考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○「やってみよう」が設定され、主体的・対話的な学びを促している。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○領土について、2頁を使って歴史的背景や地図、写真、新聞記事等から考えを深める工夫がされている。 ○章ごとに探究課題が具体的に設定され、章末に探究課題の解決を図る流れとなっており、節ごとに探究のステップの問い、見開き2頁の項ごとに学習課題を探究する課題発見・解決学習が進められる構成となっている。 ○学んだことと実社会を結び付けて考える活動（例：模擬裁判 p 106、投資家になって考えよう p 145）など、社会参画が目指されている。 ○写真・グラフ・表等の刷新が図られていて、種類も多い。 ○他分野との関連を示すマークとともに、他教科との関連のマークが記され、カリキュラム・マネジメントが意識されている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○領土について見開き2頁で説明されている。 ○脚注にSDGsとの関連が示され、系統的・横断的な学習を促す工夫を図っている。 ○写真やグラフなど豊富である。 ○国際社会の課題について、紛争、文化・宗教、経済格差、人口と食糧、子どもと女性、資源・エネルギー、環境など様々な観点から記述されている。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校や地理・歴史との学びの関連が示されている。 ○領土について見開き2頁で説明されている。 ○実社会とのつながりを意識した「公民プラス」のコーナーがある。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○領土について見開き2頁で説明するとともに、「公民+α」で詳しく記している。 ○SDGsについて巻頭の見開きに示し、持続可能な社会への付けがされている。 ○説明の文章だけでなく、イラストを使った視覚的な工夫がされており、生徒が考えやすい。 ○小学校、地理・歴史的分野との関連、他の単元との関連を示す「連携コーナー」が設定されている。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○領土問題については、見開き2頁で扱っている。 ●写真やグラフが少なく、本文中に出てこない事項に関する資料が掲載されているページもある。（p51など） ●人権に関する内容は12ページ分、SDGsに関する内容は1ページ分扱われているが、他者に比べて少ない。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が提示されている。 ○各章の初めに「○○の入り口」として見通しを持たせている。 ○「やってみよう」というページで課題が設定され、ディベート、ロールプレイなど様々な言語活動が設定されている。 ●他者と異なり、国際社会の章において国際社会の課題を取り上げた後に、日本の領土や取組について扱う流れになっている。 ○SDGsについて巻頭2頁と、国際社会のこれからとして再度とりあげられている。 ○他分野との関連が見出しの下に記されている。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○資料に分かりやすいタイトルやラベリングがなされている。 ○UDフォントの使用など特別支援教育の観点からの配慮がなされている。 ○資料のタイトルだけでなく、短い説明が添付されている。 ○巻末に年表が示されている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○導入と見開き2頁とのつながりが示されている。 ○UDフォントを使用し、色遣いが見やすい。 ○巻末に年表が示されている。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○UDフォントを使用している。 ○巻末に年表が示されている。 ○写真や絵が豊富である。 ○学習内容に応じたQRコードが付され、家庭学習においても動画コンテンツなどを見られる工夫がある。 ●章の導入のイラスト中に示された記号や数字が読み取りにくい。 ●他者と比べてルビが多く、行間が狭い。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○UDフォントを使用している。 ○世界地図、現代史の年表が添付されている。 ○イラストや図が見やすく、資料の説明が丁寧になされている。 ○「まちのバリアフリーを探そう」において、教科書に実際の点字が使われている。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○他者と比べて文字が大きく見やすい。 ●重要語句(太字)に「事前検閲」「旧敵国」など他者では見られない語句が指定されていたり、新しい人権やSDGsについて本文でなく資料や「もっと知りたい」などで扱われている。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に年表が示され、未来まで記されている。

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○ 1時間ごとの学習課題の解決においては、チェック&トライで基礎的・基本的な内容を確認したうえで、説明をするものとなっている。</p> <p>○ 「みんなでチャレンジ」が設定され、グループで話し合う言語活動が取り入れられている。(p6など)</p> <p>○ 章ごとの「まとめの活動」において、思考ツールを用いて自分の考えをまとめたり、グループで意見を述べ合ったり、社会への提案を行うなど多彩な言語活動が設定されている。</p>
教出	<p>○ 章のまとめにおいて、テーマを設定し、考えをまとめる、発表する、記述するといった様々な表現活動がなされるよう工夫されている。</p> <p>○ 「言葉で伝え合おう」が設定され、ディスカッション、ディベート、シミュレーション、計画立案、プレゼンテーション、レポートの6つの多様な言語活動が仕組まれている。(p110など)</p> <p>● 見開き2頁のまとめにおいて、意見を考えまとめたり、意見交換したりすることは見られるが、文章表記させる活動が他者に比べて少ない。(考えてみよう、話し合ってみようというものになっている。)</p>
帝国	<p>○ 見開き2頁の学習課題と、説明を中心とした表現の振り返りとなっている。</p> <p>○ 学習した内容をより深めるために「アクティブ公民」において、「技能をみがく」が設定され、ロールプレイやディベートなどの言語活動が促されている。</p> <p>● 章末の振り返りにおいて、思考力・判断力・表現力を問うものについての文章記述がやや難しい。</p>
日文	<p>○ 章末には学習の整理とともに、フリーカード法、クラゲチャート、PMIシート、ピラミッドチャート、フィッシュボーンチャートなどのシンキングツールを活用しながら考察・構想し、発表する場が設定されている。</p> <p>○ 「チャレンジ公民」において、自分の意見を述べるコーナーが設定されている。</p> <p>● 見開きごとの学習課題への「確認」の文章表記がやや簡易で分かりにくい。</p>
自由社	<p>○ 「発展」として、各章にかかわる4つの課題から1つを選択し、400字でまとめる発展的な学習が提示されている。</p> <p>● まとめが「ここがポイント」として示されており、文章記述等の言語活動を使って説明するものとなっていない。</p>
育鵬社	<p>○ 各章末に「学習のまとめ」が1頁置かれ、自分の意見をまとめ、交流するという言語活動を意識した設問が提示されている。</p> <p>● 章末の「学習のまとめ」は、思考力・判断力・表現力を問うたり、実社会とのつながりから自分事として考えたりするものがやや少ない。</p>

種 目 名 (地 図)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、地図帳の基本的な使い方（地図の見方、索引の引き方、地図活用の仕方など）が理解できる内容になっているか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点② 生徒が課題に沿って、地図を活用した多様な学び方ができる内容になっているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点③ 教科書で取り上げられている国・地域について、生徒が理解しやすい資料や構成の工夫がなされているか。

(4) 内容の表現・表記

視点④ 内容の表現・表記は、資料等を有効に活用し、生徒にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点⑤ 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現する力を育てる工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○一般図→基本資料→テーマ資料という調べ学習の流れを示している。 ○ロシアとヨーロッパ州との境界が世界地図ではっきり描かれている。 ●地図帳の使い方の説明が3ページ分のみのため、活字が小さく扱いづらい。 ●北アメリカ州と南アメリカ州、アフリカ州とアジア州との境界が世界地図で読み取りにくい。(両者の p 1 - 3 を比較) ●色が他者よりも全体的に薄い。(東 p 15-16, 帝 p 9-10 を比較)
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳の使い方を5ページに渡って具体的に示し、凡例が種類分けしてあるの でわかりやすい。 ○色が鮮明で資料がわかりやすい。(東 p 15-16, 帝 p 9-10 を比較) ○ロシアとヨーロッパ州との境界だけでなく、北アメリカ州と南アメリカ州、ア フリカ州とアジア州との境界が世界地図で鮮明に描かれている。(両者の p 1 - 3 を比較) ○大陸から見た日本を示す地図が描かれている。(p 31-32) ○日本との結びつきのコーナーが各地域に設けられている。(p 28, 31, 35, 44, 54など) ○地図に使われている活字が読み取りやすい。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○SDGsの新しい視点を取り入れて学習を進められるよう、2ページ分使って示している。</p> <p>○関連する資料がある場合、「ジャンプ」マークが示してあり、複数の資料を関連付けて考えるのに役立つ。(p 6, 20, 22, 43, 44, 48など)</p> <p>●インターネットを活用した学習が効果的な部分にはDマークがつけられ、国土地理院のデジタル地図などを利用するようになっているが、他者のように二次元コードが各所に設けられておらず、専用サイトにアクセスして地図帳を補完する資料が見られるわけではない。</p>
帝国	<p>○各地域のはじめのページにある地図にイラスト入りで有名な産物等示してあり、生徒がガイドブック感覚で学習に入りやすい。(p 25-26など)</p> <p>○生徒の主体的な学習を促す「地図活用」のコーナーが豊富に設定されており、資料を読み取る手順も示されている。(p 8, 14, 16, 18, 20, 24など)</p> <p>○ページタイトル横には、学習を支援する二次元コードが設けられ、専用サイトにアクセスして地図帳を補完する資料を見れるようになっている。例えば、「地図活用」の解答を確認できたり、クイズ感覚で学習をすすめたりできる。(p 8, 19, 25, 41, 43, 45など)</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○地理の教科書の内容と関連づけて学習できるように、世界の諸地域はアジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州の順に構成されている。</p> <p>○巻末に日本全体のテーマ別資料がまとめられており、わかりやすい。(p 145-165)</p> <p>●ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州の基本図に同緯度の日本列島が掲載されておらず、南アメリカ州での正反対の位置の日本列島、オセアニア州での赤道をはさんだ反対側の日本列島も掲載されていないため、緯度のイメージをつかみにくい。(p 51, 61, 70など)</p> <p>●地図以外の資料が多く記載されており、地図帳としては活用しづらい。(p 134など)</p>
帝 国	<p>○ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州の基本図に同緯度の日本列島が掲載 (p 41, 45, 57, 60) されている。南アメリカ州の基本図には、正反対の位置の日本列島が、オセアニア州の基本図には赤道をはさんだ反対側の日本列島が掲載 (p 58, 67, 73) されており、緯度等位置関係をイメージしやすい。</p> <p>○日本全体のテーマ別資料が巻末にまとめられていてわかりやすく、歴史的分野との関連付けや東京オリンピックに関連する内容等多様な視点で構成されている。(p 145-164, 特に p 161, 162)</p> <p>●アジア州の後がアフリカ州、ヨーロッパ州の順に構成されており、地理の教科書の構成と異なる。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○各州や各地方の地図に「この図の範囲」というコーナーがあり、全体と部分がつかみやすくなっている。 ○他分野との関連を持たせたページがある。(p 39-40交通路, 古地図) ○オセアニア州以外の諸地域では, 鳥瞰図が海洋部分まで立体的に掲載されており, わかりやすい。(p 31-32, 49-50など)。 ●鳥瞰図が掲載されている州と, 掲載されていない州がある。(例えば東 p 62と帝 p 43, 東 p 81と帝 p 75を比較) オセアニア州の鳥瞰図がない。 ●地図記号の凡例の区分が小さくて見づらい。また, 地図記号以外の内容も掲載しているため, 全体的に窮屈で見にくい。(p 4) ●国境線や県境を示す線の色がはっきりしていないため, 他の記号等と区別しにくく読み取りにくい。(p 89など) ●陸高や水深を示す目盛りが各ページにない。(最初の地図帳の使い方のページと日本全図のページのみ) ●他者に比べ, 世界の気候を表す世界地図の資料が小さく読み取りにくい。(例えば東 p 17-18と帝 p 11-12を比較)
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○さくいんの引き方がさくいんのページに説明されているので活用しやすい。また, ページを示す文字がゴシック体でわかりやすい。 ○陸高や水深を示す目盛りが左ページの端に記載されている。(最初の地図帳の使い方のページにも記載がある) ○地図記号の凡例が一頁全部を使って示されているため, 他者よりゆったりして見やすい。また, 地図記号の区分も大きくて見やすい。(p 4) ○世界各州では一般図に合わせてイラスト付きの鳥瞰図があり, 記述されている情報量が他者より豊富である。(例えば帝 p 25-26と東 p 31-32を比較) ○他者に比べ, 世界の気候を表す世界地図が大きく, 雨温図などの資料が鮮明で読み取りやすい。(例えば帝国 p 11-12と東書 p 17-18を比較) ○地図に「防災」「環境」「日本との結びつき」「プラチナ」(関連性の深い内容)が示しており, 複数の資料を関連付けて考えるのに役立つ。(p 6, 28, 31, 35, 40, 44, 54など) ○大陸から見た東アジアや日本の地図があり, 東アジアの国々との共通点や歴史的関係が示されるなど, 生徒に他分野での学習内容との関連を意識させるよう工夫されている。(p 31-32など) ○地図帳の表記(色, 活字, 境界線など)が工夫されており, 読み取りやすい。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを設けて、地図を活用した言語活動を促している。(p 5 - 8, 12, 23, 25, 56, 65, 78, 83など)</p> <p>●インクルーシブ教育に配慮した、手話で話すコーナーが設けられていない。</p>
帝 国	<p>○地図活用の技能を身に付けるためのコーナー「地図活用」が各所に設けてあったり、ページタイトルの横に示されている二次元コードを読み取ると学習を深める資料やクイズなどを見たりすることができるなどの工夫が見られる。(p 6)</p> <p>○「地図活用をしてみよう」のコーナーを多数設けて、地図を活用した言語活動を促している。(p 6, 8, 14, 16, 18, 20, 22など)</p> <p>○インクルーシブ教育に配慮し、都道府県や都道府県庁所在地を手話で話すコーナーが設けられている。(p 186下部)</p>

種 目 名 (数 学)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成するための工夫

視点② 学び直しの機会の設定

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 主体的な学びを促す課題提示の工夫

視点② 数学への興味関心を高める工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 学習内容の構成・配列や練習問題の分量

(4) 内容の表現・表記

視点① 挿絵やマーク等，数学的語彙の表記や説明の工夫

(5) 言語活動の充実

視点① 数学的な表現を用いて自分の考えを説明し伝え合う活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成するための工夫

(方法) 例題, 問題の提示の仕方

1年「正の数負の数」, 「方程式」

2年「式の計算」, 「1次関数」 3年「平方根」

視点② 学び直しの機会の設定

(方法) ア 節末問題, 章末問題の提示の仕方

イ 前学年までの振り返り, 補充問題の提示の仕方

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「例」と似た問題に印がしてあり, 「例」を理解しているか確かめることができる。 ○「例」の隣に「ちょっと確認」があり, 既習内容の確認ができる。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○節末問題に, 問題に関連する既習の「例」とページが明示されている。 ○巻末の補充問題が基本的なことを身に付ける内容になっており, 少し難しい問題には印がある。
大日本	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「活動」と「例題」が同じ扱い(通し番号)になっている。 ●問の多くが, 例題を用いて解く問題となっている。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○節末問題に, 学習した内容やページが明示されている。 ●巻末の補充問題が「数学的な技能」を身に付ける問題に偏っている。
学図	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Q」の隣にポイントとなる見方・考え方が明示してあり, 以後の学習で大切なことがわかるような工夫がある。 ○「計算力を高めよう」が設定され, 反復練習で計算力を高められる。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の導入前に前学年までの学習を振り返るページがある。 ●巻末の補充問題に既習内容との関連が明示されていない。
教出	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○例題の理解を確認できる「たしかめ」が設定されている。 ●順序として難易度が高い例題が出されている箇所がある。また, 例題から問に難易度が急に上がる箇所がある。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の導入前に前学年までの学習を振り返るページがある。 ●巻末の補充問題が多いため, 字が小さく, 1問ごとの間隔も狭い。

啓 林 館	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○例題にねらいや考え方が提示されている。また、解答が囲まれているのでわかりやすい。 ○問の隣に巻末の補充問題のページが提示されている。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○章末問題に、既習内容との関連が明示されている。 ●巻末の「自分から学ぼう編」では、「力をつけよう」と「学びをいかそう」の2種類が設定されており習熟度に応じて学び直すことができるが、形状が使いにくい。
数 研	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「L i n k」が使いにくい。 ○章の導入前に全学年までの学習を振り返るページがあり、学習内容との関連がわかりやすい。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●探究ノートは、探究的な課題が設定され対話文等を通して複数の単元の振り返りや発展を行うことができるが、分冊となっているため使いにくい。 ○巻末のチャレンジ問題は、基本問題と応用問題に分かれており、さらに基本問題の中でも問題に色分けがあり、難易度がわかりやすく提示してある。
日 文	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○例題にねらいや考え方が提示してある。 ○「表現の例」や「大切な見方・考え方」が明示してあり、数学用語を使った説明の仕方や学習内容の要点がわかりやすい。 <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の導入前に前学年まで学習を振り返るページがある。 ○巻末に全学年の復習問題が章ごとにあり、その後に当該学年の補充問題がある。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 主体的な学びを促す課題提示の工夫

(方法) ア 「調べてみよう, 深めてみよう」といった課題提示があるか

イ 「職業との関連」についてのページがあるか

1年「資料の活用」 2年「箱ひげ図」 3年「標本調査」

視点② 数学への興味関心を高める工夫

(方法) 扱われている題材と既習事項との関連

2年「箱ひげ図」

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びをひろげよう 1年1題 (スポーツ) 2年1題 (コンビニ) <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○箱ひげ図の導入の題材が, 花見の時期のコンビニの売れる商品についてであり, 生徒が身近に感じやすい。 ○データの個数が奇数個, 偶数個両方の場合の四分位数の求め方を明記してある。 ○箱ひげ図の箱, ひげについて書き方を明記している。また, 練習問題で箱ひげ図を書くページが設定されている。さらに, 箱ひげ図の中に平均値を書く時の示し方も明示してある。 ○箱ひげ図とヒストグラムのそれぞれのよさと違いを比較しているページがある。
大日本	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活用・探究 1年1題 (投手の攻略) 2年1題 (友好都市の気温) 3年1題 (選挙結果の予測) ○社会にリンク 1年1題 (スポーツデータアナリスト) 2年1題 (データサイエンティスト) 3年1題 (自然保護官) <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●箱ひげ図の導入で岐阜県の気温の分布について扱っているが, 自分の地域について触れる場がないため生徒の興味につながりにくい ○データの個数が奇数個, 偶数個両方の場合の四分位数の求め方を明記してある。 ○箱ひげ図の書き方について明記されている。 ●箱ひげ図のよさについて明記はあるが, ヒストグラムとの違いについて明記されていない。

学 図	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○深めよう 1年1題（人口ピラミッド） 2年1題（P Cで四分位数を求める） 3年1題（選挙の予想） <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○箱ひげ図の導入で6都市の年間降雨量を折れ線グラフで比較し、さらに、箱ひげ図を提示しているため、生徒の関心を高める工夫が見られる。 ○データの個数が偶数個の場合と奇数個の場合の四分位数の求め方が明記されている。 ○箱ひげ図のひげ、箱の書き方が明記されている。また、平均値や外れ値の書き方についても明記されている。 ○箱ひげ図からデータの傾向を読み取る際の導入でドットプロットとの比較があり、理解を深めることができる。
教 出	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学の広場 1年2題（棒グラフとヒストグラム，累積相対度数） 1年2題（データアナリスト，気象予報士）※特設ページ 2年1題（地球の温暖化） 2年1題（輸送計画担当者）※特設ページ 3年1題（円周率の数の並び） 3年1題（都市模型制作者） <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●箱ひげ図の導入で札幌市の7月と8月の気温の違いについて考えているが、自分の地域ではないため生徒の興味につながりにくい。 ○データの個数が偶数個の場合と奇数個の場合の四分位数の求め方が明記されている。 ○箱ひげ図のひげ、箱の書き方や大まかな分布を表していることが理解しやすい。また、実際の書き方も丁寧に例題が設定されている。平均値の示し方も説明がある。 ●箱ひげ図のよさについて説明はあるが、箱ひげ図から読み取りにくいことに対する説明がない。

啓 林 館	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学ライブラリー 1年2題（表計算ソフト，何分発のバス） 2年2題（箱ひげ図のよさ，箱ひげ図で読み取れないこと） 3年3題（国勢調査，選挙の予測，魚の数を調べる） ○学びをいかそう 1年2題（ヒストグラムを観察，少子高齢化）※特設ページ 2年1題（代表を決めよう） 3年2題（データ整理，防災） <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●箱ひげ図の導入で，インターネットの通信速度の測定結果を利用しているが，Mbpsという聞きなれない単位が出てきて，生徒はイメージしにくい。また，インターネットの通信速度が異なり不便な経験をしたことがない生徒には実感しにくい。 ○四分位数について箱ひげ図と同時に学習するため，理解が深まる。 ○箱ひげ図のひげや箱についての記載があり，箱ひげ図をかくページも設定されている。 ○箱ひげ図のよさと，箱ひげ図では読み取れないことをそれぞれ明記している。
数 研	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「〇〇」してみよう 1年 考えよう2題（代表値，累積度数と中央値） 2年 調べよう1題（長さの感覚）※別冊 3年 やってみよう1題（PCで無作為抽出） 説明しよう1題（睡眠状況の調査） ○数学旅行 1年1題（地球温暖化と降水確率） 2年1題（ビッグデータ） 3年1題（選挙速報） <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●箱ひげ図の導入で体力テストの記録が最高記録を更新している新聞記事を出しているが，学習活動では同じ年のクラスを比較しており，最初の新聞記事とのつながりがわからない。 ○データの個数が偶数個の場合と奇数個の場合の四分位数の求め方が明記されている。 ○箱ひげ図の書き方を学習するときに，書き方の手順がある。また，ドットプロットとの比較があるため，理解が深まる。 ●箱ひげ図のよさの明記はあるが，箱ひげ図では読み取れない分布の形があることについての明記がない。

日 文	<p>①主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学のたんけん 1年3題（データを分けて調べてみると、分布の形と代表値、累積相対度数を折れ線グラフに表す） 2年1題（ヒストグラムと箱ひげ図の関係） 3年2題（標本調査の失敗、表計算ソフトの活用） ○数学研究室 1年1題（コンピュータの活用） ○暮らしと数学 2年1題（大阪万博の入場者数） 3年2題（データの読み取り） ○数学を仕事にいかす 1年1題（データアナリスト） 2年1題（エンジニア） 3年1題（アーティスト） <p>②数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●箱ひげ図の導入で福岡、大阪、東京の猛暑日を比較しているが、自分の地域について触れる場がないため生徒の興味につながりにくい。 ○データの個数が偶数個の場合と奇数個の場合の四分位数の求め方が明記されている。 ○箱ひげ図のひげ、箱の書き方や大まかな分布を表していることが理解しやすい。また、実際の書き方も丁寧に例題が設定されている。 ○箱ひげ図とヒストグラムのそれぞれのよさと違いを比較しているページがある。
--------	--

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 学習や内容の構成・配列や練習問題の分量

(方法) ア 章末問題・基本確認問題

1年「正の数・負の数」 2年「1次関数」

3年「三平方の定理」

イ 1・2年の復習問題の分量

ウ 内容の構成

3年の「有効数字」を学習するタイミング

エ 配列

3年「2次方程式の解法」

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○章末問題68題。基本確認問題72題。「活用」表記あり。 ●3年巻末に1・2年の復習問題なし。 ○「有効数字」は相似の利用後、測定値の表し方で学習。分数の形の表記なし。 ○「2次方程式の解法」が、平方根の考え→解の公式→因数分解の利用の順。
大 日 本	<ul style="list-style-type: none"> ○章末問題83題。基本確認問題94題。「活用・探究」区分あり。 ○3年巻末に、1・2年の領域ごとの復習問題90題。 ○「有効数字」は、平方根の大小後、近似値で学習。分数の形の表記なし。 ○「2次方程式の解法」が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順。

学 図	○章末問題88題。基本確認問題179題。「基本・応用・活用」区分あり。 ○3年巻末に、1・2年の領域ごとの復習問題100題。 ○「有効数字」は、相似の利用後、誤差で学習。分数の形の表記あり。 ○「2次方程式の解法」が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順。
教 出	●章末問題67題。基本確認問題92題。章末問題に「活用」標記はあるが問題数が少ない。 ●3年巻末に、1・2年の復習問題なし。 ○「有効数字」は平方根の活用後、近似値で学習。分数の形の表記あり。 ○「2次方程式の解法」が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順。
啓 林 館	○章末問題234題。基本確認問題116題。章末問題に「活用」の区分はないが、別編（自分から学ぼう編）にも問題あり。 ○3年巻末に、1・2年の領域ごとの復習問題111題。 ○「有効数字」は平方根の計算前、真の値と近似値で学習。分数の形の表記なし。 ○「2次方程式の解法」が、平方根の考え→解の公式→因数分解の利用の順。
数 研	●章末問題55題。基本確認問題112題。章末問題に「活用」区分はないが、別冊「これからの数学探究ノート」に関連する課題あり。 ○3年巻末に、1・2年の章ごとの復習問題65題。 ○「有効数字」は平方根の計算後、近似値と有効数字で学習。分数の形の表記なし。 ○「2次方程式の解法」が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順。
日 文	●章末問題68題。基本確認問題221題。章末問題に「活用」の区分はない。「説明できるかな」という問題が3問ある。 ●3年巻末に、1・2年の復習問題なし。 ○「有効数字」は平方根の活用後、測定値と誤差で学習。分数の形の表記なし。 ○「2次方程式の解法」が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順。

(4) 内容の表現・表記

視点① 挿絵やマーク等、数学的語彙の表記や説明の工夫

(方法) ア 解法へ導く例題の数と活用問題の考え方につながる絵図等の数

1年「方程式」(「方程式」で例題,「方程式の利用」で絵図等の数)

イ 証明の仕方の手順や見通しの持ち方の表記の仕方

2年「平行と合同」

ウ 巻末索引,目次の表記の仕方(1年)

エ 使用している字体等

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	○方程式の定義から解法のまとめまで例題8問(比例式は別節で例題1問)で導いている。 ○方程式の利用の例題は、代金・過不足・速さ・比例式の4種類。絵、線分図、表を用いて理解を助ける表記になっている。特に速さの問題では、デジタルコ

	<p>ンテンツで人が動く様子を見ることができ、理解を深めることができる。</p> <p>●証明の手順について根拠となることがらを具体的に明示し、筋道立てて説明してあるが、他社に比べると図を用いた説明が少ない。</p> <p>○索引は3ページ107項目掲載。簡単な図式やグラフ等(24個)が挿入されており、理解を助けている。目次には小学校との学習のつながりを明記。</p> <p>○重要用語は太ゴシック体で書かれており見やすい。関数、図形の覚えておきたい性質などは枠囲み(背景色あり)され、学習の整理を促している。</p>
大日本	<p>●方程式の定義から解法のまとめまで例題9問で導いている。その後、かっこや小数、分数のある方程式、比例式が扱われているが、途中までの解法で考えを深める内容になっており、解答例の明記がない。</p> <p>○方程式の利用では代金・過不足・速さの3種類。線分図やことばの式、表を用いて理解を助ける表記あり。1, 2問目は考え方に合わせて解く手順が明記。また「プラスワン」として補充問題があり、力に応じた学習もできる。</p> <p>●証明の手順がチャート化されているが、補足説明が少なく、見ただけでは見通しの持ち方等がわかりにくい。</p> <p>○索引は見開き2ページ159項目掲載。重要事項も別枠に22項目記載。目次は小学校との学習のつながりを明記。</p> <p>●重要数学用語は太ゴシック体。覚えたい性質は、枠囲み(背景色なし)してあるがポイントとなる解法や考え方などは文全体が太明朝体で書かれており、重要であることが視覚的につかみにくい。</p>
学図	<p>○方程式の定義から解法のまとめまで例題11問(比例式が別で例題2問)で導いている。小数や分数を含む方程式では解答例の枠内に吹き出しを設けて手順を明記し、理解を助けている。</p> <p>○方程式の利用では代金・長方形の辺の長さ・過不足・速さ・比例式の5種類。比例式以外は線分図やことばの式、表を用いて理解を助ける表記になっている。</p> <p>○証明の進め方についてわかりやすく説明があり、1つの問題を例にして、図を使って根拠となることがらになりやすくまとめがあり、手順がつかみやすい。</p> <p>○索引は見開き2ページ113項目掲載。目次は小学校との学習のつながりを明記。</p> <p>○重要数学用語は太ゴシック体で見やすい。覚えたい性質は枠囲み(背景色あり)され、学習が整理しやすい。</p>
教出	<p>○方程式の定義から解法のまとめまで例題11問(比例式が別で例題2問)で導いている。移項など解法の重要な部分は別枠を設け、色をつけて意識させる工夫あり。</p> <p>○方程式の利用では代金・過不足・比例式の3種類。線分図、表を用いて理解を助ける表記。</p> <p>●証明の進め方が、例題の解答の流れに合わせて一般的な手順→例題の解と図→手順→解と図…と示してあり、見通しを持つ手順が明瞭であるが、説明の文が長い。</p> <p>○索引は見開き2ページ117項目掲載。英語表記がある。目次は小の学習のつながりを明記。</p> <p>●重要数学用語は中太UD体。覚えたい性質が枠囲み(背景色オレンジ)されていて意識しやすいが、中にかいてある図に使ってある色(朱)がオレンジと重な</p>

	り合って見難い。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ●方程式の定義から解法のまとめまで例題10問（比例式が別で例題2問）で導いている。移項など解法の重要な部分は別枠を設け、色をつけて意識させる工夫あり。小数を含む方程式の例題がない。 ○方程式の利用では年齢・代金・過不足・速さ・比例式の5種類。絵や線分図、ことばの式、表を用いて理解を助ける表記になっている。 ●証明の手順を3つに分け、2つの例題で手順を図や式を使って追った後、実際の証明の形を示している。ただ、説明が3ページにわたっており、簡潔ではない。 ●索引は見開き2ページ131項目掲載。重要事項も別枠に25項目記載。目次に小とのつながりの明記なし ○重要数学用語は太ゴシック体で見やすい。重要事項は太枠囲み（背景色なし）、覚たい性質は背景色を付けて他と視覚的に分けて、学習の整理をしやすくしている。
数研	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式の定義から解法のまとめまで例題13問で導いている。ポイントや活用する性質は別枠を設け、式等に色をつけて意識させる工夫あり。デジタルコンテンツ内で天秤の動きが見られたり、フラッシュカードで簡単な方程式の練習ができる。 ○方程式の利用では、代金・過不足・速さの3種類。絵、線分図、表、生徒の会話を用いて理解を助ける表記。1問目では式に合わせて手順が明記。また、速さの問題ではデジタルコンテンツ内で人の動きが確認できる。 ○証明の手順について見通しを筋道たてて丁寧にまとめ、根拠となる事柄をどのように使うか具体的に明示するとともに、レイアウトや色使いも工夫され、理解が深まるようにしてある。 ●索引は表裏2ページ145項目掲載。目次に小とのつながりの明記なし。 ●重要数学用語は太ゴシック体。覚たい性質は枠囲み（背景色あり）されている。重要事項について太字で書いてあるものの、背景色等の工夫など、効果的な視覚支援が少ない。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式の定義から解法のまとめまで例題9問（比例式が別で例題2問）で導いている。ポイントや活用する性質は別枠を設け、式の中に色をつけたり、考え方を具体的に明記する等の理解を助ける工夫がある。 ○方程式の利用では、代金2種類・過不足・速さ・比例式の4種類。絵、線分図、表を用いて理解を助ける表記。1問目では式に合わせて考え方の手順を明記。速さの問題ではデジタルコンテンツで人の動きが確認できる。 ●証明の手順がチャート図で示され、根拠となることがらについて、簡潔明瞭でわかりやすいが、具体的ではないため（三角形の合同条件のどれがいえるか等）、補足説明が必要。 ○索引は見開き2ページ125項目掲載。英語表記あり。目次は小の学習のつながりを明記。 ●重要数学用語は太ゴシック体。覚たい性質は枠囲み（背景色あり）されているが、太明朝体で長文のものもあり、重要な部分が視覚的につかみにくい。

(5) 言語活動の充実

視点① 数学的な表現を用いて自分の考えを説明し伝え合う活動の工夫

(方法) ア 数学的な活動の課題がわかりやすく示されているか

イ 考え方を説明する例題や問題の支援として説明のモデルや解説等が示されているか

ウ 説明する例題や問題の数がいくつあるか

1年「文字式」

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○「深い学びのページ」では、問題発見・解決の過程が具体的な活動で示されており、図や式を使って自分の考えを説明し伝え合う活動とともに、多様な考えを認めたり、共通点や相違点を見つけたりする活動が設定されている。</p> <p>○考え方を説明する「Q」において、どのように説明すればいいか説明のモデルが示されている。また、章末の「活用の問題」では、記述式の問題があり、巻末にあるそれらの「解答」には「考え方」や「説明のポイント」も示されている。</p> <p>○考え方を説明する例題や問題の数は6問である。</p>
大日本	<p>●文字式の利用の導入では、問題発見・問題解決の流れを意識した課題が示されているが、生徒自身の考え方を説明する問いはなく、すべてモデルの考え方を説明する問いになっている。</p> <p>●章末の「力をのばそう」にある記述式の問題のみ解答が巻末にある。</p> <p>○考え方を説明する例題や問題の数は、「レポートを書こう」の課題を含めて6問である。</p>
学図	<p>○「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決までの具体的な活動が示されており、モデルの考え方とともに自分の考えも説明し伝え合う活動が設定されている。また、すべての「Q」に、生徒のつぶやきや疑問が吹き出しの形で示され、話し合い活動を意識した構成になっている。</p> <p>○考え方を説明する例題や問題のうち1問が、穴埋めの形式で2つの考え方の説明のモデルが示されている。</p> <p>●考え方を説明する例題や問題の数は2問、吹き出しで対話を意識した例題や問題が5問、計算の仕方等の技能を説明させる問題が1問である。</p>
教出	<p>○「学習のプロセスページ」では、問題発見・解決のプロセスが具体的な活動で示されている。その中に、自分の考えを説明したり、話し合ったり、振り返ったりする場面が設定されている。</p> <p>●章末の「学んだことを活用しよう」のみ解答が巻末にある。</p> <p>○考え方を説明する例題や問題の数は5問で、計算の仕方等の技能を説明させる問題が6問である。</p>

啓 林 館	<p>○問題発見・解決に特化したページはないが、自分の考えを説明したり、他者の考え方を聞いて自分の考え方と比較したりする場面に「説明しよう」や「話しあおう」の場面が設定されている。また、学習の理解の定着が図る場面では「まとめよう」の場面が設定されている。</p> <p>●考え方を説明するどの例題や問題にも、説明のモデルや解説等は示されていない。</p> <p>○考え方を説明する例題や問題の数は4問、計算の仕方等の技能を説明させる問題が3問である。</p>
数 研	<p>●問題発見・解決に特化したページはない。「TRY」や「Q」等の中には、生徒のつぶやきや疑問が吹き出しの形で示され、対話を意識した構成になっているものもあるが、思考の方法や知識・理解の定着を求めるものであり自分の考えを説明し伝え合う活動につながっていない。</p> <p>●説明する問題では、説明のモデルや解説等は示されていない。</p> <p>●吹き出しで対話を意識した例題や問題は7問あるが、考え方を説明する問題は発展ページの1問しかなく、数が少ない。</p>
日 文	<p>○「学び合おう」では、問題解決型の過程が提示されており、図や式を使って自分の考えを説明し伝え合う活動とともに、多様な考えを認めたり、共通点や相違点を見つけたりする活動が設定されている。</p> <p>○説明する問題では、「表現の例」として説明のモデルが示されている。また、章末の「とりくんでみよう」には記述式の問題があり、解答が巻末にある。</p> <p>●吹き出しで対話を意識した例題や問題が1問と、考え方を説明する例題や問題が2問と数が少ない。</p>

種 目 名 (理 科)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫

視点② 観察、実験の技能を習得するための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 興味・関心を高めるための工夫

視点② 探究の過程を通じて、資質・能力の育成を図る工夫

視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫

視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況

視点③ 学習内容の系統性、既習内容の関連

(4) 内容の表現・表記

視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方

視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真、資料等の活用の状況

(5) 言語活動の充実

視点① 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫

視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫

視点③ 考えを広げ深める対話的な学びの工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p><視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫> ○章のはじめには「これまでに学んだこと」として、小学校の学習内容が紹介されている。 ○つまずきやすい内容には、「例題・練習・確認」やていねいな解説場面「考え方」が設けてある。公式や重要事項は「ここがポイント」欄で強調してある。(1～3年生合わせて14箇所)</p> <p><視点② 観察・実験の技能を習得するための工夫> ○基礎技能は本文と区別した囲み「基礎操作」で示してあり、図や写真を使って手順や注意事項について記述されている。</p>
大日本	<p><視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫> ○章のはじめには「思い出そう」として、小学校で学んだ内容が示されている。 ○つまずきやすい内容には、「例題」→「解答例」→「演習」といった流れで取り組み方が示されている。(1～3年合わせて12箇所)</p> <p><視点② 観察・実験の技能を習得するための工夫> ○観察・実験でよく用いられる器具の基本的な操作については、「基本操作」として紹介されており、図や写真で解説されている。動画コンテンツ(QRコードなどでウェブサイトアクセスして使用)によって使い方の解説を見ることができる。</p>
学図	<p><視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫> ○章のはじめに「Can-Do-List」があり、その章で身に付けるべき知識・技能が明記されている。 ●つまずきやすい内容には、QRコードを通して解法が示される例題があり、プログラムを組んだ解説が公開されている。しかし、解法が示されている場面が他者と比較して数は少ない。 ●プログラムによる解説は、低学力層の生徒の実態には合わない部分がある。</p> <p><視点② 観察・実験の技能を習得するための工夫> ○基本的な実験器具の操作については、「基本操作」として教科書に記載されている。また、操作を解説する動画をQRコードから確認することができる。</p>

<p>教 出</p>	<p><視点① 知識や概念の定着を図り，理解を深めるための工夫> ○単元のはじめに，「これまでの学習」として，小学校の内容の復習がある。 ○例題は，解き方や考え方が順序立てて分かりやすく解説されている。 ●例題で解き方が示される場面の数が他社と比較して少ない。（1～3年合わせて6箇所） ●「まなびリンク」では，学習内容と関連する外部ページにアクセスできる専用ページが開かれ，教科書では紹介されない発展的なものも閲覧できるが，「まなびリンク」で紹介されている内容は発展的なもので，「理解を深める」目的で利用できるものは少ない。</p> <p><視点② 観察・実験の技能を習得するための工夫> ○観察や実験で使用する器具や装置の操作，必要となる基礎的な技能は「基礎技能」として図や写真を使ってまとめている。 ○巻末に「基礎技能」も含めた索引があり，後から参照しやすい。</p>
<p>啓 林 館</p>	<p><視点① 知識や概念の定着を図り，理解を深めるための工夫> ○本文中のつまづきやすい計算場面などは「例題」が配置されて解き方・考え方が示されている。また，同じ考え方で解ける「練習」も配置されている。（1～3年合わせて15箇所） ○生徒が勘違いしやすい基本事項は，「なるほど」のコーナーで正しく理解できるように情報を示してある。 ○章の導入や「学習のまとめ」などで，QRコードからリンクするコンテンツで復習問題や学習に関連する映像を利用できる。</p> <p><視点② 観察・実験の技能を習得するための工夫> ○観察・実験で必要になる実験技能の解説については，「サイエンス資料」という形で図や写真で紹介されている。QRコードからリンクするコンテンツで，映像を閲覧できる。 ●観察実験の手順が視覚的に分かりにくいものがある。</p>

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p><視点① 興味・関心を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入部の「レッツ スタート！」やコラムなどで、身のまわりの事象について考えさせる場面が設けられている。 ○「私たちとつながる科学」「つながる科学」「世界につながる科学」「未来への科学」というテーマの異なるコラムで学びを教室の外の世界に広げ、日本のもつ科学・技術や日常生活との関連に誘導している。 ○単元末の「科学の本だな」で、学習内容に関連した図書の紹介がある。 ○科学史のコラムにマンガを取り入れ読みやすくしている。 ○デジタルコンテンツの活用が有効な箇所に「Dマーク」を付し、その活用が促されている。他教科の内容、動画、シミュレーション体験、Webページへつながるなどに分類されている。 <p><視点② 探究の過程を通じて、資質・能力の育成を図る工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究のフローチャートで探究の過程が明確化されており、「課題に対する自分の考えは?」「調べ方を考えよう」「考察しよう」など探究の過程に直結した言語活動が配置されている。 ○「科学のミカタ」で理科の見方・考え方を提示し、深い学びに導こうとしている。 ○「?課題」に対する結論は「!課題に対する結論を表現しよう」で、自分の言葉でまとめることが重視されている。 ○節末「学びをいかして考えよう」、章末「学んだことをつなげよう」という言語活動が設定されている。 <p><視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コラム「つながる科学」は、「くらし」「自然のふしぎ」「働く人」「防災」など、内容によって分類されている。 ○「どこでも科学」で、手軽なものづくりを通して学習内容が深められる工夫がある。 ○単元末コラム「世界につながる科学」や本文コラム「つながる科学 働く人と科学」で、様々な職業に就いている人の仕事の内容を学習内容と関連付けて紹介されている。 ○防災・減災教育への対応について、節を設定して考えさせるようにしている。 ○巻末の「理科の学習を深めよう」で、博物館や科学館などの校外施設の活用を促している。

大日本	<p><視点① 興味・関心を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭ページで、学習意欲の喚起のため、理科に関連した職業が紹介されている。 ○単元や章の導入ページで、身のまわりと関連があるものや科学への夢をもてるような写真や資料を掲載し、生徒の「知りたい!」「学びたい!」という知的好奇心を高めたいと考えている。 ○「Science Press」で学習に関わる科学の話題が紹介されている。 ○「科学のあしあと」で科学者の業績などが紹介されている。 ○ウェブサイトを活用した学習ができるところが設定されている。 <p><視点② 探究の過程を通じて、資質・能力の育成を図る工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「理科の学習の進め方」のページで、教科書の流れに沿って、理科の探究の過程をつかめるようにしている。巻末の「探究の進め方」のページで、探究の過程を具体的な課題をもとに示している。 <p><視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「くらしの中の理科」で日常生活と学習との関連が多数掲載されている。 ○防災教育やキャリア教育にかかわる話題や日本の伝統・文化を感じられる読み物が資料としてとり上げられている。 ○「Professional」で理科と職業との関連が紹介されている。 ○「行ってみよう!科学館・博物館」,「ジオパークを見学してみよう!」,「生物を見に行こう!」で地域の身近な自然について知り、施設利用を勧めている。
学 図	<p><視点① 興味・関心を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「理科のトリセツ」で、理科を学ぶ意味や学ぶ方法を丁寧に解説している。 ○単元の最初に、簡潔にはっきりと生徒に問いかける言葉がある。 ○教科書に書ききれない文例やレポート例などがQRコードコンテンツで提供されている。 <p><視点② 探究の過程を通じて、資質・能力の育成を図る工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間ごとの課題や見通し、まとめが明確に示されている。 ○単元のはじめや探究のはじめに生徒が解決したくなるような導入場面が設けられている。また、章のはじめには「Can-Do List」で、つきたい力が明確にされ章末には「何ができるようになったか」で章のはじめの目標が達成できたかをふりかえることができる。 ○各単元末に、「振り返って深める」「考えて深める」「発信して深める」「つなげて深める」などの深い学びを実現する活動例が設けられている。 ○探究を進めて、次の疑問が生じるまでの過程、探究過程で生じる他者との話し合いの仕方やレポートの書き方のコツなどが示してある。 <p><視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の各単元の最初には「日常の出来事から、不思議を見つける場面」の例を示した特設ページが設定してある。巻末にはそれぞれの場面の解説がある。 ○単元末に「学びを日常にいかしたら」という形で問題が設定されている。 ○QRコード先などに現代的な課題に対応した新しい教材をそろえている。 ●写真等の情報が古いものがある。

<p style="text-align: center;">教 出</p>	<p><視点① 興味・関心を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元扉や章の導入で、大きな写真や資料性の高い写真を活用している。 ○学びに役立つ情報をQRコードをつかってウェブサイトで見ることができる。 ●単元によっては、写真の大きさが小さいものや、数が少ないものがある。 <p><視点② 探究の過程を通じて、資質・能力の育成を図る工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「探究の進め方」を折り込みとして綴じられており、本文ページを開いた状態でいつでも対照できるようになっている。 ○生徒が日常で目にする機会が多いものと関連させてあり、学習の始まりである「疑問」から「課題」の設定にいたる過程を、身近なものや経験を通して思考を進められるようにしている。 ○論理的な考察を通して表現していくことができるようにと、本文ページにも「私のレポート」を数多く掲載している。 ○課題に対して話し合いを通して、自らの考えを出し合い、練り上げていく進め方を重視し、「仮説」、「計画」の場面では、生徒キャラクターによる対話の例を多く提示している。 ○「学習前の私」と「学習後の私」を対比させて考えさせている。 <p><視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や社会・環境との関連を「ハローサイエンス」の中でとりあげ、科学の話題（発展的な内容を含む）を紹介している。また、科学者列伝で、学習に関連のある科学者について紹介している。 ●ハローサイエンスと本文との関連づけが生徒だけでは難しい。 ○校外施設の活用について、各学年の巻末に「校外の施設を活用しよう」で、広島市健康づくりセンター健康科学館他、各地の博物館・科学館、動物園等の紹介がある。 ●写真や図などの情報がいつのものか明確にされていないものがある。
<p style="text-align: center;">啓 林 館</p>	<p><視点① 興味・関心を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「科学にアクセス」や「つながる学び」、「学習のまとめ」等で、教科書のQRコードを読み取ると、デジタル教材などの学習の参考になる情報を見ることができる。 ○巻末試料「サイエンス試料④」では47都道府県それぞれの自然環境に関係する切手を「地域・環境資料集サイエンス・スタンプ47」で紹介し、自然の多様性と共通性を実感できるようにと設定している。 <p><視点② 探究の過程を通じて、資質・能力の育成を図る工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元に1つ「探Q実験」を設定し、巻末の「探Qシート」により生徒の活動をサポートする形式になっている。また、単元学習後に、さらに探究的な課題に取り組めるよう、「みんなで探Qクラブ」を設定している。 ○巻頭に「探究の過程」を「課題の把握」→「課題の追究」→「課題の解決」のサイクルで示している。 ○生徒が自ら考える場、また対話的な学びの場として、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「表現してみよう」を設けており、「計画」「予想」「分類」「比較」などのマークを添え、理科の見方・考え方をはたらかせて取り組める

	<p>ようにしている。</p> <p>○（単元導入には、課題意識を持って単元の学習には入れるように「学習の見通し」→「学ぶ前にトライ！」を設けている。また、同じ問いかけを、単元末に「学んだ後にリトライ！」として設け、習得したことを確認し、学びの深まりを実感できるようにしている。</p> <p>○小学校でのプログラミング学習を活用して発展させるために、例題や課題を設け、プログラミング的思考の育成をねらっている。</p> <p><視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫></p> <p>○生活の中の何気ない疑問を、学習内容を活用して対話を通して解決する場面として「みんなで解決」を設定している。</p> <p>○節の学習から身近な課題に思考をつなぐように「活用してみよう」を設けている。</p> <p>○学習と関連する話題を科学コラム「部活ラボ」「お仕事ラボ」「お料理ラボ」「深めるラボ」で紹介し、単元末には「ひろがる世界」で学習内容を応用した身近な話題や将来期待されている科学技術などを取り上げている。</p> <p>○「防災減災ラボ」や「環境」, 「科学史」で自然や環境問題, 科学の歴史について考える場面を設定している。</p> <p>○化学変化とイオンの導入で、単三形乾電池2本で動くロボットが宮島口西～厳島神社までの約3kmの遠泳に成功した様子が示されている。</p> <p>●他の単元で新しい資料がある分、3年地球単元でもより新しい資料が欲しい。</p>
--	--

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p><視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫></p> <p>○A4サイズ, 総ページ数（1年270ページ+付録, 2年318ページ+付録, 3年334ページ+付録）</p> <p>○配列（1年 生物→物質→現象→大地）（2年 化学変化→生物→天気→電気）（3年 イオン→生命→運動→宇宙→地球と未来）</p> <p><視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況></p> <p>○探究の意識づけが高い構成になっており（表紙から探究内容になっている）、用紙サイズもA4サイズのため実験方法などの流れが見やすい。</p> <p>○単元末に「学習の内容の整理」があり重要語句がまとめてある。</p> <p>○単元末に「確かめと応用」「確かめと応用（活用編）」を補充・発展的な問題として設定している。</p> <p>○発展的な学習の取り扱い数（1年13, 2年26, 3年31）</p> <p><視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連></p> <p>○各ページ左下に探究のどの過程を学習しているかが分かるようになっている。</p> <p>○既習内容の確認として章の始めや途中に「これまでに学んだこと」「学んだことをチェック」「学んだことをつなげよう」として示されている。</p> <p>○カリキュラムマネジメントの観点からも他教科で学ぶ事の一覧がP5に整理されており, わかりやすい。</p>

大日本	<p><視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○B5サイズ, 総ページ数(1年 294 ページ, 2年 318 ページ, 3年 374 ページ) ○配列(1年 生物→物質→現象→大地)(2年 化学変化→生物→電気→天気)(3年 運動→生命→イオン→宇宙→地球と未来) <p><視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「まとめ」があり重要語句がまとめている。 ○単元末に「単元末問題」「読解力問題」を補充・発展的な問題として設定している。 ○発展的な学習の取り扱い数(1年 19, 2年 28, 3年 39) <p><視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習内容の確認として章の始めや途中に「思い出そう」「ことば」「くらしの中の理科」として示されている。 ○「つながる」で他教科との関連が示されている。
学図	<p><視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○B5サイズ, 総ページ数(1年 272 ページ+付録, 2年 288 ページ+付録, 3年 280 ページ+付録) ○配列(1年 生物→物質→現象→大地)(2年 化学変化→生物→電気→天気)(3年 運動→生命→イオン→宇宙→自然・科学技術と人間) ○巻末に各学年, 学びの交換アイデアボードがついている。 <p><視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「学びを日常にいかしたら」を発展的な問題として設定している。 ●発展的な学習の取り扱い数について学年に応じて増えていく等の工夫がない(1年 12, 2年 11, 3年 13)。 <p><視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章ごとに色分けしてある。 ○既習内容の確認はQRコードを使うことで, 基本問題, 章末問題ができるようになっている。
教出	<p><視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○B5サイズ, 総ページ数(1年 314 ページ, 2年 334 ページ, 3年 370 ページ) ○配列(1年 生物→物質→大地→現象)(2年 化学変化→動物→天気→電気)(3年 イオン→生命→運動→宇宙→地球と未来) ○巻末に 1年 生物カード 2年 原子モデルカード 3年 星座早見盤がついている。 <p><視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「要点と重要語句の整理」があり重要語句がまとめている。 ○単元末に「基本問題」があり, 補充問題として設定している。 ○発展的な学習の取り扱い数(1年 17, 2年 29, 3年 32) <p><視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習内容の確認として章の始めに「思い出そう」がある。 ○「ブリッジ算数」で小学校算数との関連が示されている。

啓 林 館	<p><視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○B5サイズ, 総ページ数 (1年 300 ページ+付録, 2年 316 ページ+付録, 3年 348 ページ+付録) ○配列 (1年 生命→地球→物質→エネルギー) (2年 生物→天気→化学変化→電気) (3年 生命→宇宙→イオン→運動→地球と未来) ○巻末に学年末総合問題が各学年にある。3年生には中学校総合問題がある。各学年とも主な実験のワークシートがついている。 <p><視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「学習のまとめ」があり重要語句がまとめてある。 ○単元末に「力だめし」を補充・発展的な問題として設定している。 ○発展的な学習の取り扱い数 (1年 19, 2年 23, 3年 27) <p><視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習内容の確認として章の始めに「学ぶ前にトライ」して示されている。 ○巻末に理科でよく使う「算数・数学との関連」が示されている。
-------------	--

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p><視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページ番号下に探究のフローチャートが示されており, 節の探究に見通しがもてるようになっている。 <p><視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真, 資料の活用の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験・観察の写真やイラストが大きくわかりやすい。 ○写真とモデルの図の構造を工夫し, 粒子概念を理解しやすい工夫がされている。 ○グラフの読み取り方の手順を示したり, 図中の色や模様を変えたりすることで読み取りやすい工夫がされている。
大 日 本	<p><視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方></p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を「? どのような生物が, どのような場所で生息しているだろうか。」等分かりやすく明記している。 <p><視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真, 資料の活用の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実験の前後での変化の違いをわかりやすく写真で示している。

<p>学 図</p>	<p><視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方> ○大単元の始めに、「ふり返ろう・つなげよう」で本単元につながるこれまでの学習内容の要点をまとめている。次に、「問題発見」として、本単元の学習内容と日常生活や社会との関連を明記し、単元の目標とゴールをイメージしやすくしている。 <視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真，資料の活用の状況> ○実験・観察にかかわる基本操作等を図やイラストで分かりやすく説明している。</p>
<p>教 出</p>	<p><視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方> ○課題や仮設，計画等学習のねらいや学習活動をわかりやすく明記している。 ○各章の導入では、「これまでの学習」と「学習前の私」を明記し，学習意欲につながるような工夫をしている。また，章末では「要点のチェック」と「学習後の私」を示し，学習前後での変化をみることができるようになっている。 <視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真，資料の活用の状況> ○生徒や先生が会話をする場面をイラスト付きで掲載し，学習のヒントやポイントが分かりやすくなっている。 ○分類を表であらわすときには，分類の観点ごとに示し焦点を絞った示し方をしている。</p>
<p>啓 林 館</p>	<p><視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方> ○本時のねらいや課題を「？」で示し，フォントを大きく太くすることで課題を分かりやすくしている。 ○「考えてみよう」を計画・予想や作図・モデル等に分類し，何のための学習活動か，何を考えたらいいか明確にしている。 <視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真，資料の活用の状況> ●図や写真の表記がわかりにくいものがある。また，図に関わる色の使い方が統一されていないため，科学的な意味づけが不明瞭な部分がある。文章表記に基づく図や写真の掲載がなく，図に関わる色の使い方が統一されていないため，科学的な意味づけが不明瞭な部分がある。 ○自然観察のポイントを2ページにわたり，写真を用いて説明している。 ○動物の写真は躍動感のあるものを使用している。</p>

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p><視点① 観察, 実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫> ○課題に対する結論を表現しようという項目があり, 課題に対して自分の考えをまとめる活動を明示している。(1年44, 2年51, 3年54)</p> <p><視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫> ○章のはじめに, これまで学んだことが示されており, レポートの書き方というページがある。</p> <p><視点③ 考えを広げ深める対話的な学びの工夫> ○考えを広げ深める対話的な学びの工夫として, 発表しよう 説明しよう 話し合おうと, 話し合っ発表したり, 自分の理解度をアウトプットしたりする活動が明示されている。(1年7, 2年2, 3年3)</p>
大日本	<p><視点① 観察, 実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫> ○結果の例として, 結果からわかることを箇条書きして例示している。 ●結果の例として, 結果からわかることを箇条書きで例示してあるが, 自分で考察する活動等の明示がない。</p> <p><視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫> ○章のはじめに, これまで学んだこと・これから学習することがまとめられており, 巻末にノートやレポートの書き方が詳しく書かれている。</p> <p><視点③ 考えを広げ深める対話的な学びの工夫> ●対話的な学習につながる学習活動がはっきりと明示されていない。</p>
学図	<p><視点① 観察, 実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫> ○章のはじめに, 学びのあしあとという図や文章で説明する活動が明示してあり, 単元後にも同じ活動をして, 自己の理解度や成長を比べられる工夫がある。</p> <p><視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫> ○ふり返ろう・つなげようという既習事項の確認及びレポート・ノートの書き方を詳しく説明するページがある。</p> <p><視点③ 考えを広げ深める対話的な学びの工夫> ○単元末に「発信して深める」学びをキャッチボールという調べたこと, 考えたりしたことをレポートに書いたり, 発表する活動が明示されており, 友達と意見交換をすることで対話的な学びにつなげている。(1年4, 2年4, 3年4) ●学習の中での対話的な学びにつながる活動は特に明示されていない。</p>
教出	<p><視点① 観察, 実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫> ○各学習の最後に, 学習後の私として, 学習した事柄を用いて課題を説明する活動が明示されている。 ●学習の中で, 考察等を行う言語活動は, 特に明示されていない。</p> <p><視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫> ○「これまでの学習」, 「学習前の私」で既習事項を確認し, レポートの書き方が示され, 自分の考えをまとめる方法が例示されている。</p>

	<p><視点③ 考えを広げ深める対話的な学びの工夫></p> <p>○課題の提示後に、話し合おうという項目が示されている。既習の事柄を用いて話し合う場面が設定されている。また、生徒同士の話合のイラストも提示されており、対話的な学びの工夫がなされている。</p>
啓林館	<p><視点① 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫></p> <p>○考えてみようという項目で、予想や仮説を立てたり、結果を考察する活動が明示されたりしており、【分類】【比較】【作図】など考察方法もいくつかの方法が示されている。(1年29, 2年33, 3年39)</p> <p><視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫></p> <p>○「つながる学び」で既習事項を確認し、「わたしのレポート」でレポートの例と作成のチェックリストが示されている。</p> <p><視点③ 考えを広げ深める対話的な学びの工夫></p> <p>○話し合ってみようという項目では、生徒同士の対話を意識した活動が明示されている。(1年15, 2年15, 3年23)</p> <p>○みんなで解決というサイドコラムでは、発展的な内容についても話し合う活動が明示されている。(1年4, 2年5, 3年5)</p>

種 目 名 (音楽【一般】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材の目標の示し方
- 視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫
- 視点③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫
- 視点④ 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫
- 視点⑤ 音楽を形づくっている要素の定着を図るための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫
- 視点② 表現と鑑賞の関連
- 視点③ 主体的・対話的で深い学びを促す学習活動

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 多様な音楽からの選曲
- 視点② 発達段階に応じた配列と分量
- 視点③ 発展的な学習に関する内容
- 視点④ 発行者の特徴

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 説明の分かりやすさ
- 視点② 写真・イラスト等の活用

(5) 言語活動の充実

- 視点① 表現領域における言語活動の工夫
- 視点② 鑑賞領域における言語活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 題材の目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 掲載順にシンプルに示してある。 ○ 曲ごとに、大きなねらいと具体的な視点が示してあり、見通しをもった学びが実現できる。 ○ 構成、パートの役割、表現の工夫、曲想などを深めるポイントがわかりやすく提示されている。 <p>視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ここが分かればGrade Up!」が「深めよう音楽」に変わり、さらに確かな学力の定着が図れる。 ○ 「My Voice」で、イラストとともに分かりやすく示されている。 ○ “心の歌”では風景写真と共に大きく歌詞が掲載されイメージを大切にできる。 <p>視点③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コード表から音を選んで行う創作が取り掛かりやすく、また、伴奏を変えることでイメージの広がりを求めることができる。 ○ 「My Melody」は手順が分かりやすく示され、書き込み式になり、さらに取り組みやすく工夫されている。 ○ 「音のつながり方」「音素材」という視点で各学年構成され、発達段階に応じて学習することができる。 <p>視点④ 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若者が関心のあるJ-POPの説明が詳しく示してある。 ○ 今までは教科書の最後にあった口絵のページの資料が各教材のページに移動しており、関連が分かりやすい。 ○ 定番の鑑賞曲だけではなく、ポピュラー音楽、民族音楽、社会と音楽のつながりなど幅広いジャンルが取り扱われている。 <p>視点⑤ 音楽を形づくっている要素の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「生活と社会の中の音楽」のページ(全冊)など、音楽で生活を豊かにするという基本方針を意識したページが増えている。 ○ 学ぶべき共通事項を曲ごとに示している。 ○ 共通事項の説明が楽譜と共に説明されており分かりやすい。

教 出	<p>視点① 題材の目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目次が大きく3つ“うたう”（歌唱），“つくる”（創作），“きく”（鑑賞）に分類されており，領域のバランスがとれた構成となっている。 ● 学ぶ共通事項が各曲で示されているが，示された以外の事項に関心を持ちにくい感がある。 ○ 「比べてみよう」「深めてみよう」の教材の提示がわかりやすい。 ○ 「Active!」のページは，アクティブラーニングを意図した主体的・協働的な学び，深めた学びになるよう設定されている。目次の次のページの表（学びのユニット）でその関係性が分かる一覧になっている。 <p>視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の歌をトップに掲載し，後世に歌い継ぐ意識を持たせている。 ○ 「Let's Sing!」で歌うための準備など，イラストでイメージしやすく示されている。 <p>視点③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 難易度が高くない，取り組みやすい内容である。また，身近にある題材を使っているので興味関心を持ちやすい。 ● 言葉によるリズム表現は取り組みやすいが次の段階の創作へはつながりが難しい。 ○ 創作学習での題材（ボディパーカッション，CMソング，自然，動物）が分かりやすい。 <p>視点④ 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本と西洋の音楽の発展の様子が比較されており分かりやすく示してある。 ○ 鑑賞曲それぞれに，写真や楽譜もしっかり掲載されている。資料集のようで興味関心が持てる。 ○ 詳しい音楽年表や肖像でみる音楽年表など切り口が様々で興味もてる。 <p>視点⑤ 音楽を形づくっている要素の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱，創作，鑑賞それぞれにおいて，主体的・対話的で深い学びを意識した編集の工夫がされている。 ○ 「私たちのくらしと音楽」（2・3上・下）のページなど，生活の中での音楽の役割を示している。 ● 目次で共通事項について示してあるが，各曲のページに示されていないため確認が難しい。
--------	---

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p>視点① 興味・関心を高めるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の巻頭で、著名なアーティストの、音楽の世界へ誘うコメントを掲載している。 ○ ICT機器の活用への対応（二次元コード）がある。 <p>視点② 表現と鑑賞の関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽譜や解説だけにとどまらず、コラムやエピソード等で、表現と鑑賞を関連づけている。 <p>視点③ 主体的・対話的で深い学びを促す学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 吹き出しなどによる生徒の思考の例を明示している。
教 出	<p>視点① 興味・関心を高めるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の巻頭の風景が美しい。共通教材の歌唱曲の風景や、鑑賞曲の作曲者直筆の楽譜が示されており、各曲の表現・鑑賞の世界への導入に活用したくなる口絵写真である。 <p>視点② 表現と鑑賞の関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 器楽の教科書に「名曲旋律集」として鑑賞曲の旋律がまとめてあり、鑑賞の学びを器楽表現としても関連付けてある。 <p>視点③ 主体的・対話的で深い学びを促す学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、進んで学び合う活動が展開できるようにそれぞれの分野で工夫している。 ○ 書き込みページは、余白が十分あってメモしやすい。 ○ 吹き出しなどにより、生徒の思考を促している。

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p>視点① 多様な音楽からの選曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明確な学習の観点のもと幅広く、また生徒の心情に即した教材が配置されている。 <p>視点② 発達段階に応じた配列と分量</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関連する表現教材と鑑賞教材は、効果的な学習ができるように配置されている。 ○ 教材の学習活動の分量を弾力的に増減できるよう配慮されている。 <p>視点③ 発展的な学習に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふるさと」は、全校合唱として、3年間を見通して扱えるよう工夫されている。 ○ 「特集」のページを各冊に設け、生活や社会の中の音について考える機会を設定している。 ○ 音楽教育とSDGsとのつながりについて記述がある。 <p>視点④ 発行者の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 再生紙を使っており環境に十分配慮されている。 ○ デジタル教科書に対応している。 ○ 扉に音楽に携わる人々の内面を発信している。 ○ ユニバーサルデザインフォントが使用されている。
教 出	<p>視点① 多様な音楽からの選曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱に関しては4つの項目に分けバランスをとって選曲している。 <p>視点② 発達段階に応じた配列と分量</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びのユニットによる配置を工夫している。 <p>視点③ 発展的な学習に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「発展」のページを各冊に設け、「音」について科学的に示している。 ○ 吹き出しでポイントを示してある。 <p>視点④ 発行者の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教科書を導入している。 ○ 扉では日本の抒情的な部分を発信している。 ○ 「SDGs」に関わる記述はないが、全冊にわたって、「SDGsとESDに関する校閲」が行われている。 ○ 学習上の要所といえる「学びのポイント」に、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 説明の分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「深めよう音楽」や「指揮をしてみよう」など新しいページは、イラスト、説明とも分かりやすく工夫されている。 ○ 鑑賞では、日本とアジアの楽器比較がされていて分かりやすい。 <p>視点② 写真・イラスト等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のポイントや視点がキャラクターで示されている。 ○ 現代の著名人の写真と言葉がある。 ● 一つ一つの写真が、他者に比べるとやや小さい。 ○ 国歌において、学年ごとに違う写真を使った国際的儀礼の記述がある。 ○ 表紙のイラストが生徒の関心に沿ったものになっている。
教 出	<p>視点① 説明の分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽典が巻末に折り込んであるので、調べる際すぐにわかる。 ○ 鑑賞曲での主旋律の楽器が写真で分かりやすい。 ○ 楽典の内容と使用ページが併記されている。 <p>視点② 写真・イラスト等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分野ごとに3色に色分けされているので分かりやすい。 ○ 人物などの写真を大きく掲載しているので、演奏場面がわかりやすい。 ○ 学習のポイントや視点がキャラクターで示されている。 ○ 雅楽においてそれぞれの楽器の演奏部分が分かりやすく示されている。 ○ 国歌のページが3冊とも統一されている。

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p>視点① 表現領域における言語活動の工夫</p> <p>○ 自分の思いや意図を持つためのメモを書くところが設けられ、話し合い活動のヒントが示されている。</p> <p>視点② 鑑賞領域における言語活動の工夫</p> <p>○ 話し合う視点や、交流するためのヒントが、吹き出しで示されている。</p> <p>● 鑑賞ワークは、全ての鑑賞曲には提示されていない。</p>
教 出	<p>視点① 表現領域における言語活動の工夫</p> <p>○ 感受したことを表現にどう生かしたいか、順を追って学習を進められるようなワークのページがあり、自らの思いや意図をまとめて説明できるような音楽の学び方を知る工夫がある。</p> <p>● 歌唱教材に、自分の思いや意図を持ち、相互に伝えあう活動が示されていない。</p> <p>視点② 鑑賞領域における言語活動の工夫</p> <p>○ 相手に紹介するという視点で自分の意見を書きこむ箇所があり、伝える活動が設定されている。</p>

種 目 名 (音楽【器楽合奏】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材の目標の示し方
視点② 器楽（和楽器を含む。）の基礎・基本の定着を図るための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫
視点② 主体的・対話的で深い学びを促す学習活動

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 多様な音楽からの選曲
視点② 発達段階に応じた配列と分量
視点③ 発展的な学習に関する内容
視点④ 発行者の特徴

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 説明の分かりやすさ
視点② 写真・イラスト等の活用

(5) 言語活動の充実

- 視点① 器楽における言語活動の工夫

様式 1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 題材の目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を深めるポイントがわかりやすく提示されている。 ○ 特集ページ（アンサンブルセミナー）があり、示された目標に沿って協働的な学びが進められるようにしている。 <p>視点② 器楽（和楽器を含む。）の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ラテン楽器に奏法ページがあり、説明も分かりやすい。 ● アルトリコーダーのみのアンサンブル曲が少なく、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの二重奏を扱う楽曲が多い。
教 出	<p>視点① 題材の目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに「学びのねらい」が左上に表示してあるので目標が分かりやすい。 ○ 篠笛の奏法の説明が視覚的にわかりやすく、イメージしやすい。また、練習曲も篠笛らしい曲が多い。 <p>視点② 器楽（和楽器を含む。）の基礎・基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 左ページで基礎を身に付け、右ページで応用し、まとめができるようになっている。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 興味・関心を高めるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ギターのダイアグラムの表記が工夫されている。 ○ 写真や図版を多く用いてわかりやすく説明している。 ○ 二次元コードの工夫がなされている。 ○ 様々なジャンルの練習曲が掲載されている。 ● リコーダーの運指表がやや小さい。 <p>視点② 主体的・対話的で深い学びを促す学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人でも合奏でも楽しめるよう主体的に学習を進めやすい工夫がある。
教 出	<p>視点① 興味・関心を高めるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 名曲旋律集は親しまれている曲が多い。 ○ 楽器を演奏している写真が多く、楽器のイメージが捉えやすい。 <p>視点② 主体的・対話的で深い学びを促す学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前半は演奏の仕方、後半は前半で身に付けたものを活用する構成になっている。 ○ 学びのねらいをスタート、まとめの曲をゴールと設定し、見開きごとに学習を見通せる構成になっている。

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 多様な音楽からの選曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各楽器がバランスよく取り上げられている。 ○ 打楽器に関して、たくさんの楽器の奏法をていねいに示している。 ● 練習曲数が他者と比べるとやや少ない。 <p>視点② 発達段階に応じた配列と分量</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目次の次に、音楽科のねらいと学習内容の関連が示してあり、それぞれの教材で何を学習するのが確認できる。 ○ 学習内容に即して共通事項が分かりやすく示されている。 ○ 生徒の発達段階や各校の実態に応じて選曲できるよう、教材（楽曲）の数が適切である。 <p>視点③ 発展的な学習に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「バンドの世界をのぞいてみよう」を掲載している。 <p>視点④ 発行者の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽器別教材とアンサンブル教材によってバランスよく構成されている。特に、映画・ポピュラー音楽等のアンサンブル曲の分量が豊富である。 ○ ユニバーサルデザインフォントが使用されている。
教 出	<p>視点① 多様な音楽からの選曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ たくさんの曲数から選んで指導することができる。 ○ アルトリコーダー、ギター、和楽器及びアンサンブルの楽曲が豊富である。 ○ アルトリコーダー、箏、篠笛による創作の教材を取り入れている。 ● 打楽器の取り扱いが、他者より少ない。 <p>視点② 発達段階に応じた配列と分量</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ソプラノリコーダーとアルトリコーダーどちらを用いても学習が展開できる工夫がある。 <p>視点③ 発展的な学習に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 吹く楽器と弾く楽器についての内容がある。 <p>視点④ 発行者の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の9割以上でユニバーサルデザインフォントが使用されており、学習障害をもつ生徒にも配慮がなされている。

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 説明の分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リコーダーのアーティキュレーションの奏法が分かりやすい。 ○ ギターのダイアグラム（コード表）が、イラストで押さえる弦がわかりやすく示されている。 ○ 段階的に楽器の習得ができるようスモールステップの工夫がある。 ● 説明の字がやや小さいため見づらい。 <p>視点② 写真・イラスト等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に楽器図鑑のページがあり、様々な授業場面で使える。 ○ 現代のプロの演奏家からのメッセージがあり、価値観を知ることができる。ともに親近感をもつことができる。 ○ ギター、リコーダーの写真が掲載されている。
教 出	<p>視点① 説明の分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの楽器を演奏する手元のアップの写真に掲載して、奏法の説明を丁寧に行っている。 ○ 写真が大きく分かりやすい。 ○ リコーダーにおけるサミングの説明がきめ細かい。 ● ギターのダイアグラム（コード表）が、押さえた写真で示されている。 <p>視点② 写真・イラスト等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に写真が大きくはっきりしているため分かりやすい。 ○ 和太鼓奏法の部分に写真がたくさん使われていて分かりやすい。

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
教 芸	<p>視点① 器楽における言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループアンサンブルにおいて、話し合いながら工夫するようにヒントが示されている。
教 出	<p>視点① 器楽における言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで演奏するときに気をつけるところを視点とともに、話し合うような手掛かりがある。

種 目 名 (美 術)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- | |
|--|
| 視点① 題材の提示や各題材の目標の示し方
視点② 表現と鑑賞に関する内容（日本の美術文化） |
|--|

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- | |
|---|
| 視点① 興味・関心を高めるための工夫
視点② 生活や社会との関わりを高めるための工夫 |
|---|

(3) 内容の構成・配列・分量

- | |
|----------------------------------|
| 視点① 題材や資料等の配列
視点② 掲載されている作品の数 |
|----------------------------------|

(4) 内容の表現・表記

- | |
|----------------------|
| 視点① 題材と作品理解を深めるための工夫 |
|----------------------|

(5) 言語活動の充実

- | |
|------------------------------------|
| 視点① 言語を用いた発想・構想の工夫
視点② 作者の言葉の記述 |
|------------------------------------|

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 題材の提示や各題材の学習目標の示し方

著者	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	<p>○図画工作から美術となる第1学年の初めのページは、美術で大切にしてほしい「発見と創造」を高村光太郎の詩と作品を通して伝え、さらに「図画工作から美術へ」「学びの地図」と題し、図画工作科との関連を考えながら学習の質的变化に順応できるよう配慮されている。</p> <p>○絵画の題材の提示は「見ることからの発見」「心ひかれる風景」等で、題材提示の次に「身近なものを観察し、よさや美しさを見つけよう」等、学習のポイントを示している。また、「学習の目標」として、「知識技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」それぞれに特徴あるマークをつけ表示し、記述している。</p>
光村	<p>○図画工作から美術となる第1学年の初めのページは谷川俊太郎の「うつくしい！」の詩と中学生が撮影した「うつくしい！」を掲載し、日々の生活の中で美しさを感じ取ってほしいという願いが込められている。さらに、「美術って何だろう？」と題し、特徴的な作品を取り上げながら、幅広い表現と鑑賞を通して真理を求める態度の大切さに気付かせる工夫がされている。</p> <p>○絵画の題材の提示は「見つめ、感じ取り、描く」「心ひかれるこの風景」等である。学習を進めていく上で、表現と鑑賞を一体的に学ぶことができる構成になっており、主体的・対話的な学びにつながる工夫がされている。題材の目標も、「表現」と「鑑賞」の領域ごとに簡素にまとめている。</p>
日文	<p>○図画工作から美術と変わる第1学年の初めのページは、生徒が興味をもって見るアニメーションの背景画から風景を見つめ直して、発見こそが美術との出会いであることを伝えている。さらに「中学校美術の世界へようこそ」では、各学年の作品や活動を掲載することで3年間の学びが見通せるようにしている。</p> <p>○絵画の題材の提示は「見つめると見えてくるもの」「なぜか気になる情景」等で、発達段階を踏まえて、見開き(2ページ)構成としている。また、身につけたい力を、「造形的な見方を豊かにする視点や技能に関する目標」「発想や構想、鑑賞に課する目標」「主体的に学習に取り組むための目標」として、それぞれに特徴あるマークをつけ表示し、記述している。</p>

視点② 表現と鑑賞に関する内容 (日本の美術文化)

著者	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	<p>○美術1では少ないが、美術2・3では日本の伝統文化に関する題材も多く、対照的な表現から時代背景を感じさせるなどの工夫も見られる。 【美術1】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「祭りの造形」では日本各地の祭りに登場する山車が取り上げられ、地域の風土や伝統を反映した造形的な特徴を学ぶことができる。 ・「伊藤若冲の世界」では、多様な作品の鑑賞が可能になっている。 <p>【美術2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「探求と継承」では、名古屋城本丸復元プロジェクトを通して、込められた願いや継承することについて考えることができる。 ・「水墨画の世界」「物語を伝える絵巻物の世界」「金の表現 墨の表現」「琳派のデザイン性」「祈りの造形、仏像の美」「型から生まれる形」「織る、編む、組む」「木でつくる遊びの形」「生活に生きる伝統工芸」「伝統と創造」など <p>○基本的な技法や知識などに関する記載については、必要に応じて「美術の用語」が提示されている。巻末にも、形や色彩、材料や用具の取り扱い及び表現方法等に関する資料が幅広く掲載されている。</p> <p>【美術1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたる内容をガイダンスや学びの資料として取り上げている。「鉛筆で表す」「絵の具で表す」「文字を活用する」「紙や木を切る・削る」「焼き物の成形」「色を学ぶ、色を知る」「美術館を楽しむ」 <p>【美術2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奥行き表現」「版画の種類」「金属や石を加工する」「映像メディアを活用する」「漫画の試み」「アニメーションの技法」「共に学ぶ美術」「日本の伝統色と配色文化」「美術の歴史と交流」
光村	<p>○書き込んで鑑賞（最後の晚餐）したり、比べて鑑賞（神奈川沖浪裏・星月夜）したりすることで理解を深められる工夫がある。</p> <p>【美術1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展示室「風神雷神 受け継がれる日本の美」、「生活を彩る文様」「木と親しむ暮らし」「生活の中の焼き物」など <p>【美術2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うつくしい！」阿修羅像「墨で描く楽しさ」「北斎からゴッホへ」「絵巻物と漫画の表現」「季節感のある暮らしを楽しむ」「日本の伝統色」「海を越えた文化交流」「日本の伝統工芸」「日本の世界文化遺産」など <p>○巻末に基本的な技法や知識などに関する記載として、形や色彩、材料や用具の取り扱い及び表現方法等に関する資料が幅広く掲載されている。</p> <p>【美術1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を支える資料として「どれで描く？どれで塗る？」「描いてみよう」「さまざまな描き方」「版画の楽しみ」「文字をデザインする」「紙でつくる」「粘土でつくる」「木でつくる」「形の世界を知ろう」「色や光の特徴を知ろう」「美術館を楽しもう」が取り上げられている。 <p>【美術2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を支える資料として「発想を広げる」「写真や映像を撮影する」「映像で広がる世界」「金属でつくる」「石でつくる」「材料の可能性」「色を組み合わせる」「日本の伝統色」「海を越えた文化交流」「美術史年表」「日本の伝統工芸」「日本の世界文化遺産」「地域と美術とのつながり」が取り上げられている。

○立体的に紙面を立ち上げたり、色の再現性にこだわったりするなど、実感的な理解ができる工夫がある。

【美術1】

- ・「屏風、美のしかけ」では実際に折って見え方の違いを確認できる。「燕子花図」
- ・「広がる模様の世界」「暮らしの中の木の工芸」「暮らしに息づく土の造形」「祭りを彩る造形」など

【美術2・3上】

- ・「水と筆を操る」「浮世絵はすごい」「文化の出会いがもたらしたもの」「手から手へ受け継ぐ」「季節を楽しむ心」「北斎の大波」「水墨画の表現」「絵巻物の世界」など

【美術2・3下】

- ・「仏像に宿る心」「私の色みんなの色」アイヌと沖縄の衣服「日本の文化遺産」「仏像の種類」「美術文化の継承」など

○巻末に基本的な技法や知識などに関する記載として、形や色彩、材料や用具の取り扱い及び表現方法等に関する資料が幅広く掲載されている。

【美術1】

- ・学習に役立つ資料として、「発想・構想の手立て」「鉛筆で描く」「水彩で描く」「様々な技法で描く」「遠近感を表す」「文字の基本」「木版画」「材料を知ろう」「木工の技法」「焼き物をつくる」「色彩の基本・仕組み」「日常の中の美術」「美術館へ行こう」が取り上げられている。

【美術2・3上】

- ・「岡本太郎“芸術はみんなのもの”」「暮らしに息づくパブリックアート」「北斎の大波」「水墨画の表現」「立体を描く」「木でつくる」「金属でつくる」「絵巻物の世界」「日本美術と世界の美術の歩み」「色彩の特徴を深く知る」「日本の伝統色」が取り上げられている。

【美術2・3下】

- ・「さまざまなアートに触れよう」「日本の世界文化遺産」「受け継ぐ伝統と文化」「仏像の種類」「石を彫る」「布を染める」「映像をつくる」が取り上げられている。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 興味・関心を高めるための工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○美術1の巻頭では「図画工作から美術へ」と「学びの地図」で小学校からの流れとこれからの流れが整理されている。 ○「絵や彫刻で学ぶこと」と「デザインや工芸で学ぶこと」がそれぞれ初めに示されておりそれぞれの内容を俯瞰した導入となっている。 ○美術1では絵画や彫刻などそれぞれの分野内で「表現」から「鑑賞」という組立になっている。美術2・3では「鑑賞」を独立させて「絵画」「彫刻」「デザイン」「工芸」の分野の枠にとらわれず関連のあるものを並べて鑑賞できるようにしている。 ●それぞれの題材の特徴的な作品を比較的大きな図版で提示している。全体的にレイアウト、配色などがすっきりとして見やすい印象である。しかし変化に乏しくインパクトに欠ける感じである。 ○「原寸大」の作品図版としては美術1で若沖の「樹花鳥獣図屏風（部分・全体図は縮小版）」と美術2・3では今泉今右衛門「色絵薄墨はじき雪文鉢（同）」とダリ「記憶の固執」、ゴッホの自画像の3点を掲載している。 ○「学びの資料」として美術1では9項目16ページ、美術2・3では10項目17ページ掲載しており、技法書、資料としての役割を果たしている。 ○QRコードで教科書に掲載されていない生徒作品や動画を見る事ができるが何が見られるのかは示されていない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○美術1の巻頭では「美術って何だろう？」で、小学校からの流れが整理されている。「うつくしい！」で身の回りにある“美しい”ものを生徒の視線で風景を切り取り、写真で提示、生徒のコメントを付して「美術」への導入としている。 ○キャラクターが案内を務める展開になっていて、親しみやすさが感じられる。 ○それぞれの題材が「鑑賞」「表現」「鑑賞」という流れでできるように構成されている（一部「鑑賞」のみの題材もあり）。 ○全体的にすっきりとした構成。地色をかえて囲んだ記事などレイアウトの工夫で見やすい。 ○「原寸大」の図版が美術1には掲載がなく、美術2・3には北斎「神奈川沖浪裏」と鳥獣人物戯画「阿修羅像」パウル・クレーの水彩画の4点を掲載している。 ○「学習を支える資料」として美術1では12項目23ページ、美術2・3では14項目28ページ掲載しており、技法や資料として活用できる内容が充実している。 ○QRコードで動画や参考作品、制作工程、作品解説などが見られる。QRコードのそばに何が見られるかが示されている。 ○版画（美術1）と「鳥獣戯画」、漫画（美術2・3）を和紙のような手触りの用紙で印刷し、実物の質感を表現するような工夫をしている。 ○ダビンチ「最後の晩餐」の図版にはトレーシングペーパーが挟み込まれていて、構図の線やコメントなどを書き込める工夫がされている。 ○制作工程が具体的に示されている。「みんなの工夫」として美術1では3つの題材で、美術2・3では4つの題材で、それぞれ2人の生徒が行った表現活動が写真と文章で丁寧に示されている。

	<p>○囲み記事は他教科とのつながりや、美術以外の分野の専門家の分析など興味を持った生徒がより深く学ぶきっかけを与えてくれるような内容となっている。</p>
日 文	<p>○美術1, 美術2・3上, 美術2・3下の3分冊となっている。美術1の巻頭で「中学校美術の世界へようこそ」で小学校から中学校3年間の美術教科の内容が見通せるようになっている。</p> <p>○美術1では「美術との出会い」、美術2・3上では「学びの実感と広がり」、美術2・3下では「学びの探求と未来」をはじめに示し、学年ごとに学ぶべき内容をわかりやすく案内している。</p> <p>○一つの題材ごとに「表現」と「鑑賞」が両方できるように構成されている。独立した「鑑賞」の題材もある。</p> <p>●全体的に情報量が多く、探求的な学習にも対応できると思われるが、やや読みづらさにもつながっている印象である。</p> <p>○「原寸大」の図版は美術1で「遮光器土偶」とフェルメール「真珠の耳飾りの少女」の2点。美術2・3はゴッホの「糸杉」とモネの「印象一日の出」、北斎「神奈川沖浪裏」の3点、下巻では「縄文火焰土器」と池田学「誕生」の2点。総数の7点で3社中最も多くの図版を掲載している。</p> <p>○「学びを支える資料」として美術1では13項目18ページ、美術2・3上では鑑賞を中心に10項目16ページ、美術2・3下では8項目10ページと技法書、資料の役割を果たしている。</p> <p>発想や構想の手立てとなるような資料が充実している。</p> <p>○ほぼすべての作品に作者、または編者のコメントがつけられている。</p> <p>○QRコードでデジタルコンテンツを活用することができる。立体作品を360°見られるものが中心で数は少ない。それ以外の物は何が見られるのか示されていない。</p> <p>○美術2・3上で「あなたの美を見つけて」では“美しい”ものを生徒の視線で風景を切り取り、写真で提示して身近にある美しさに関心を持たせるような内容になっている。</p> <p>○光琳「燕子花図」は厚手の用紙に高精細印刷された美しい図版を六曲一双の形に折りたたんで実物の屏風をイメージして鑑賞できるように工夫されている。</p>

視点② 生活や社会との関わりを高めるための工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
開 隆 堂	<p>○美術1では、「生活を豊かに」という内容が6ページにわたり扱われている。学校生活など、生徒にとって特に身近な生活場面が取り上げられている。</p> <p>○美術2・3では、「美術はいつも生活や暮らしの中に」として、庭師やケーキ職人など幅広い職業の方と美術との関わりが紹介してある。</p> <p>○美術2・3の「デザインする心」の中では、楽しさや優しさやわかりやすさなど、生活における美術の役割を実感できる構成になっている。また「環境をデザインする」の中でも生活とデザインの関係について考えることができ、「学校をデザインしよう」でより具体的に身の回りを見つめ直すことができる。</p> <p>○美術2・3の「生きることと美術」として、社会の中における美術の目的などについて触れている。また、課題や責任といった言葉が使われている。</p>

光 村	<p>○「生活に生かそう」では、生徒が制作に目的を持ちやすくするため、完成後に飾ったり使ったりしている写真が載せられている。</p> <p>○美術2・3の巻頭では、生徒の一日の生活と美術との関わりが整理されており、生徒がより美術を身近に感じられる工夫がされている。</p> <p>○美術2・3の「情報を整理して伝える」「みんなのためのデザイン」「暮らしの中のキャラクター」「包の工夫パッケージデザイン」「暮らしやすい町づくり」では、デザインと私たちの生活との関わりを考えやすくするため、10ページにわたり身近にあるユニバーサルデザインやマークなどが多く取り上げられている。</p>
日 文	<p>○美術1では「デザインの扉を開こう」「楽しく伝える文字のデザイン」などで、生活の中の美術の役割を感じ取ることができる。美術2・3上では「情報をわかりやすく伝えよう」「やさしさのデザイン」「座ることから考える」「まちを彩るパブリックアート」で、8ページにわたり身近にあるマークや日用品などが取り上げられている。また美術2・3下では「魅力が伝わるパッケージ」「自分たちの生活の場を飾ろう」「生活を彩る染の味わい」「暮らしを心地よくするインテリア」「デザインと環境」「デザインで変える現在と未来」などで、デザインと私たちの生活との関わりを考えやすい内容になっている。</p> <p>○美術2・3下ではオリエンテーションに「夢をかたちにするデザイン」があり、未来の生活をより豊かにしていくデザインが紹介されている。</p>

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 題材や資料等の配列

	学年	題材等の数	項目別の題材等の数			構成・配列の仕方 意見 (○ 長所 ● 課題)
			絵画・彫刻等	デザイン・工芸等	鑑賞	
開隆堂	1	17	表現 6 鑑賞 2	表現 6 鑑賞 3	(5)	<p>○美術1が1冊(67ページ),美術2・3が1冊(123ページ)の2冊で構成されている。</p> <p>○題材が,分野別に「絵や彫刻で学ぶこと」,「デザインや工芸で学ぶこと」と配列され,表現中心の題材と鑑賞中心の題材が関連づけられている。美術2・3は,さらに「鑑賞で学ぶこと」,「まとめ」が掲載されている。</p> <p>●巻頭は,美術1が,「発見と創造」(テーマについて),「図画工作から美術へ」(写真と説明のみ),「学びの地図」(美術の学習内容)が掲載され,美術2・3は,「探求と継承」(テーマについて),「暮らしに生きる美術」(美術の働きについて)が掲載されているが,説明・文字が多く,それぞれの教科書に,テーマを設定した意味も分かりづらい。</p> <p>○題材については,生徒の興味・関心を高める魅力ある題材,自己と社会,美術と社会の関わりを考える題材,表現と鑑賞の学習の関連や系統性と,カリキュラム・マネジメントを考えた題材の構成,地域の文化財や美術館及び人材の積極的活用を図った幅広い題材開発(題材数56)が行われ,活用できるようになっている。</p> <p>○巻末は,「学びの資料」で,題材横断的な知識や技能が系統的に示され,さらに美術2・3では,鑑賞学習につながる内容,美術史が掲載されている。</p>
	2・3	39	表現 9 鑑賞 2	表現 12 鑑賞 2	14 (18)	
	合計	56	表現 15 鑑賞 4	表現 18 鑑賞 5	14 (23)	
光村	1	17	表現 6 鑑賞 3	表現 6 鑑賞 2	(5)	<p>○美術1が1冊(81ページ),美術2・3が1冊(105ページ)の2冊で構成されている。</p> <p>○巻頭は,谷川俊太郎の「うつくしい!」の文章とともに,美術1では,中学生が撮影した写真と直筆のメッセージが掲載され,感性を働かせて身近な美に目が向けられるようになっている。さらに,「美術って何だろう?」や「美術で学ぶこと」で,小学校との関連,苦手意識を持つ生徒への配慮,</p>
	2・3	22	表現 10 鑑賞 4	表現 6 鑑賞 2	(6)	

	合計	39	23	16	(11)	<p>作品の見方，3年間で学ぶことや教科書等の活用の仕方が親近感のあるキャラクターのつぶやきで提示され，分かりやすく，学習意欲を高める工夫となっている。美術2・3では，国宝「阿修羅像」正面頭部（原寸大）や全身像などを通して，日本の美術への関心を高める巻頭となっている。</p> <p>○題材は，「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」と分野別に構成され，「特別展示室」（鑑賞題材）として，美術1は「風神雷神」（彫刻と屏風）が，美術2・3は「ゲルニカ，明日への願い」（鑑賞風景と作品）が，観音開きのページで掲載され，感性に働きかけ，学習意欲を高める工夫がされている。さらに，それぞれ次のページに，学習を深めるための作品に関連した内容が掲載されている。</p> <p>○題材については，1つの題材の中で「表現」と「鑑賞」を一体的に学べるような構成となっている。例えば，美術1【表現】「見つめ，感じ取り，描く」では，鑑賞⇒表現（発想・構想）⇒表現（みんなの工夫）⇒鑑賞と提示され，学習の流れが分かりやすい。</p> <p>○生徒にイメージしやすいように「表現中心の題材」と「鑑賞中心の題材」が明記されている。</p> <p>○学習指導要領に対応して，各題材の目標を明確に提示し，「発想や構想に関する資質・能力」，「技能に関する資質・能力」，「鑑賞に関する資質・能力」を身につけられるように系統的に配列されている。</p> <p>○「美術の奥深さに気づく，鑑賞題材」として，作品や作者，美術史コーナーが設けられ，関連性の高い作品の比較鑑賞ができるなど，作品理解を深める工夫がなされている。</p> <p>○巻末については，美術1，美術2・3ともに，「学習を支える資料」材料と用具や【共通事項】に関わる資料がまとめられ，生徒が必要に応じて活用できるようになっている。</p>
日 文	1	19	表現や 鑑賞 7 鑑賞 3	表現や 鑑賞 7 鑑賞 2	(5)	<p>○美術1が1冊(75ページ)，美術2・3上が1冊(65ページ)・美術2・3下が1冊(57ページ)の3冊で構成され，生徒の成長に合わせた美術の学びができるようになっている。</p> <p>○巻頭は，美術1が「美術との出会い」「アニメー</p>

2・3上	18	表現や鑑賞 6 鑑賞 4	表現や鑑賞 6 鑑賞 3	(6)	<p>シヨンの背景画から風景を見つめ直して」,「中学校美術の世界へようこそ」,美術2・3上が一学びの実感と広がり―「多彩な表現に挑むのはなぜだろう」,「あなたの美を見つけて」,美術2・3下が一学びの探求と未来―「時代を超えて美を探求する思い」が掲載され,学びに向かうメッセージが掲載され,生徒の関心と学習意欲を高める工夫がされている。</p> <p>●3冊ともに,ガイダンスとして「この教科書で学ぶみなさんへ」(教科書の使い方)が掲載されているが,教科書の同じページ2回使われ,説明・文字が多く,必要性が感じられないページとなっている。また,同じページに掲載されている目次が,教科書の9ページ目というのも活用しづらくなっている。</p> <p>○題材は,「絵や彫刻で学ぶこと」「デザインや工芸で学ぶこと」と分野別に構成され,学習指導要領に対応して,各題材の目標が明確に提示され,分野別ガイダンスページが設置してある。鑑賞は,それぞれの分野で表現と鑑賞が一体的に学習できるように配慮されている。</p> <p>○題材については,生徒の発達や系統性に配慮して設定され,主体的・対話的で深い学びの実現,社会に開かれた教育課程・カリキュラム・マネジメントの実現,言語活動の充実,伝統文化・多様性の尊重と国際理解,社会の持続可能な発展,家庭や地域・社会への関心,人権への配慮が図られている。</p> <p>○題材については,それぞれの領域・分野の中で,系統立てた表現題材で構成され,題材ごとに導入からまとめまでをサポートできるように,3冊で16ページの増量やQRコンテンツと連動されている。</p> <p>○地域や学校の実態に合わせて,題材を選択したり,組み合わせたりすることができるように多様な題材の開発と,題材での学びを次の活動に生かせるような,題材のつながり,系統性が意図されている。</p> <p>○巻末には,「学びを支える資料」として,鑑賞・技法・色彩が題材と関連づけて掲載されている。</p>
2・3下	17	表現や鑑賞 6 鑑賞 4	表現や鑑賞 6 鑑賞 1	(5)	
合計	54	表現や鑑賞 19 鑑賞 11	表現や鑑賞 19 鑑賞 6	(17)	

視点② 掲載されている作品の数

	学年	作家作品	生徒作品	合計	鑑賞風景 作家に関連・	生徒の活動・ 活用風景	意見（○ 長所 ● 課題）
開隆堂	1	65	75	140	85	75	<p>○折込みページの活用や大型図版を掲載し、関心・意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○作家作品や関連の写真が前回より増量し、生活や社会の中の優れた美術や文化が多彩に掲載されている。</p> <p>○全ての題材に、QRコードを活用して、教科書以外の作品や動画を視聴できるようになっている。</p> <p>●作品や写真を効果的に提示されているページと、情報量（文字等）が多すぎるページがある。</p>
光村	1	97	101	198	90	74	<p>○鑑賞学習が重視され、原寸大の作品や図版の提示の仕方など、関心を高め、作品理解を深める工夫がなされている。例：「最後の晩餐」の作品とトレーシングペーパーの綴じ込み、ゴッホと北斎の比較鑑賞、本物に近い風合いの紙質</p> <p>○作家や生徒の作品が前回より増量し、制作や授業の流れが理解できるように、発想・構想のしかたに着目して作品や写真等が選定されている。</p> <p>○題材によって、QRコードを活用して学習内容に関連した画像や音声、動画等のデジタルコンテンツを利用することができる。</p> <p>○主体的・対話的な学びとなるような題材のタイトルや問いかけとともに、作品が提示され、情報量が（文字量や大きさ）精選されている。</p> <p>●写真のサイズが全体的に小さい。</p>
日文	1	73	112	185	50	63	<p>○鑑賞学習が重視され、原寸大の作品や図版の提示の仕方が効果的で、関心を高め、学習意欲を喚起し、作品理解を深める工夫がなされている。</p> <p>例：美術1の表紙のフェルメールの作品や火焰型土器（一部）</p> <p>○生徒に身近な作品やアーティスト、デザイナー、著名人が取り上げられ、美術が社会の中で生かされていることを感じながら活用できる。</p> <p>○題材によって、QRコードを活用して学習内容に関連した画像や音声、動画等のデジタルコンテンツを利用することができる。</p>

(4) 内容の表現・表記

視点① 題材と作品理解を深めるための工夫

	学年	折り込みページの内容	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本らしさ①物語を伝える絵巻物の世界」伴大納言絵巻上巻等を掲げ、絵巻物の表現方法を提示 ・「日本らしさ②金の表現、墨の表現」紅梅図襖や松林図屏風等により美術文化の理解の深化 ・「日本らしさ③琳派のデザイン性」八橋蒔絵螺鈿硯箱、燕子花図屏風等を掲げ琳派の造形の特徴やよさの考察 ・「ゲルニカで伝えたかったこと」ピカソの思いの考察 ・「美術で世界と向き合う」池田学の「誕生」とダミアン・ハーストの「ボウルを持つデーモン」を掲載し、美術で伝えたかったことの考察 ・「リノベーション、使い続ける工夫」テート・モダンやオルセー美術館等によるリノベーションの紹介、考察 	<ul style="list-style-type: none"> ○折り込みページには、伊藤若沖の樹花鳥獸図屏風や狩野山楽の紅梅図襖など横長の作品を全図掲載している。 ○題材ごとに「学習の目標」を明示している。(全) ○生徒や作家の作品の制作意図が「作者の言葉」として提示されている。(全) ○作家や作者の構想、制作、工夫、活動・活用風景の提示がある。(全) ●題材で鑑賞と表現を関連させている。題材での鑑賞と表現の関連が示されていない。(全) ○発想・構想の方法や学習の進め方を示している。(全) ○ウェブサービスで教科書掲載以外の生徒作品例や関連する動画を見ることができる。(全) ○QRコードがついている。(全)
	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・「美術の歴史と交流」日本、中国、アジア、西洋の美術史年表と代表作の提示 	
光村	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「うつくしい！」谷川俊太郎の詩と生徒作品による詩と写真を関連付けた鑑賞 ・「目次」と「美術って何だろう」図画工作とのつながりや美術ではどんなことを学ぶかの考察 ・「特別展示室風神雷神—受け継がれる日本の美」風神・雷神像と風神雷神図屏風等による鑑賞 ・「色と光の特徴を知ろう」色彩の学習 ・「美術館を楽しもう」美術館の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○折り込みページには、風神・雷神像と風神雷神図屏風や阿修羅像、ピカソのゲルニカの遠景と全図等を掲載し、折り込みページの特徴を生かした作品紹介を行っている。 ○題材ごとに「目標」を明示している。問いかける題材提示がある。(全) ○生徒や作家の作品の制作意図が作者の言葉として提示してある。生徒の文字のものもある。(全) ○作家や作者の構想、制作、工夫、活動・活用風景の提示がある。(全) ○題材で鑑賞と表現を関連させている。題材のレベルでも、鑑賞のマークと表現の

	2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・「うつくしい！」谷川俊太郎の詩と阿修羅像を関連付けた鑑賞 ・「目次」と「風景に思いを重ねて」パウル・クレーの「ニーゼン山」をもとに作者の思いの考察 ・「北斎からゴッホへ」富嶽三十六景神奈川沖浪裏とゴッホの「星月夜」等をもとに日本の美術が西洋の美術に与えた影響の考察 ・「特別展示室ゲルニカ，明日への願い」ピカソの「ゲルニカ」の鑑賞 ・「美術史年表」日本，朝鮮，中国，世界の美術史年表と代表作の提示 ・「絵の中をよく見ると」ルノワールの「読書する二人の少女」等を掲載し，鑑賞する視点の提示 ・「デザインや工芸との出会い 人の暮らしを豊かに」デザインや工芸など目的や機能を持った表現の考察 ・「色彩の基本・仕組み」色彩の学習 	<p>マークを表示し，鑑賞と表現の関連をわかりやすくしている。(全)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞作品に対して，生徒に必要な情報を提示している。(全) ○「みんなの工夫」として，中学生の制作の様子を詳しく紹介している。(全) ○質感の違うページを差し込んでいる。(全) 「星空をペガサスと牛が飛んでいく」(1)，「瀬戸内海集 帆船(朝)」(1)，「最後の晩餐」(2・3)，「鳥獣人物戯画 甲巻」(2・3)，「火の鳥(ヤマト編より)」 ○ウェブサービスで教科書掲載以外の生徒作品例や関連する動画を見ることができ。(全) ○二次元コードがついている。(全) ○折り込みページには，風神雷神図屏風や燕子花図，ピカソのゲルニカや神奈川沖浪裏等の横長の作品全図を掲載している。 ○題材ごとに「学びの目標」を明示している。(全) ○生徒や作家の作品の制作意図が作者の言葉として提示してある。(全)
日 文	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「日常の中の美術」日常の中の美術の考察 ・「美術館に行こう」美術館の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○作家や作者の構想段階，制作活動風景，活用風景の提示がある。(全) ○題材で鑑賞と表現を関連させている。鑑賞のマークと表現のマークを表示し，鑑賞と表現の関連をわかりやすくしている。(全) ●鑑賞作品に対する情報量が多いため，授業で教材として扱いにくい。(全) ○生徒作品のアイデアスケッチを提示し，生徒が学びやすくしている。(全) ○デジタルコンテンツで教科書掲載以外の生徒作品例や関連する動画を見ることができる。(全) ○二次元QRコードがついている。(全)

2 ・ 3 上	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの実感と広がり 多彩な表現に挑むのはなぜだろう」ゴッホとモネの作品の一部を原寸大で示し、表現の考察 ・「あなたの美を見つけて」中学生が撮影した「私の見つけた美」の写真をもとに自分の美を探す提言 ・「なんでこれが美術なの？」包まれたライヒスターク、ベルリン等から現代美術の鑑賞のすすめ ・「構図や技法に注目する 浮世絵はすごい」浮世絵「三世大谷鬼の奴江戸兵衛」や「神奈川沖浪裏」等を用い浮世絵の表現の良さなどの鑑賞 ・「ジャポニズムを通して考える 文化の出会いがもたらしたもの」モネの「ラ・ジャポネーズ」等により日本とヨーロッパの美術についての考察 	
2 ・ 3 下	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの探求と未来 時代を超えて美を探求する思い」アントニ・ガウディのサグラダ・ファミリア聖堂の紹介 ・「美術2・3下学びの探求と未来」と「目次」教科用図書の構成と目次の提示 ・「人間をよく見てみる ルネッサンスが目指したもの」レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」等によりルネッサンスの考察 ・「美術の力を考える あの日を忘れない」池田学の「誕生」、ピカソの「ゲルニカ」等から美術の持つ力の考察 ・「祈りの造形を感じ取る 仏像に宿る心」阿修羅像等の仏像から仏像彫刻の鑑賞の紹介 	

(5) 言語活動の充実

視点① 言語を用いた発想・構想の工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材の構成として、表現と鑑賞が分けられている。表見活動の題材においては話し合いを促すような記述があまりない。 ○ 言語活動（文章表記による発想の充実）への配慮として美術1では4題材取り上げている。 ○ 話し合いを促す記述が美術1では4題材ある。 ○ 発想のヒントとなるアイデアスケッチやワークシートなどの事例は美術1において8通りあげられている。美術2・3では8通りあげられている。 ○ 鑑賞のきっかけとなる発問・問いかけを明確にするため、定められた色枠「学習のポイント」をレイアウトに用いている。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞→表現（→鑑賞）と領域をつなげた題材設定をしており、表現をする題材でも導入で鑑賞を行う際には、話し合いの活動が入るため、言語活動ができるようになっている。鑑賞活動の中にも、制作（描いてみる）が取り入れられており、領域を行ったり来たりしながら指導できる内容になっている。（文章表記による発想の充実）への配慮として美術1では13題材、美術2・3では14題材取り上げている。 ○ 話し合いを促す記述が美術1では5題材（「話し合おう」という記述があるもの）に見られる。なお、教科書のつくりとしてどの題材も最初に鑑賞が入るので、「考えてみよう」「どのような工夫があるだろう」と聞かれると、グループや全体でシェアするようになることが予想され、自然に言語活動が入ると考えられる。美術2・3では9題材（「話し合おう」という記述があるもの）に見られる。美術2・3年でも美術1年同様にそれぞれの題材に鑑賞が入っており、それぞれの題材に自然に言語活動が入ると考えられる。 ○ 「学習を支える資料」美術2・3年P77に「話し合って見方や考え方を広げる」という項目がある。生徒に話し合いの仕方を指示するのに役立つようである。話し合い活動についてこのような資料が掲載してあるのは光村図書だけである。 ○ 発想のヒントとなるアイデアスケッチやワークシートの事例は美術1において13通りあげられている。特に「みんなの工夫」とタイトルがついているところ（3カ所）は、制作の流れを追って生徒がどのように考えているのか生徒の言葉で丁寧に記述されている。美術2・3では20通りあげられている。「みんなの工夫」は（4カ所） ○ 美術1では道徳との関連が4題材、美術2・3では13題材ある。 ○ 前回より道徳の項目との関連がわかりやすく表記されている。 ○ 作品に関連する「詩」を紹介することで作品のイメージを膨らませている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動（文章表記による発想の充実）への配慮として（鑑賞領域において）美術1では2題材（「話し合ってみよう」という記述）、美術2・3上で3題材、2・3下では1題材あげられている。 ○ 独立して行う鑑賞以外の題材は、表現・鑑賞となっており、「造形的な視点」として「考えてみよう」という記述が美術1では8題材ある。指導の流れを工夫すれば、作品制作の過程で鑑賞＝話し合い活動を取り入れた活動をすることができる。同様に美術2・3上では11題材、美術2・3下では11題材あげられている。

<p>○発想のヒントとなるアイデアスケッチやワークシートなどの事例は美術1において7通りあげられている。美術2・3上では10通り、美術2・3下では6通りあげられている。</p> <p>○美術1では道徳との関連が2題材、美術2・3上で4題材、美術2・3下では9題材ある。</p> <p>●レイアウト上、教科書の一番下の行に「✦」記号以下1.5mm画程度の大きさに1行示されているが、道徳の項目であるとは表記されていない。</p>

視点② 作者の言葉の記述

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	<p>○美術1において作者の言葉は32箇所、美術2・3においては43箇所記述されている。そのうち作家による言葉は美術1において16箇所、美術2・3において15箇所あげられている。文字の大きさは1.5mm前後の若干小さいものが用いられている。</p> <p>○美術1の佐藤オオキさんのデザインに関する鑑賞のページ(34~35ページ)は安藤さんがデザインに関する質問に答えていくような構成になっており、生徒がデザイナーの仕事について理解しやすくする工夫がある。(キャリア教育にもつながる。)(開隆堂のみ)</p> <p>○作家の言葉は「学生時代にサウジアラビアから来た留学生が、日本での食事に苦勞する姿を目の当たりにして、文化・宗教・体質などの異なる人たちが、言葉の壁を越えて安心して食事を楽しめるように、食材のピクトグラム「フードピクト」を開発しました」等がある。生徒の言葉は「川を清流にすむカワセミを呼びたいと思いました。輝いているように水しぶきを多く描きました。」等がある。</p>
光村	<p>○美術1において作者の言葉は41箇所、美術2・3において31箇所記述されている。そのうち作家の言葉は美術1において3箇所、美術2・3において2箇所あげられている。</p> <p>○題材の内容に合わせて活動の参考になるようテーマの決め方から表現方法までを作家の言葉で紹介している。</p> <p>○生徒の言葉は、「みんなの工夫」というコーナーを設け、テーマ設定から表現方法、工夫点などを制作の流れに沿って場面ごとのコメントを入れるようにしている。他の教科書にはない生徒目線の構成である。(光村図書のみ)</p> <p>○作家の言葉「花や木を木で彫って彩色したものを空間に置き、その空間も作品の一部として発表しています。好きな植物だけをつくっているの、同じ種類の草花を何度も彫っています。そうすると最初は気づかなかった細部や構造を発見できたり、形や雰囲気などを表現できたりするようになります。」等がある。生徒の言葉は「中学校3年間、毎日通る道なので「これから自分が進んでいく道」としてあらわそうと思いました。道が長く伸びて見えるように、遠近感を意識して描くよう心がけました。」等がある。</p>
日本文	<p>○美術1において作者の言葉は33箇所、美術2・3上においては26箇所、美術2・3下では24箇所記述されている。そのうち作家による言葉は美術1において7箇所、美術2・3上において6箇所、美術2・3下において2箇所あげられている。文字は2.5mm前後。</p> <p>○作者の言葉がわかりやすいマークで示されているので見つけやすい。それぞれの題材で生徒作品が掲載されており、簡潔に作品の見どころを紹介している。</p> <p>○作家の言葉「故郷の惨状を海外で見ただけだった私が、いったい何を表現できるのか思い悩んだこともありました。それでも、私には描くという手段しかありません。今すぐじゃ</p>

	<p>なくても、いつか誰かの力になる。そう思って描き続けました。」等がある。生徒の言葉は「私の絵に対する想いを描きたくて、スケッチブックを抱えたポーズにしました。服のしわや顔の陰影を意識して描いてみました。満足できる作品へと仕上がりました。」等がある。</p>
--	--

種 目 名 (保健体育)

【調査研究の具体的視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 単元や題材の目標は明確に示されているか。
視点② 健康・安全に関する科学的な理解を図るための工夫がなされているか。
視点③ 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫がなされているか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫がなされているか。
視点② 生涯を通じて健康の保持 増進や回復を目指す実践力の基礎を育てる工夫がなされているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 単元・題材や資料等の配列が適切であるか。
視点② 発展的な学習に関する内容の記述の工夫がなされているか。

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用が図られているか。

(5) 言語活動の充実

- 視点① 思考し判断したことを、言葉や文章及び動作で表したり、理由を添えて伝えたりする活動の工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 (○長所 ● 課題)
東書	<p>○「学習課題」「課題の解決」「活用する」において学習の流れが工夫され、資料においてグラフや表が多く準備されわかりやすくなっている。</p> <p>○各章末に、「資料」「確認問題」「活用問題」が設けており、知識・技能、思考力・表現力・判断力を評価することができるように工夫されている。</p> <p>○学習指導要領に示されている語句のほとんどについて、目次に掲載されている。</p>
大日本	<p>○「1時間の学習の主な流れ」として学習活動が明記されており、生徒が取り組みやすくなっている。</p> <p>○「トピックス」の切り口がよく資料のグラフや表、図が多く準備され、新しいデータがあって理解しやすくなっている。</p> <p>●各章末に「重要な言葉」が適切に解説されているが、説明が長く生徒が集中して読みきれぬかどうかに不安がある。</p>
大修館	<p>○すべての章における「課題をつかむ」において、学習課題を提示し興味・関心を引くような内容になっている。</p> <p>○「きょうの学習」において、本時のめあてが提示されている。</p> <p>○基礎的な知識が項目ごとに記述されており、生徒にとってもわかりやすくまとめられている。</p> <p>●項目(または重要語)ごとにまとめられているが、一項目ごとに内容を見ると、説明が多く生徒が集中して読み切れるかどうかに不安がある。</p>
学研	<p>○各章のはじめに学習することが掲載されており、「学習の目標」「課題をつかむ」で学習課題を提示することで学習内容の明確化を図るよう工夫されている。</p> <p>○「この教科書の使い方」として、「学習の目標」→「課題をつかむ」→「考える・調べる」→「まとめる・深める」という流れが確立されており、「目標」「めあて」が明確で学びの見通しをもたせやすくなっている。</p> <p>○各章末に「まとめる・深める」が設けており、記述で答える内容が多く、重要語句の確認や基礎的・基本的な知識が習得できるようにされている。</p> <p>○資料として、グラフや表、図が適切に準備されている。</p>

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者	意見 (○長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○導入の「みつける」では、興味・関心を引き出せるよう身近な内容になっている工夫がみられる。 ○章末資料に現代の課題に沿った資料が掲載されており、章によっては体験的な学習の場面が設定されている。 ○「活用する」では、実生活で起こりうる問題解決的な課題が設定されていると同時に仲間との思考を深める活動の場面が設けられている。 ●「広げる」の内容が、「調べてみよう」という内容が多く、自ら学び、自ら考えるための工夫があまり見られない。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ○「話し合ってみよう」や「活用して深めよう」では、話し合いの場面が設定されていたり、知識を生かして今後の予想がされていたりするなど、生徒に考えさせる工夫が見られる。 ○1時間の中に、問題解決的な課題がしっかりと組み込まれており、章によっては体験的な学習を実施するために工夫されている。 ○章末資料に現代の課題に沿った資料が載っており、章によっては体験的な学習の場面が設定されている。 ○実生活・実社会に関連付けて思考させる場面が多く設定されている。 ●導入の「つかもう」では、図やイラストがなく、生徒の興味・関心を引き出すような工夫があまり見られない。
大修館	<ul style="list-style-type: none"> ○導入の「課題をつかむ」では、興味・関心を引き出せるよう、自身の実体験を振り返るような課題を多く設定した工夫が見られる。 ○特集資料では、問題解決的な学習や体験的な学習をさせる工夫が見られる。 ○実学習のまとめや章のまとめでは、自分を振り返り生活・実社会に関連付けて思考させる場面が多く設定されている。 ●問題解決的な活動が少ない。「課題をつかむ」と「学習のまとめ」の間に、生徒に考えさせるような課題が少ない。
学研	<ul style="list-style-type: none"> ○導入の「課題をつかむ」では、興味・関心を引き出せるよう身近な内容になっており、イラストや写真が載っているなど工夫が見られる。 ○学習の流れの中で、身近な課題について、生徒が自ら学び、自ら考えることができるような工夫が見られる。 ○1時間の中に、問題解決的な課題が十分組み込まれており、章によっては体験的な学習をさせる工夫が見られる。 ○実生活・実社会に関連付けて思考させる場面が多く設定されており、章末の「研究しようよ」では、さらに学びを深めることができるような設定になっている。

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見（ ○長所 ● 課題 ）
東 書	<p>○カラーの資料が多い。優しい色合いのイラストが多く、目移りしにくく、見やすく、落ち着いたレイアウトになっている。</p> <p>●3学年の保健の内容の配列が、学習指導要領の順になっていない。</p>
大 日 本	<p>○本文を補足する図表や写真・イラストの資料の割合が多く、考えさせることや視覚支援が行いやすく構成されている。</p> <p>●本文の記述が少なく、内容が十分に理解しにくい。</p> <p>●資料の色づかいが濃い傾向があり、見にくい部分がある。</p>
大 修 館	<p>○本文の構成について章の中にキーワードが記されており、ポイントがつかみやすくなっている。</p> <p>○各章・項目をつかむ→身につける・考える→まとめる・振り返るの3ステップで構成し、学習過程の流れが明確にされており、スムーズに指導できる工夫がされている。</p> <p>●資料の色づかいが濃い傾向があり、見にくい部分がある。</p>
学 研	<p>○グラフや表、図の資料が右や下にまとめてあり、本文との対応をわかりやすくされている。</p> <p>○見出しや本文に判別しやすいフォントの使用や色使いも工夫され色覚に特性のある生徒に配慮が見られる。</p> <p>○生徒の発達段階を踏まえた身近な問題や自他の問題が取り組めるように、学習指導要領に示された内容をもとに学年別に構成されている。</p>

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見 (○長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○本文との関連付けられた表やグラフがあり、わかりやすくなっている。 ○章末の資料が、論理的な思考を深めることができるようになっている。 ○「本時のねらい」がわかりやすい表現になっている。 ○写真が適度に掲載されており、論理的な思考を深める手立てになっている。 ●「学習のまとめ」の問題が少なく、習得した知識の活用や他教科との関連を深めることに課題がある。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ○本文と関連がなされた図表や写真・イラストは資料に示された内容を分かりやすく表現されている。 ○話合いの活動の場を設定できる「資料」がある。 ●図やグラフが大きく表現されているのに対して本文の説明が少なくバランスが取れていない。 ●単元によっては、資料ばかりで視覚的情報が多い。
大修館	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の項目が細かく分かれていて、わかりやすくなっている。 ○「スマホと首の疲労」など、『保健の窓』や『コラム』が生徒の実態に合っている。 ○「章のまとめ」の問題が、知識に活用になっている。 ●本文が比較的長く、本文の項目の色づかいが強すぎる。 ●本文と資料の配置がページごとに異なっている。本文と資料の配置に統一性がない。
学研	<ul style="list-style-type: none"> ○本文と関連付けられた表やグラフや図があり、わかりやすくなっている。 ○「課題をつかむ」「まとめる・深める」で、その時間に学習したことを深めたり、実生活に活用できたりする工夫がなされている。 ○章末の「探求しようよ」が学習内容に関連深い課題が提示されており、論理的思考を深める資料になっている。 ○「章のまとめ」の問題が、習得した知識をまとめたり、深めたり、活用したりする学習活動ができる工夫がされている。 ●「資料」「グラフ」「コラム」などが同系色で見分けにくい。

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 (○長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをまとめたり、話し合ったりする場面が設定している。章末の学習のまとめでは、自分の考えを記述する欄が多く設定されている。 ○グラフや資料を分析するような問題や、グループでの話し合いやロールプレイをさせるような問題もあり、言語活動を促す工夫が見られる。 ○授業の導入部分や終末部分では、グループによる話し合い活動や、自分の考えを書く・発表する等の活動につなげやすい。 ○「広げる」活動において、仲間との交流がしやすいように工夫されている。 ●1時間の内容の中で「学習課題」において考えさせる部分はあるものの導入のためだけであって、実生活への活用まで繋げることが難しい。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをまとめたり、話し合ったりする場面が十分に設定している。「学びを活かそう」においても、言語活動を促す工夫が見られる。 ○各単元に「話し合ってみよう」を設けているので、言語活動がしやすい。 ●「つかもう」、活用して深めようでは、提示される課題が話し合い活動で深まりにくいテーマが多い。 ●「活用して深めよう」で、考えをまとめさせる工夫があるが、提示内容が少なく考えをまとめにくい。
大修館	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入部分や終末部分でグループによる話し合い活動や、自分の考えを書く等の活動につなげやすい。 ●1時間の内容の中で導入とまとめ以外は話し合いをする場面が少ない。 ●「学習のまとめ」や「章のまとめ」において、自分の考えをまとめたり、深めさせたりする工夫が少ない。
学研	<ul style="list-style-type: none"> ○「まとめる・深める」において、自分の考えをまとめたり、話し合ったりする場面が十分に設定されており、人に伝える能力の育成を図っている。 ○「研究しようよ」や章のまとめでは、自分の考えを記述する欄が多く設定されている。 ○授業の導入部分でも、グループによる話し合い活動や、自分の考えを書く・発表する等の活動につなげやすい。 ○グラフや資料、写真を見ながら分析するような問題があり、言語活動を促す工夫が見られる。 ○「課題をつかむ」「まとめる・深める」のコーナーに具体的な活用方法（考える、共有する等）の記載があり、活用につなげやすい。

種 目 名 (技術・家庭【技術分野】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材のねらいの示し方
- 視点② 伝統と文化に関する内容
- 視点③ 環境の保全に関する内容

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫
- 視点② 実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫
- 視点③ 主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 題材の配列と分量
- 視点② 発展的な学習の扱い方

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用

(5) 言語活動の充実

- 視点① 実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫
- 視点② 言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>【題材のねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小单元ごとに「目標」がページ上部に明記してある。 ○「目標」が観点に基づき明確に示されている。 ○キーワードが示してあり、「振り返り」に活用できる。 ○各内容の終わりに評価問題があり、3観点に基づいて振り返ることができ、総括的に理解度がチェックできる。 ○単元の最初のページにこの編で学ぶことや小学校や他教科とのつながりが具体的に表記されている。 <p>【伝統と文化に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスにおいて、技術の歴史について建築、農耕、照明、情報通信の分野に関する記述がある。 ○「技術の匠」というコラムを設け、伝統的な技術や現代の技術等について解説している。(P 67, P 79, P 81, P 82 など) ●歴史の変遷に関する年表がなく、体系的にとらえにくい。 <p>【環境の保全に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスの「技術の見方・考え方」において、環境への負荷について記述がある。(P 11～) ○巻末に「SDGs」と関連させた記事の掲載がある。 ○「資料」というコラムの中に「環境」という内容が2か所ある。(P 134, P 194) ○各内容の終わりに環境的側面から最適化について考えさせる記載がある。
教 図	<p>【題材のねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小单元ごとに「めあて」がページ上部に明記してある。 ○「めあて」が観点に基づき明確に示されている。 ●キーワードが多数示してあり、振り返りに活かしにくい。 ○各内容の終わりに「まとめ」があり、3観点に基づいて振り返ることができ、総括的に理解度がチェックできる。 ●小学校・他教科との関連が校種と教科のみで具体的ではない。 <p>【伝統と文化に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「伝統文化」というコラムにおいて伝統的な技術について紹介している。 ○「技」というコラムで現代の技術等について紹介している。 ●歴史の変遷に関する年表がなく、体系的にとらえにくい。 <p>【環境の保全に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各内容の「学びを深め生かそう」において、環境への負荷に留意するよう視点が定められている。 ○ガイダンスに「環境問題を保全する技術」として記述がある。(P 6) ○各内容の終わりに環境的側面から最適化について考えさせる記載がある。

開 隆 堂	<p>【題材のねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小單元ごとにねらいが「学習目標」と明記されページ右上に記されている。 ○学習目標が観点に基づき明確に示されている。 ○各内容の終わりと單元ごとに振り返りがあり，ABCで評価するだけでなく，具体的な記述が求められ，形成的にも総括的にも理解度がチェックできる。 ○キーワードはないが，振り返りの文章が示されている。 ○単元の最初のページにこの編で学ぶことや小学校や他教科とのつながりが具体的に表記されている。 <p>【伝統と文化に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスの「受け継がれ発展する技術」などにおいて，現代の生活や産業，エネルギー・環境問題と関連して伝統的な技術について記述がある。 ○各内容の初めに年表や写真を活用して技術の歴史的変遷が書かれている。（P 20～21，94～95，140～141，194～195） ○「探求」というコラムにおいて現代の技術等について紹介し，技術への関心を高める工夫がされている。（P 9，P 25，P 93 など） ○巻末資料に「日本各地の伝統的な技・材料・工芸Map」が写真を多用し記述してある。 <p>【環境の保全に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術分野の学習の振り返りの中で，持続可能な社会を構築するために技術と環境の関連について記述がある。（P 268～269） ○環境や資源・エネルギーに配慮を要する内容については，「環境」に関するマークを記載し，関心を高めている。 ○各内容において技術の最適化について検討する際，環境への負荷に留意するよう視点が定められている。 ○各内容の終わりに環境的側面から最適化について考えさせる記載がある。
-------------	--

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東 書	<p>【興味・関心を高める工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義，学び方について丁寧に記載されている。 ○ガイダンスにおいて技術の見方，考え方，技術の最適化について丁寧に説明があり，技術を学ぶ本質的な意義について気づかせるよう工夫されている。 ○ページ下に「技術の工夫」を設け，関連する用語について説明している。 ○QRコードの読み取りによるコンテンツがある。 <p>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめに「生活に生かそう」の欄があり，生活場面での問題解決，工夫が問われている。 ○技術を最適化するための記述が明確にあり，内容も充実している。 ○技術を評価する際，社会的側面，環境的側面，経済的側面や安全性から考察できるようになっている。 <p>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストが多く，主体的な実習が可能である。 ○どの内容においても実習例が豊富であり，生徒が主体的に製作，実習を行うことがで

	<p>きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の視点から実習例が示されており、主体的な学習となるよう工夫されている。 ○QRコードを読み取り自主的に復習することができる。 ○巻末のプログラミング手帳で多くのプログラミング言語に触れることができる。
<p style="text-align: center;">教 図</p>	<p>【興味・関心を高める工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義、学び方についての説明がある。 ●ガイダンスにおいて技術の見方、考え方、技術の最適化について説明がなく、技術を学ぶ本質的な意義についての記載が不十分である。 ●興味・関心を高める豆知識等の記載はない。 ○QRコードの読み取りによるコンテンツがある。 <p>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめにおいて生活場面での役割や活用の工夫についての問いが設定してある。 ●技術を評価する際、社会的側面、環境的側面、経済的側面から考察できない。 <p>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストが多く、主体的な実習が可能である。 ●どの内容においても題材例は豊富であるが、製作例が少なく、生徒が主体的に製作、実習を行うことができない。 ●単に製作、実習の視点から実習例が示されており、問題解決の視点がないため、主体的な学習となりにくい。 ○QRコードを読み取り自主的に復習することができる。
<p style="text-align: center;">開 隆 堂</p>	<p>【興味・関心を高める工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスにおいて技術を学ぶ意義、学び方について丁寧に記載されている。 ○ガイダンスにおいて技術の見方、考え方、技術の最適化について丁寧に説明があり、技術を学ぶ本質的な意義について気づかせるよう工夫されている。 ○各ページ下に「豆知識」を設け、作業のポイント等を示している。 ○QRコードの読み取りによるコンテンツがある。 <p>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめにおいて身のまわりとの関連についての問いが設定してある。 ○技術を最適化するための記述が明確にあり、内容も充実している。 ○技術を評価する際、社会的側面、環境的側面、経済的側面から考察できるようになっている。 <p>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストが多く、主体的な実習が可能である。 ○どの内容においても実習例が豊富であり、生徒が主体的に製作、実習を行うことができる。 ○問題解決の視点から実習例が示されており、主体的な学習となるよう工夫されている。 ○QRコードを読み取り自主的に復習することができる。

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>【題材の配列と分量】</p> <p>○ガイダンスの内容が質・量ともに充実している。(12ページ分)</p> <p>○「A材料と加工の技術」において、問題解決の視点から、実習例が8例示されている。</p> <p>●「B生物育成の技術」において、問題解決の視点から、実習例が8例示されているが、作物の栽培技術に限定されており、動物の飼育技術、水産生物の栽培技術、森林の育成技術からの例示はない。</p> <p>○「Cエネルギー変換の技術」において、問題解決の視点に基づき、電気分野から3例、機械分野から2例の実習例が示されている。</p> <p>○「D情報の技術」において、問題解決の視点に基づき、双方向性のあるコンテンツのプログラミングに関する実習例が6例、計測・制御に関する実習例が6例、紹介されている。</p> <p>【発展的な学習の扱い方】</p> <p>●発展的な内容については取り上げられていない。</p>
教 図	<p>【題材の配列と分量】</p> <p>●ガイダンスの内容が質・量とも他社に比べ不十分である。(4ページ分)</p> <p>●「A材料と加工の技術」において、題材例が7例示されているが、問題解決的な視点はなく、製作方法について重点が置かれており、しかも重複が多い。製作例も4例あるが、構想図と材料取り図・部品表が示されているだけである。</p> <p>●「B生物育成の技術」において、作物の栽培技術に関する題材例が3例、栽培例が3例示されているが、問題解決的な視点はない。動物の飼育技術、水産生物の栽培技術、森林の育成技術からの例示はない。</p> <p>○「Cエネルギー変換の技術」において、問題解決的な視点から、電気分野の題材例が2例、機械分野の題材例が2例示されている。製作例はそれぞれ1例ずつ紹介されている。</p> <p>○「D情報の技術」において、問題解決の視点に基づき、双方向性のあるコンテンツのプログラミングに関する題材例が4例、計測・制御に関する題材例が2例、制作例が3例示されている。</p> <p>【発展的な学習の扱い方】</p> <p>○マークがあり、「Cエネルギー変換の技術」において、発光ダイオードの原理についての説明がある。(P127)</p>
開 隆 堂	<p>【題材の配列と分量】</p> <p>○ガイダンスの内容が質・量ともに充実している。(10ページ分)</p> <p>○「A材料と加工の技術」において、問題解決の流れに基づき、設計を重視した実習例が7例示されている。</p> <p>○「B生物育成の技術」において、問題解決の流れに基づき、作物の栽培技術、動物の飼育技術、水産生物の栽培技術、森林の育成技術の4分野から8例示されている。</p> <p>○「Cエネルギー変換の技術」において、問題解決の流れに基づき、5例の実習例が示され、その仕組みが回路図や部品表を基に丁寧に説明されている。</p> <p>○「D情報の技術」において、問題解決の流れに基づき、双方向性のあるコンテンツのプログラミングに関する実習例が5例、計測・制御に関する実習例が3例、総合的な実習例が1例示されている。</p>

	<p>【発展的な学習の扱い方】</p> <p>○マークがあり、「Cエネルギー変換の技術」において、実習例として発展的な内容であるICを用いた「音声増幅器」を取り上げ、学習を深めている。(P187)</p>
--	---

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <p>○「リンク」「安全」「環境」など17種類のマークで表示。</p> <p>○「技術の工夫」においてちょっとした面白い知識が記載されている。</p> <p>○写真が鮮明で鮮やかである。</p> <p>○背表紙に名前が記入できるようになっており、実用的である。</p>
教図	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <p>○「安全」「環境」「発展」など10種類のマークで表示。</p> <p>○活字が大きく、見やすく配慮されている。重要語句は青色で表示。</p> <p>●写真の内容が重複していたり、写真が鮮明でなかったりする所がある。</p>
開隆堂	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <p>○「学習の目標」「探究」「発展」など18種類のマークで表示。</p> <p>○「豆知識」で学習に関する面白い知識を記述している。</p> <p>○用紙の白色度が高く、写真、イラスト、活字等が鮮明である。</p> <p>○軽量化が図られ、生徒の登下校における負担に配慮されている。</p>

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <p>○学習のまとめにおいて、「確かめよう」「深めよう」「生活に生かそう」という問いかけにより、文章で記述するようになっている。</p> <p>○各単元のふり返りにおいても「問題解決カード」により、文章での記述が求められている。</p> <p>○ふり返りが3観点に分けられており、テスト形式になっている。</p> <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <p>○「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」において、自分で考えたり、調査したり、お互いに話し合い説明したりする項目が設定されている。</p> <p>○「問題を発見し、課題を設定しよう」において、思考ツールが示されている。(P102~103, P170~171)</p> <p>●実習例は、単なる実習例の域にとどまっており、言語活動の充実に資する視点はない。</p>

<p>教 図</p>	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習のまとめの「知識・技能」においては、穴埋め式の問題となっており、言語活動の充実は図れない。 ●各単元のふり返りにおいても「確認」により、チェックマークを入れるのみとなっている。 <p>○ふり返りが3観点に分けられており、テスト形式になっている。</p> <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」において、自分で考えたり、調査したり、お互いに話し合い説明したりする項目が設定されていない。 <p>○構想や設計のまとめ方が例示されている。(P158~161, P248~251)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実習例は、単なる実習例の域にとどまっており、言語活動の充実に資する視点はない。
<p>開 隆 堂</p>	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめの「技術のしくみ、工夫」において、ABCの3段階評価に加え、「～説明しよう」という問いかけにより、文章で記述するようになっている。さらに、「学びを深めよう」では、資料を提示し、これからの技術の在り方について考えをまとめ記述するように問いが設定されている。 ○各単元のふり返りにおいても「～具体的に書いてみよう」などという問いかけにより、文章での記述が求められている。 ○ふり返りが言語活動を重視した内容になっている。 <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」において、自分で考えたり、調査したり、お互いに話し合い説明したりする項目が設定されている。 <p>○実習例は、問題解決の流れに基づいて構成されており、各段階において言語活動の充実が図れるようになっている。</p>

種 目 名 (技術・家庭【家庭分野】)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材のねらいの示し方
- 視点② 家族・地域に関する内容
- 視点③ 消費生活・環境に関する内容

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫
- 視点② 実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫
- 視点③ 主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 題材の配列と分量
- 視点② 発展的な学習の扱い方

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用
- 視点② 視覚支援をふまえた表現・表記

(5) 言語活動の充実

- 視点① 実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫
- 視点② 言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>視点①【ねらいの示し方】</p> <p>○「目標」が分かりやすい箇条書きで、目標として意識させやすく、発展としての生活への工夫まで考えさせることのできる内容である。適切なキーワードが提示してあり、各題材の基礎的な内容を押さえることができる。(例 p 214)</p> <p>視点②【家族・家庭に関する項目】</p> <p>○「加齢による体の変化」では、体の衰えについて、各部位ごとに短い文章で箇条書きにしてあり、高齢者の身体の変化や、生活のしづらさについて、伝わりやすい。(p 259)</p> <p>視点③【消費生活・環境に関する内容】</p> <p>○クレジットによる三者間契約と二者間契約が両方図示されているので、比較しやすい。(p 190)</p>
教図	<p>視点①【ねらいの示し方】</p> <p>○「めあて」が箇条書きで表してあり、ポイントをつかみやすい。キーワードは押さえるべき基礎的な語句というよりも、キーワードから自分の生活に結び付けて考えることができるようになっている。(例 p 14)</p> <p>視点②【家族・家庭に関する項目】</p> <p>○「地域の人々と、協力・協働しよう」では、家族や地域の高齢者との関りについて展開されている。「高齢者の一般的な身体の特徴の例」が6項目あげられており、高齢者の身体の特徴について理解しやすい内容となっている。(p 29~31)</p> <p>視点③【消費生活・環境に関する内容】</p> <p>●クレジットによる三者間契約の図はあるが、二者間契約の図が示されていないので比較がしにくい。(p 252)</p>
開隆堂	<p>視点①【ねらいの示し方】</p> <p>●「学習の目標」の一文が長く、要点をつかみにくい。(例 p 18)</p> <p>視点②【家族・家庭に関する項目】</p> <p>●「地域に暮らす高齢者」では、高齢者を取り巻く社会の状況については記述しているが、高齢者の身体の特徴は記述してないために、家庭の中でどのように関わっていったらよいのか考えたり発展させたりすることが難しい。(p 60~63)</p> <p>視点③【消費生活・環境に関する内容】</p> <p>●クレジットによる三者間契約の図はあるが、二者間契約の図が示されていないので比較がしにくい。(p 239)</p>

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>視点①【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調理実習の写真の色合いがきれいで食欲をそそる。(例 p 84) ○消費者トラブルの事例が4コマ漫画で示されており、興味をひきやすい。(p 195) <p>視点②【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「演じて考えようーロールプレイングー」では、3つの設定場面から主体的にロールプレイングを体験することにより、家族や高齢者の立場や気持ちを理解することができる。(p 262~p 263) ○献立作りが主菜→主食→副菜→汁物の順に考えるように示してあるので、生活に活用しやすい。(p 40) <p>視点③【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活の課題と実践の進め方」により、学習の流れが分かりやすく提示されている。また、対話的、協働的な学習を展開するための、思考ツールの紹介や、具体的な実践例の紹介により、学びを深め、課題解決を家庭だけではなく、社会につなげていくという展開の工夫がある。(p 267~283) ○(選択)生活の課題と実践の具体例が12テーマ示してあり、学習の流れが分かりやすく提示されている。また、対話的、協働的な学習を展開するための、思考ツールの紹介や、具体的な実践例の紹介により、学びを深め、課題解決を家庭だけではなく、社会につなげていくという展開の工夫がある。(p 267~283)
教図	<p>視点①【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理実習の写真が付け合わせの材料が少なく、色合いが悪い。(例 p 132) ●消費者トラブルの事例が4つ示されているが、文字が多く、イメージがわきにくい。(p 257) <p>視点②【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「家族の役を演じ、家族とのかかわり方について考えてみよう」では、事例が2つ挙げられているが、特殊な家庭の例であり、自分の家庭を振り返ると捉えることが難しい。(p 22~23) ●献立作りが主食→主菜→副菜→その他の順に考えるように示してあるので、生活に活かすにくい。(p 99) <p>視点③【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活の課題と実践」について、学習の流れについて提示されている。(p 282~291) ●実践例については、文字の提示が多く、実際のまとめがないため、生徒にとっては、理解したり、イメージをしたりすることが困難である。(p 282~291) ●生活の課題と実践の具体例は8例のテーマが示されているが、まとめの方法や発表がイメージしづらく、授業に生かすにくい。(p 282~291)
開隆堂	<p>視点①【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理実習の写真の色合いが少し暗い。(例 p 129) ●消費者トラブルの事例が4つ示されているが、すぐ下に解説がついているため、考えることができない。(p 237) <p>視点②【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「中学生にとっての家族」において、ロールプレイングが設定してある。ここでの設定例が、具体的であり、思考を深めることができる内容となっている。また、実生活

につなげやすい設定となっている。(p23)

- 献立作りが主食→主菜→副菜→その他の順に考えるように示してあるので，生活に活かしにくい。(p146)

視点③【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】

- 「生活の課題と実践」では，「食品の表示をよく読まないだけ！」や「祖父母が喜ぶ食事づくり」など，中学生が実際に調べてみたくなったり，おもしろいと興味を持ちやすい課題提示がなされたりしている。(p266～p277)

- 生活の課題と実践の具体例が12テーマ示されており，まとめの方法も記載があるが，1つ1つの具体例には示されておらず，実践に生かしにくい。(p266～277)

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>視点①【題材の配列と分量】</p> <p>○BCAの順に配列されている。Cの領域が2編に分けられており、整理しやすい編集がなされている。</p> <p>○ガイダンスの内容として、これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習を振り返ったり、家庭分野の学習のねらいや概要に触れたり、中学校3学年間の学習の見通しをもたせるといった全ての内容が網羅されている。(p4~17)</p> <p>視点②【発展的な学習の扱い方】</p> <p>●他の内容との関わりが薄く、情報量も少ないため、発展的な学習として扱いにくい。(p115, p167, p209)</p>
教図	<p>視点①【題材の配列と分量】</p> <p>○ABCの順に配列されている。BとCの分野は1編にまとめられている。ガイダンスの次にA領域が1編として配列されているため、授業を展開しやすい配列である。</p> <p>●ガイダンスの内容が少なく、「自立度チェック」だけでは小学校での学習内容の振り返りをすることが難しい。また、中学校での学習内容の見通しをたてにくい。(p8~11)</p> <p>視点②【発展的な学習の扱い方】</p> <p>○「世界の衣食住」では、衣と食と住でつなげて考えることができ、興味も持ちやすく、国際的な視野を広げることができる内容となっている。(p236~p237)</p>
開隆堂	<p>視点①【題材の配列と分量】</p> <p>○ABCの順に配列されている。BとCの分野は1編にまとめられている。ガイダンスの次にA領域が1編として配列されている為、授業を展開しやすい配列である。</p> <p>●ガイダンスでは、小学校での学習内容と中学校での学習内容のつながりを把握しにくい。(p4~11)</p> <p>視点②【発展的な学習の扱い方】</p> <p>○「ファストファッションの裏側で」などは、持続可能な社会をふまえた課題として思考を深める内容となっている。(p203)</p>

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>視点①【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「高齢者の体の特徴」における「高齢者とのかかわり方」では、実際の介助の仕方を、資料の図によって理解しやすい。(p259) ○「私たちの成長と家族・地域」に掲載されているDマークを読み取ると、幼児の一日の生活が動画で見ることができる。日常生活の中で幼児とのかかわりが少ない生徒にとって、視覚によりイメージしやすい内容となっている。(p213) <p>視点②【視覚支援のなされた表現・表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容や学習活動、各コーナーにマークが使われており、ページの展開も整理され、理解しやすい。 ○包丁の持ち方、切り方、食材の切り方等が絵や写真を使って、ていねいに説明してある。ページの下に定規がついているので、おおよそのイメージがつきやすい。(p58~59) ○栄養素の種類と働きが矢印で示してあるので主な働きと二次的な働きが区別しやすい。(p27)
教図	<p>視点①【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「衣服の手入れをしよう」では、p179「試してみよう」のしみ抜きの方法の図や、p180~181の具体的な衣服の写真掲載など、理解を深める資料の工夫がある。 <p>視点②【視覚支援のなされた表現・表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○p16「図2 家庭生活を支える施設やサービス、活動の例」p17「資料 男女共同参画社会を目指して」のグラフ、p28「図6 年齢別人口の割合」など、見ただけでイメージできるような資料の工夫がされている。 ●食品の切り方が細かくていねいに写真で示されているが、包丁の持ち方、基本的な切り方の記載がない。(p116~117) ○栄養素の種類と働きが矢印で示してあるので主な働きと二次的な働きが区別しやすい。(p81)
開隆堂	<p>視点①【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の「参考」では、学習内容をさらに深め、意欲をもたせるための資料が載せられている。 <p>視点②【視覚支援のなされた表現・表記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○QRコードを読み取ると、作品製作や、幼児の生活などの動画をみることができ、視覚による理解を進めることができる。 ●食品の切り方の写真が小さく、わかりにくい。(p111) ●五大栄養素の表の主な働きが言葉で表してあるので主な働きと二次的な働きが区別しにくい。(p83)

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>視点①【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <p>○「幼児との関りを生活に生かす」では、ふれあい体験学習を終えての話し合いの視点や、まとめ方の例が示してある。(p248~249)</p> <p>視点②【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <p>○「活動」というコーナーにおいて、自主的に調べてまとめる学習ができる工夫がされている。</p> <p>●「学習のまとめ」の「学習を振り返ろう」では、ねらいに即した内容で生徒がチェックできるようになっているが、できた、大体できた、努力したいでの回答等と、まとめや確認にならない項目が多い。「学習をしたことをまとめよう」では題材の一部をとり上げてあるために、題材全体の基礎・基本の確認にはならない。(例 p264)</p>
教図	<p>視点①【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <p>○「幼児の観察、ふれ合い」では、「観察してみよう」において、観察時の視点、「幼児とふれ合った後に」では、「図 14 ふれ合い後のまとめ」ではまとめる時の視点が表示されている。また、まとめ例が掲載されている。(p60~61)</p> <p>視点②【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <p>○「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「発表してみよう」等のコーナーがあり、それぞれ学びが深まる視点で活動をすることができるような工夫がされている。</p> <p>○「学習のふり返り」では、観点別に題材ごとの要点がきちんと押さえてあり、各観点到にふさわしいふり返り項目が提示してある。(例 p34)</p>
開隆堂	<p>視点①【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <p>●「学習のまとめ」は、内容が部分的であり、学習のまとめとして使いにくい。(例 p67)</p> <p>○「ふれあい体験は幼児からの贈り物」では、壁新聞やレポートでのまとめ方について示されている。書き込む内容について例示されている。(p51)</p> <p>視点②【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <p>○「話し合ってみよう」「生活に生かそう」というコーナーにおいて、日常生活の中で起こりがちな課題設定や既習事項をもとに考えることができる内容についての話し合い活動ができるような工夫がされている。</p> <p>●「ふり返り」では、題材のねらいに沿っていない抽象的なものが多く、基礎的・基本的な内容を押さえにくい。(例 p41)</p>

種 目 名 (英 語)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 単元・題材の目標が適切に示されている。
視点② 学習内容を繰り返し指導し、定着を図る工夫がされている。
視点③ 文法事項が効果的に指導できるよう工夫されている。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れている。
視点② 積極的なコミュニケーションを促す工夫がある。

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 言語材料の配列が適切である。
視点② 題材の内容構成と分量が適切である。
視点③ 発展的な学習に関する内容の記述が工夫されている。
視点④ 小学校外国語活動からの接続を図った構成・配列となっている。

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 文字の大きさやレイアウトが適切でわかりやすい。
視点② 挿絵や登場人物が工夫されている。
視点③ 巻末等の資料が工夫されている。

(5) 言語活動の充実

- 視点① 4技能を統合的に活用させる言語活動の充実を図るための工夫がされている。

(1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○1学年は、各「Unit (中単元)」冒頭に目標 (GOAL) が提示されており、2学年からは、「Unit」の目標 (GOAL) が「題材」と「活動」に分けた形で提示されている。題材については「...について考える」、活動については「...することができる」の形で示してある。</p> <p>「Unit」の最後に同じ文 (CHECK) があり、振り返りができるようになっている。また、3学年では、CAN-DOリストを評価するための関連教材が、4技能5領域に対してそれぞれ5～11箇所、ステージ (各学期) ごとに示されており生徒が評価しやすくなっている。</p> <p>○ほぼ全ての「Unit」中に4技能5領域の全活動が設定してあり、どの領域かわかるようにアイコンで明記してある。3年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」89個、「話す (発表)」96個、「話す (やりとり)」104個、「読む」127個、「書く」173個、計655個であり、「Unit」の中で、バランスよく言語活動に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされている。</p> <p>○「Let's」の単元では、冒頭に目標がCAN-DOの形で示してあり、巻末のCAN-DOリストと連動している。</p> <p>○新出表現に対して、「Practice」で場面のある代入問題・聞く・話す・書く活動、さらに「Mini Activity」で聞く・話す・書く活動が設定されている。また、「Read and Think」で「Think and Express Yourself」, 「Point of View」として本文を読んで考えを書く活動があり、知識・技能の習得と活用を繰り返す構成となっている。</p> <p>○文法事項は関連あるものをまとめて「Grammar for Communication」で示している。「Use 使い方」では、既習事項と比較して説明されている。「Form形」では文を色分け+構造化している。「Let's Try! 使ってみよう」では場面設定のある演習問題がついている。「Grammar for Communication」の設定数は、1学年7回 (10ページ)、2学年6回 (7ページ)、3学年4回 (6ページ)、計16回 (23ページ) である。※新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については、3年P. 100で、既習事項のif節と比較して説明している。</p> <p>●全体的に情報量が多く、生徒にとって情報過多になる可能性がある。</p>

	<p>●各「PROGRAM（中単元）」の冒頭に「...する」の形で目標（Goal）が3つ示されている。振り返りはセクション（小単元）ごとに、3つのいずれかについてのチェック欄があるが、「□Goal 1」の表記のみで、文字が小さい。また、CAN-DOリストがオリジナル（「できるようになったこと」リスト）で項目が細かすぎる。</p>
開 隆 堂	<p>●文法事項は各「PROGRAM」の最後に「英語のしくみ」でまとめてある。複数の文法事項を同時にまとめてある場合（間接疑問文とSVOO（節）など）もあり、比較して理解する機会にはならない。</p> <p>○新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については、3年P. 98で既習事項のif節と比較して説明している。</p> <p>○新出表現に対して、「Scenes」で聞く・話す・書く活動が設定されている。「Speak & Write」で多くは対話形式の練習となっている。「Think」で本文内容に関するQ&Aが2問、最終セクションでは「Share」として2種類のオープンクエスチョンも設けられている。また、本文は次の「Retell」で絵や語句の中から話せそうなものを選んで話す活動が設定され、読むことから再生する活動へつなげられている。帯教材として各「PROGRAM」に3つ「Try」を設定し、即興的なやりとりをトレーニングするようにしている。</p> <p>○ほぼ全ての「PROGRAM」中に4技能5領域の全活動が設定してあり、どの領域かわかるようにアイコンで明記してある。3年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」79個、「話す（発表）」35個、「話す（やりとり）」99個、「読む」54個、「書く」80個、計347個であり、「PROGRAM」の中で、4技能5領域に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされている。</p>

<p>三省堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各「Lesson（中単元）」の冒頭に「Lesson」の構成(GET POINT / USE)があり、1学年「Lesson 4」からは、「USE」の部分に活動内容が「...しよう」の形で示されている。文法事項(GET POINT)、本文内容理解(USE READ)、活動(USE Write / Speak)が提示されているが、単元全体の目標が何かわかりにくく文字も小さい。また、3学年ではCAN-DOリストの評価するための関連教材が、4技能5領域に対して3～11で「書く」ことの教材が3回しかなく、少ない。 ●ほぼ全ての「Lesson」中に4技能5領域の全活動が設定してあり、どの領域かわかるようにアイコンで明記してある。3年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」74個、「話す（発表）」32個、「話す（やりとり）」53個、「読む」33個、「書く」63個、計255個であり、「Lesson」の中で、4技能5領域に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされているが、活動数が十分とは言えない。 ○新出表現に対して「Drill」の代入問題と日常的な話題について簡単な語句や文を使っての聞く・話す・書く活動が設定されている。「GET」の読む活動ではQ&Aが英問で1問設定されている。また、「Lesson」の終わりに「GET Plus」では重要表現を実際に使う場面を想定して練習することができる。 ○文法事項は関連のあるものをまとめて「文法のまとめ」で示している。イラストを用いて視覚的な工夫がある。演習問題はない。「文法のまとめ」の設定数は、1学年8回（9ページ）、2学年6回（7ページ）、3学年6回（7ページ）、計20回（23ページ）である。 ※新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については、3年P. 102で既習事項のif節と比較して説明している。
------------	---

教
出

- 1 学年「Lesson 3」までは、各「Lesson（中単元）」の冒頭に、「...しよう」の形で目標（Goal）が提示されている。1 学年「Lesson 4」以降、各「Lesson」の冒頭に目標は示されていない。「Part（小単元）」ごとに「...しよう」の形で示されているが、単元全体の目標になっていない。「Lesson」の最後に振り返りとして、「...できる」の項目に各自チェックできるようになっているが、小単元の目標と振り返りの項目は同じではない。
- ほぼ全ての「Lesson」中に 4 技能 5 領域の全活動が設定してあり、どの領域かわかるようにアイコンで明記してある。3 年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」137個、「話す（発表）」42個、「話す（やりとり）」38個、「読む」153個、「書く」46個、計416個である。「Lesson」の中で、4 技能 5 領域に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされているが、「話す（やりとり）」が 3 年間で 38 回しかなく、数に偏りがある。
- 1 学年「Lesson 1」の目標が、「英語で自己紹介をしながら友達をつくろう」であり、「友達をつくること」が目標になっている。
- CAN-DO リストの評価するための関連教材が、3 学年では、各領域に対して 7 ～ 17 箇所示されている。
- 新出表現に対して「Tool Kit」の代入練習と聞く活動、「Think & Try」で本文の場面設定の中で話す・書く活動が設定されている。「Lesson」最後「Review」では本文の要約を読み、内容や語句の穴埋め問題がある。「Task」では本文とは異なる場面の英語を聞いてその内容について話す・書く活動が設定されている。
- 文法事項は各「Lesson」の最後に「Grammar」でまとめてある。複数の文法事項をまとめている場合もある（過去進行形と接続詞など）。文構造を色分けし、整理している。演習問題はない。「Grammar」の設定数は、1 学年 9 回（12 ページ）、2 学年 10 回（10 ページ）、3 学年 6 回（6 ページ）、計 25 回（28 ページ）である。※新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については、3 年 P. 65 にまとめているが既習事項の if 節との比較説明がない。

光 村	<p>○各「Unit（中単元）」の冒頭に4技能の内2技能についての目標（Goal）が「...できる」の形で示されている。最後にも同じ文があり、ふり返りができるようになっていて、巻末のCAN-DOリストとも連動している。</p> <p>●文法事項は関連のあるものをまとめて「Active Grammar」で示している。「文の形」で文を色分け+構造化している。「場面と意味」、「比べてみよう」で場面や使い方、内容の違いなどを考えさせている。「Active Grammar」の設定数は、1学年6回（7ページ）、2学年9回（9ページ）、3学年2回（4ページ）、計17回（20ページ）である。新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については、P.93の基本文に説明があるのみで、まとめたページがない。</p> <p>●CAN-DOリストの評価するための関連教材が、3学年では、各領域に対して4～14箇所示されているが、「書く」ことの教材が少ない。</p> <p>○新出表現に対して代入問題はなく、本文に関する聞く活動と日常的な話題について簡単な語句や文を使っての話す・書く活動が設定されている。「Unit」最後の「Goal」で聞く・読む活動から話す・書く自己表現の活動が設定されている。また帯教材として巻末に「Story Retelling」があり、本文の内容を自分の言葉で再生する練習ができる。語句のヒントはない。さらに即興的なやりとりをトレーニングする「Let's Talk」もある。</p> <p>●ほぼ全ての「Unit」中に4技能5領域の全活動が設定してあり、どの領域かわかるようにアイコンで明記してある。3年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」195個、「話す（発表）」24個、「話す（やりとり）」94個、「読む」100個、「書く」82個、計435個である。「Unit」の中で、4技能5領域に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る工夫がされているが、「話す（発表）」が3年間で24回しかなく、数に偏りがある。</p>
--------	---

- 各「Unit（中単元）」の冒頭に「Part（小単元）」ごとの目標が「...できる」の形で示されている。各小単元には「...しよう」の形で示されているが、単元毎の振り返りは設定されていない。
- ほぼ全ての「Unit」中に4技能5領域の全活動が設定してあり、どの領域かわかるようにアイコンで明記してある。3年間でアイコンが明記されている数は、「聞く」97個、「話す（発表）」102個、「話す（やりとり）」129個、「読む」96個、「書く」96個、計520個であり、「Unit」の中で、4技能5領域に繰り返し取り組み、バランスよく学習内容の定着を図る工夫がされている。
- 新出表現に対して「Practice」で代入と自己表現を兼ねた練習、「Use」で自分について話す・書く活動が設定されている。「Read & Think」で内容理解のための正誤問題と要約を読んで適語を補充する問題、さらに生徒自身が思考・判断し表現する発問がある。「Unit」の最後には「Express Yourself」として「Unit」のテーマに沿った短い文を作り発表するなどの活動が設定されている。
- 文法事項は関連のあるものをまとめて「Targetのまとめ」で示している。文構造を色分けしている。「Let's Try」で文法事項を使ったSpeaking活動がある。「Targetのまとめ」の設定数は、1学年10回（10ページ）、2学年6回（6ページ）、3学年5回（6ページ）、計21回（22ページ）である。
※新学習指導要領により中学校で学ぶべき文法事項となった「仮定法」については、3年P. 87にまとめてあるが、既習事項のif節との比較説明がない。

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○単元途中の「Mini Activity」, 単元末の「Unit Activity」, 学期末の「Stage Activity」と, 段階をおって言語活動ができるよう設定されている。「Stage Activity」では知識や技能を総合的に扱って, 発信に結び付ける活動をするが, テーマは身近なものが多く, 生徒の興味を引く内容である。</p> <p>●「Stage Activity」はテーマについて英文を書くだけでなく, グループで対話しながら表現活動をするものが多い。即興で英語を話す力が求められるので, もう少しヒントや丁寧に手順が示されていないと難しく感じる生徒もいると思われる。</p> <p>○「Let's Listen」, 「Let's Talk」, 「Let's Write」など, 言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動により, 実生活にそのまま生かせるような様々な場面が設定されている。</p> <p>●言語活動の分量が多く, 生徒にとって負担になり全て消化しきれなくなる恐れがある。</p> <p>○1年生の「Unit 5」まで各パートに「Enjoy Communication」が設定されており, 小学校で習った表現を思い出しながら対話ができる。</p>
開隆堂	<p>●「PROGRAM」での表現活動が新出文型を習得するためにはやや難しい。即興でコミュニケーション活動を行う「Try」のコーナーが2か所あり, 巻末にトピックも示してあるが, その単元で扱う表現とあっていないことがある。</p> <p>○「PROGRAM」ごとにペアやグループで即興的なやりとりができる「Interact」が設定されている。生徒が興味を持ちやすいようにさまざまなテーマが設定されている。</p> <p>●「PROGRAM」で習った表現を使った活動で, 例文もあるが, 即興で対話をするにはやや難しいものもある。また「PROGRAM」の題材ともう少し関連付けた内容であってほしい。</p> <p>○統合的なパフォーマンス活動を行う「Our Project」が学期に1回設定されている。身近なテーマで考えやすい。4ページにわたって考える手順が示されているので取り組みやすい。</p> <p>●「Power-Up」では場面に特化したコミュニケーション活動ができ, 実生活にも生かせる表現が学べるが, 例文を読んですぐにやりとりをすることは扱い方によっては生徒の負担になる。</p>

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ●習得の段階で話したり書いたりする活動がやや難しい。もう少しヒントやステップを踏んだものがよい。 ○「Lesson」ごとにある「Use speak/Write」は表現力が必要とされるが、生徒の興味をひくテーマや課題設定がされており、ペアやグループで話しながら学習できるようになっている。 ○領域統合型の活動（「Project」）が学期に1回設定されている。自分に身近なテーマよりもアイデアなどを出し合い、提案するものが多く設定されている。テーマが他社と傾向が違い興味深い内容である。 ●手順が示してあったりモデル文やヒントになる語も掲載されたりしているが、情報となる英文やグラフなどを読みとる段階で、英語が苦手な生徒には負担に感じるものもある。 ○「Take Action」, 「GET Plus」では、言語の使用場面に応じた言語活動ができる。巻末にロールプレイシートがあり、現実の使用場面に近い対話練習ができる。 ●活動の分量が多いので、生徒にとって負担になり全て消化しきれなくなる恐れがある。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ●各「Lesson」の習得の段階でのコミュニケーション活動が少ない。 ●「Project」では、知識や技能を総合的・統合的に活用し、生徒自身の思考・判断を加えた課題設定をしている。取り組みやすいテーマで例文や表現するための手順も示されているが、ヒントとなる表現や情報が少なく他社のものと比べるとややもの足りない。 ●「Useful Expression」では場面にあった表現を学ぶことができるが、他社と比べると数が少ない。表現の分量も少ない。 ○「Activities Plus」が巻末にあり、対話やスピーチなどのコミュニケーション活動に活用できる。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○各「Unit」でペアでの対話を通して新しい文型を習得できる。 ●「Unit」ごとに目標（Goal）の活動が設定されている。興味を引く内容が多いが、グループでアイデアを出し合ったり、意見をまとめたり、情報収集したりする必要があるものもあり中身が濃いので、時間配分が難しい。 ●「You Can Do It!」で学んだことを生かして複数の技能を使った活動ができる。興味を引くテーマが多いが、資料となる英文の分量も多くモデル文などヒントが少ない。またグループで活動した場合、英語が苦手な生徒がどのくらい課題解決にかかわれるか懸念される。 ●「Daily Life」は、場面にあった表現やいろんな場面が具体的に設定されているが、数が多いのでどのように扱うかで、生徒の負担になることも考えられる。 ○「Let's Talk」は、即興的なやりとりをすることができる。

啓 林 館	<p>○各「Unit」の「Use」ではペアでの対話練習を通して、ターゲットの文を習得できる。また、単元末の「Express yourself」では、習った表現を使って自分のことについて表現するが、例文もあり自分のことについて表現しやすい内容になっている。</p> <p>●学期末には「Project」で4技能5領域を統合する活動を設定している。身近なテーマが多く、また「Tool Box」の語句を見て書くことができるので、他社と比べると易しい内容だが、アイデアや意見を引き出すなど問題解決をする傾向がやや弱い。</p> <p>●「Let's Talk」では実際の言語の使用場面に即したコミュニケーション活動ができる。しかし数が多く、他社と同じで扱い方によっては生徒の負担になることも考えられる。</p>
-------------	---

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>● be動詞の過去形・過去進行形を1学年で学習する。「Unit 11」でbe動詞の過去形のキーセンテンスが疑問文と応答文なのでわかりづらい生徒がいるかもしれない。また、be動詞のwas は小学校で既習なので、基本文にあげられていないが、was , were のどちらもセットで扱われている方が教えやすい。</p> <p>○ 「Preview」で全体像をつかませ、「Story1,2」あるいは「Scene1,2」で文法や語彙、さらに活用する力の育成へと構成されている。</p> <p>○ 読み物教材として、「落語」, 「ロンドン観光」, 「ブロードウェイのミュージカル」, 「日本の食文化」, 「国境を越えた友情」, 「次世代へ」, 「八田與一」と、各学年の段階を考慮しつつ、日本と世界の文化や歴史を通して、生徒が深く考えることができる題材が用意されている。</p> <p>○ 小学校からの接続は、1学年の「Unit 1」～「Unit 5」まで続く。各「Unit」の「Enjoy Communication」では小学校で学習した重要文型が短い対話に盛り込まれてふり返りができるようになっている。小学校外国語科の教科書も「New Horizon」を使用しており、小学校で学んだ内容がスムーズに中学校に接続される。</p>
開 隆 堂	<p>● 「PROGRAM」の中に重要な基本文あるいは重要表現という項目がわかりにくい配列になっていて、文法事項がそれぞれの「PROGRAM」の最後にまとめてあるのでもう一度内容に戻って重要表現を確認する必要がある。</p> <p>● 新出語や語句の配列がわかりづらい。</p> <p>○ 「Scenes」→「Think」→「Retell」→「Interact」という流れになっていて、次にどんな学習をすればよいかわかりやすい内容構成となっている。</p> <p>○ 「Our project」は学習の手順や説明がとてくわしくていねいである。</p> <p>○ 読み物教材として、「ばばあちゃんの物語」, 「マララ・ユスフザイさんのノーベル平和賞受賞」, 「The Ig Nobel Prize」, 「Library Lion」など、生徒に身近な登場人物、話題になった実在の人物、読むと興味がわいてくるような内容の教材を扱っており、幅広い学習をすることができる。</p> <p>○ 「Get Ready」は小学校で学習した英語を用いて、「聞く」・「読む」, 「発表」・「対話」・「書く」の復習を行い、「Program 0」は「音・文字」の復習を行えるように構成されている。また、「Program1」～「Program10」まで、「Try」で即興的な「話す」活動があり、小学校で学んだ内容をもとに中学校の学習に接続される。</p>

三省堂	<p>○言語材料の配列は適切である。</p> <p>●「Get」→「USE/Read/Speak/Write」→「Take Action!」→「まとめ」という流れでよい構成だと思うが、分量が多いので多くの生徒には負担になるかもしれない。</p> <p>○3学年になると読み物教材として「佐々木禎子さんの物語」, 「キング牧師のスピーチ」, 「ゾルバの約束」, 「賢者の贈り物」, 「面ファスナー」など心温まる内容のものや現代の技術が生かされている商品の話など興味深いものが多い。「ハゲワシと少女」や「平和のひととき」など、3学年に読んで考えさせたい内容である。</p> <p>○「Starter 1」は「音・文字」の復習を行い, 「Starter 2,3」は「聞く」・「対話」の復習を行う構成である。「Lesson 1」～「Lesson 8」までのすべてのページに小学校で学習した語句のコーナーがあり, 小学校で学習した英単語をふり返ることができるようになっている。</p>
教出	<p>●重要構文はそれが使われる本文や対話文と同じページに載せてほしい。</p> <p>○題材は興味深いものが多い。</p> <p>●3学年の読み物教材は6話ある。大人が読むと興味深い内容だが, 中学生が読むには難しい上, なじみが薄く興味が持ちにくい。</p> <p>●「Springboard 1～3」は小学校で学んだ英語で「聞く」活動を行い, 音から文字への接続が工夫されているが, 「Springboard 4」はすぐろくの中の英文を読んで理解する内容になっている。音を聞いて文字認識を行い, その後, 英文を読んで理解することは生徒にとってハードルが高い。また「Lesson」に入ると小学校の学習コーナーはないので, 小学校からの接続を図った内容とは言い難い。</p>
光村	<p>●1学年「Unit7・8」から2学年「Unit1」にかけて, 一般動詞の過去形→be動詞の過去形→現在進行形→過去形→過去進行形という文法配列である。ストーリーの展開上この配列になっていると思うが, 時制はまとまっている方がわかりやすい。</p> <p>○各「Unit」はまず英語を聞いて話題を予測させるところから始まる。その後, 「聞く」→「読む」の活動が十分あり, ゴールイメージとして「聞く」→「書く」でまとめられている。</p> <p>○「わたしは何?」, 「ライオンとネズミ」, 「羽生結弦選手」, 「絵文字」, 「河本隼美くんの日記より」, 「ロボット」, 「世界を変える」などの読み物があり, どの内容も興味深く読むことができ, 視覚的な工夫, 内容のおもしろさ, 過去の事実, 現代の課題と工夫されている。</p> <p>○「Let's Be Friends! 1～7」まで小学校の復習があり, 「言葉で人とつながろう」というこれから英語を本格的に学習する中学生へのメッセージとしては大切で, 丁寧に小学校の学習を復習するにはよい構成である。</p> <p>●「Unit」では, 基本文で小学校の既習事項をふり返らせようとしているのだと思うが, be動詞→一般動詞→be動詞の順で学習を進めていくのは扱いづらい。</p>

啓 林 館	<p>○3学年の教科書は、現在完了形が、経験→完了→継続→現在完了進行形とわかりやすい順番になっている。</p> <p>○各「Unit」は、ひとつの題材において「Get Ready(Read+Listen)」→「Practice」→「Use」→「Express Yourself」→「More Information」と興味深く学習できるように構成されている。</p> <p>○3学年の「The Last Leaf」と「Origami Ambassador」は生徒に読ませ考えさせたい内容である。落語の「White Lion」からの引用である「The Zoo」はとても興味深い内容で、生徒も関心を寄せることができる。</p> <p>●小学校からの接続は、「Let's Start1~7」として14ページにわたる。「聞く」を1~7のすべてで復習し「聞く」→「読む」→「書く」→「発表」とステップアップしていく構成で丁寧に学習できるが、時間がかかりすぎる。「Unit」では、「読む」→「聞く」という構成で、小学校時の学習構成と違うところが小学校からの学習を意識していると言い難い。</p>
-------------	--

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>●レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを安心して見通すことができるが、1ページに写真・絵・New Words・Practice等が盛りだくさんで、情報過多な面がある。</p> <p>○1社のみA4版を採用し、文字の大きさも違和感がない。文字は手書き文字を想定した小学校と同じ書体で見やすく、読みやすい。</p> <p>○主な登場人物は3年間統一され、親しみが持てる。主な人物の日本以外の出身国は、フィリピン、オーストラリア、アメリカとなっている。</p> <p>○文法を説明する「Grammar for Communication」では、主語、動詞等が色分けをして示してあり、内容の表記・レイアウトが生徒にとってわかりやすい。</p> <p>○巻末資料に工夫が見られる。「Word Room」はジャンル別に補充単語・表現をまとめてあり、充実している。</p> <p>○QRコードを各ページに配し、音声を聞きながら学習に取り組むことができる。URLからもアクセスすることができ、音声だけでなく、資料や映像が豊富である。</p>
開隆堂	<p>○文字の大きさに違和感はなく、手書き文字に近いフォントを2種類開発してあるため、紙面が見やすい。</p> <p>●新しい表現は各单元のはじめに登場人物の会話の場面（「Scenes」）のマンガ形式で紹介しており、各ページに基本文としての提示はない。「Scenes」のマンガ形式による導入は指導者にとっては扱いづらい。</p> <p>○主な登場人物は3年間統一され、親しみが持てる。主な人物の日本以外の出身国は、アメリカ、オーストラリアとなっている。</p> <p>○文法事項を扱う「英語のしくみ」は、説明に語の役割ごとに色分けがされるなど、内容の表記・レイアウトが生徒にとってわかりやすい。</p> <p>●巻末資料は豊富で工夫が見られるが、アクションカード等には使用しづらい。</p> <p>○QRコードやURLを介して音声などのウェブページにつなげることができる。本文の内容を表すイラストを見ながら音声を聞くことができる。</p>

三省堂	<p>○レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを安心して見通すことができる。</p> <p>●入門期の紙面に、挿絵の大きさに対して文字の大きさが小さく、違和感があるページがあり、本文に集中しづらくなっている。</p> <p>○主な登場人物は3年間統一され、親しみが持てる。主な人物の日本以外の出身国は、イギリス、中国、オーストラリア、インド、アメリカとなっている。</p> <p>○「GET Plus」の活動で使用する単語集が、巻末ではなく、それぞれの活動の場面に絵とともに挿入してあり、使いやすい。</p> <p>●巻末の「単語の意味」のコーナーなど、文字が小さく詰めて書いてあるので読みづらいページがある。</p> <p>○QRコードを介して本文テキストの音声を聞いたり、スピーチの発表モデルの動画を視聴したりすることができる。</p>
教出	<p>○文字の大きさに違和感はなく、入門期は手書き文字に近いフォントを採用しているため、紙面が見やすい。</p> <p>○レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを安心して見通すことができる。挿絵もあるが、本文に集中しやすいレイアウトである。</p> <p>○主な登場人物は3年間統一され、親しみが持てる。主な人物の日本以外の出身国は、アメリカ、シンガポール、オーストラリアとなっている。</p> <p>○「Grammar」のページはシンプルな表記であるが、大切な語句に色を付けてあり、分かりやすい。</p> <p>○巻末にCAN-DOリストがついているなど、学習の達成度を自分で振り返る機会を大切にしており、巻末資料に工夫が見られる。絵カードは、使用場面がはっきりしており使いやすい。</p> <p>●「Activities Plus」は、活用カードで応答例等を隠し、自学自習で活用につなげる工夫があるが、例文の全てが隠れるのでそのままでは使用しづらい。また、ページ全体に赤身がかかり、目に刺激が強い。</p> <p>○QRコードがありウェブサイトを通じて本文の音声を聞くことができる。動画等は含まれていない。</p>
光村	<p>●文字の大きさに違和感はないが、文章の多いページでは文字が詰まったように見え、読みづらい。</p> <p>●レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているが、イラストの配色が薄くなっているため余計に気になり、本文に集中しづらくなっている。</p> <p>○主な登場人物は3年間統一され、親しみが持てる。主な人物の日本以外の出身国は、アメリカ、韓国、オーストラリアとなっている。</p> <p>●「Active Grammar」のページでは、主語・動詞で色分けをしてある点については、わかりやすく表示してあるが、全体として文字が小さく見づらい。</p> <p>○巻末資料に工夫が見られる。「Story Retelling」や「Let's Talk」は復習や帯学習に活用できる。</p> <p>○QRコードから、学習の参考となる音声や動画などの資料を読み取ることができる。</p>

啓 林 館	<p>○レイアウトは、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、学習の流れを見通すことができ、ユニバーサルデザインの文字も読みやすい。</p> <p>●多くのページの背景やマークに様々な濃い色が使われており、落ち着かない。</p> <p>○主な登場人物は3年間統一され、親しみが持てる。主な人物の日本以外の出身国は、アメリカ、シンガポール、ニュージーランドとなっている。</p> <p>○「Targetのまとめ」として文法がまとめてある。その中で重要な語句に色づけされており、注目を引きやすい。</p> <p>●付録は豊富である。巻末にCAN-DOリストがついており、自分で学習の振り返りができるが、関連箇所の表記がなく、いつ使用するかわかりにくい。</p> <p>○QRコードやURLを通して、文字を見ながらウェブサイトから単語や本文の音声を聞くことができる。動画等は含まれていない。</p>
-------------	--

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記 参考資料

発行者	第 2 学年巻末等資料一覧
東 書	<p>「資料編」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Optional Reading (発展的な読み物) 2 名作鑑賞 3 小学校の単語 4 Word List 5 形容詞・副詞比較変化表 6 不規則動詞変化表 7 2年 Key Sentence・Today's Point 一覧 8 1・2年 表現のまとめ</p> <p>「Word Room」として、ジャンル別補充単語・表現集を掲載している。</p> <p>「学習を振り返ろう-CAN-DO リスト」を掲載している。</p>
開 隆 堂	<p>「巻末資料」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Scenes のまとめ 2 クイックQ&A 3 英語の音声 4 英語のつづり字と発音 5 短縮形のまとめ 6 数の言い方 7 アイデアの広げ方 8 不規則動詞活用表 9 形容詞・副詞比較変化表 10 台所 11 単語と熟語 12 英語で「できるようになったこと」リスト 13 Try のまとめ 14 いろいろな職業 15 日本の祝日・学校行事</p> <p>「付録」として、アクションカード1～4を掲載している。</p>
三 省 堂	<p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Songs 英語の歌 2 Further Listening 3 Further Reading 4 Sounds つづりと発音 5 基本文のまとめ 6 いろいろな単語 7 不規則動詞活用表 8 形容詞・副詞比較変化表 9 数の表現と数字の読み方 10 単語の意味 11 会話表現 12 Take Action! Talk ロールプレイシート 13 Take Action! Listen スクリプト 14 What Can I Do?</p>
教 出	<p>「巻末資料」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Activities Plus 2 語形変化のまとめ 3 形容詞・副詞比較変化表 4 不規則動詞変化表 5 重要構文復習リスト 6 辞書についていっしょに学ぼう! 7 Word List 8 筆記体</p> <p>「巻末付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Tips ④ for Speaking 活動用カード 2 つづりと発音 3 CAN-DO 自己チェックリスト</p>
光 村	<p>「帯教材」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Story Retelling 2 Let's Talk 3 Active Words</p> <p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 英語の学び方ガイド 2 Your Coach 3 Sing a Song</p> <p>「巻末付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 Let's Read More 2 英語のしくみ 3 数字の読み方/短縮形のまとめ 4 音声のまとめ 5 不規則動詞活用表/形容詞・副詞の変化表 6 Word List 7 基本文のまとめ 8 CAN-DO リスト</p>

啓 林 館	<p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1 こんなときどう言うの? 2 メール 3 ジェスチャー 4 英語の歌 5 2年 基本文のまとめ 6 英語のつづりと発音 7 不規則動詞変化表 8 形容詞・副詞比較変化表 9 数の読み方 10 Word Box 11 Word List 12 CAN-DO リスト 13 ローマ字表 [ヘボン式] 14 前置詞</p>
-------------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○「Stage Activity」と題した総合的な発信活動が設定されている（各学期1回3年間で9回）。各「Activity」は4技能5領域が統合されたものになっているが、主活動は、書く・やりとり・発表それぞれ年1回ずつとなっている。各単元末にも「Unit Activity」として発信活動が設定されており、バランスがよい。</p> <p>○3学年最後の「Stage Activity」は、「Let's Have a Mini Debate」であり「主張とその理由を明確にしなが、ディベートをすることができる」がGOALで、ディベートの手順が示してある。取り上げられている論題は、“Japan is a good country to live in.”で、3年間の学習の総まとめとなるレベルの高い言語活動が設定されている。</p> <p>○各領域の技能を高める「Let'sシリーズ」が設定されている。目的や場面、状況を意識して活動することができる。</p> <p>○「統合」のアイコンは、「Unit Activity」と「Stage Activity」（複数Unit後）にある。「Unit Activity」は各Unit後に、1学年6回、2学年7回、3学年6回の計19回、「Stage Activity」は、複数Unit後に年3回の計9回設定されており、3年間で合計28回、4技能5領域の言語活動を行うことができるようになっている。</p> <p>●「統合」アイコンの活動数だけで3年間で28回あり、やや多く感じる。</p>
開 隆 堂	<p>○「Our Project」と題した統合的なパフォーマンス活動を行う単元が設定されている（1、2年各3回、3年2回、3年間で合計8回）。また、「Steps」は「Our Project」と連動してコミュニケーションに役立つ技術を身に付ける単元となっている。各「Lesson」末の「Interact」では即興的なやりとりから書く・発表するをつないだ活動が設定されている。</p> <p>●3学年最後の「Our Project」は、「あなたの町を世界にPRしよう」であり、3つの「Goal」が設定されている。3つ目の「Goal」は、「ディスカッションで、理由とともに積極的に意見を述べる」となっているが、台本を考えて地元のものPRするため「演じ合ってみましょう」「外国の人になったつもりでPRを聞き、質問しましょう」となっており活動の難しさを感じる。</p> <p>○場面に特化したコミュニケーション活動の単元「Power-Up」があり、「聞く」「聞く・話す」「読む・書く」活動が設定されている。</p>

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○「Project」と題した領域統合型の活動が設定されている（各学年3回，3年間で合計9回）。 ○3学年最後の「Project」は、「ディスカッションをしよう」で、わかば市が所有する空き地の利用について話し合った後、「あなたの住んでいる地域に置き換えて、ディスカッションしよう」となっており、地域の人や施設について議論するようになっている。総合的な学習の時間の内容によっては、関連して学習を進めることができる。 ○「Take Action!」（聞く・やりとり）「USE」（読む・発表・書く）「Reading for Information」（読む）などの活動で各領域を関連させ、それぞれの技能を高めることができる。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○「Project」と題した既習事項を総合的に活用し、個人だけでなくグループで協働しながら課題を達成していく活動が設定されている（1年2回，2，3年各3回，3年間で合計8回）。各「Lesson」最後の「Task」では本文とは異なる場面の英語を聞いて、その内容について話したり書いたりする統合的な活動がある。 ○3学年最後の「Project」は、「Goal ディベートをしよう！～Boxed Lunches vs. School Lunches～」が論題となっており、生徒の身近なテーマを扱っている。ディベートの手順が示されている。 ○「Tips」として5領域について知っている役立つコツを学習できる単元と「Useful Expressions」として特定の場面によく使われる表現を身に付ける単元が設定されている。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○「You Can Do It!」と題して既習事項を活用しながら複数の領域を横断した活動が設定されている。個人だけでなくグループでの協同学習による活動もある。（各学年3回，3年間で合計9回）各「Unit」末の「Goal」でも、複数の領域を横断した活動が設定されている（1学年8回，2学年8回，3学年8回，3年間で合計24回）。 ○3学年2つ目の「You Can Do It!」は、「学校に必要なものを考えて意見を伝えよう」という生徒に身近なテーマで，“We need school uniforms.”と“We need nap time.”という二つのトピックを扱っている。 ○「Daily Life」では実生活の様々な場面のやりとりを中心に聞く・読む・書く活動が設定されている。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○「Project」と題した既習事項を活かした総合的な活動が設定されている（1・2年各3回，3年2回）。3年ではさらに「Further Study」としてディスカッションと思い出を書く活動が設定されている。各Unit末の「Express Your-self」では「Unit」のテーマに沿った短い文を作り発表するなどの活動が設定されている。 ○3学年「Further Study①」は、「ディスカッションをしよう」で、「あるテーマについて、自分の立場を決めて意見交換することができる」が目標となっている。論題は「制服は必要かどうか」で、生徒の身近なテーマを扱っている。 ○各領域の技能を高めるために「Let's...」が設定されている。

種 目 名 (「特別の教科 道徳」)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 道徳科の学び方の示し方
- ② 主題名の示し方
- ③ 発問の工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ① 問題解決的な学習を取り入れた工夫
- ② 体験的な学習を取り入れた工夫
- ③ 自己の生き方につなげる工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ① 分量や教材の数
- ② 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

(4) 内容の表現・表記

- ① 巻頭・巻末等の取扱いの工夫
- ② 教材の内容を理解させる工夫

(5) 言語活動の充実

- ① 考えを伝え合う活動の工夫
- ② 考えをまとめたり，振り返ったりする活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 道徳科の学びの示し方

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	○見開き4ページに「道徳の授業はこんな時間に」を設定し、1つの教材をもとに学習の進め方の例や話し合いの手引き（話し合いの時の約束、司会カード）を示し、実際に考え話し合える教材がある。
教出	○見開き2ページに「道徳科で学びを深めるために」を設定し、考えたり話し合ったりするときの視点や注意することについて簡潔に示している。
光村	○見開き2ページに「道徳の授業を始めよう」を設定し4つの内容項目を示し、学び方では「他者」との対話と「自分」との対話についての視点をふまえて簡潔に示している。また「本書で学ぶ皆さんへ」を設定し、道徳の時間の流れを紹介している。
日 文	○巻頭の見開き2ページに「道徳科で学ぶこと」を設定し、4つの内容項目を示している。また、「道徳科での学び方」を設定し、授業の流れや学びをより深めるための手立てを示している。 ○巻頭の見開き2ページで「この教科書で学ぶテーマ」として11のテーマに分けて教材名をその教材の写真やイラストと共に示してあり、生徒の興味を引きやすい。
学 研	○見開き2ページに「道徳で学ぶこと・考えること」を設定し、人間としてよりよく生きるために考える視点を示している。また、「考えを深める四つのステップ」を設け、授業の流れを示しており、学習の仕方や流れのポイントがあり、生徒が教材から問いをみつけ、向き合うことを促している。 ○目次見開き2ページで、「よりよく生きるための22の鍵」として、4つの視点に分類した項目ごとに色分けと共に主題ごとの教材名を4つの視点マークで示している。

<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○別冊「中学生の道徳ノート」は、教材に対するワークブック的なものではなく各主題を詳しく解説する文章やそれに関する話が各1ページ文章表記され、学習の記録がまとめてワークブック後半に設けており、スペースも大きすぎない。</p> <p>○見開き2ページで「道徳の時間とは」とそれぞれの発達段階に応じた内容の文章で道徳の時間に対する考えや心構えを示してある。使っているポイントとなる言葉にルビがふっており、理解しやすい。</p>
<p>日 科</p>	<p>○見開き2ページに4つの視点ごとに内容項目を示している。また、多様な考えを知るための6つの方法を示している。</p> <p>○1ページを使って教科書の使い方を5点示すとともに、自分の好きなことや好きな言葉等、6項目について書く欄を設けている。</p>

視点② 主題名の示し方

<p>発行者名</p>	<p>意 見 (○ 長所 ● 課題)</p>
<p>東 書</p>	<p>○巻末に6つのテーマごとに教材名が示してある。</p> <p>○各教材のタイトルの前に、同じ視点で色分けした視点マークとともにみんなで考える観点を示している。</p>
<p>教 出</p>	<p>○各教材のタイトルの前に、同じ視点で色分けした4つの視点を示している。</p> <p>○巻末に「教材一覧」があり、内容項目・主題名ごとに教材名を示している。</p> <p>○タイトルの下に主題名としては提示されていないが、導入として考えて欲しいことを投げかけている。</p>
<p>光 村</p>	<p>○巻頭の目次に教材名と主題を示している。</p> <p>○各教材の題名の前に、形と色で判別できる視点マークで内容項目を示し、その下に価値項目が小さく示され、主題は教材の次のページに「考えよう」として問いかけの形として示されている。</p>

日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の目次の数字が内容項目別に色分けされており、目次の下に現代的な課題をキーワードで示している。 ○各教材のタイトルバーの上に、小さく主題が示されている。 ○巻末に教材一覧があり、内容項目順に内容項目とその教材名、主題が色分けした上で示されている。 ○巻頭の目次のページの後に「この教科書で学ぶテーマ」があり、その中で、「『いじめ』と向き合う」というテーマを□で囲い、重要なテーマであることを示している。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の目次に、各教材名の上にある番号を内容項目別に色分けをして示し、題材の前に興味を寄せられるキーフレーズが入っている。 ○各教材に主題名が示されていないので、生徒へ道徳的価値を押しつけることにならない。 ○巻末に1ページ、内容項目順に内容項目とその教材名が色分けした上で一覧にして示されている。主題が示されている。
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材の題名に主題や内容項目が示されていないので、生徒へ道徳的価値を押しつけることにならない。 ○巻末に内容項目別に主題と教材名が示されている。
日 科	<ul style="list-style-type: none"> ○主題名の明記はないが、教材文のタイトル上部のナンバーにA B C Dの色分けの区別がある。 ○教科書の構成がA B C Dの順にまとまって掲載されており、1ページ分の間紙（あいし）がある。

視点③ 主題名の示し方

発行者名	意 見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりに「考えよう」「みつめよう」がそれぞれ示されている。 ○いじめ問題、生命尊重については連続した2、3の教材のはじめに1ページ設け、自分の考えや話し合いで出た意見、更にそこから考えたことなどを記入するページが設けてある。 ○発問の1問目は、教材に関する質問で登場人物の行動の理由や心情を問う発問で、2問目は自分について振り返ったり、登場人物への自我関与を促したりして自分との関わりで教材の道徳的価値を考えるものがある。 ○各学年に2か所、役割演技を主体とした活動「アクション！」を設定し、「考え、議論する」ための発問を示している。

教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりに「学びの道しるべ」として3問示されている。 ○「やってみよう」（1, 2年：2か所, 3年：1か所）で役割演技をしたときに思ったり考えたりしたことを書けるようになっている。 ○いじめを暴力的なコミュニケーションという視点で呼び掛けている。
光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の次に1ページ示されており、「見方を変えて」では、「考えよう」とは視点を変えた問いを示し、多面的・多角的な見方や考え方ができるようになっている。 ○価値に迫る発問が示され、授業の流れを価値に向けて進めやすい。 ○3年の「命と向きあう」の教材で、投げかけ→話し合い→投げかけ→話し合いというように工夫され、命について話し合いながら「生きること」について考えを深めていけるように設定されている。
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりに2問示され、「考えてよう」で中心発問を、「自分に+1（プラスワン）」で自分との関わりについての問いがある。それらは教材の内容に係る問いと自分に対する問いなので、登場人物への自我関与を促し、自分との関わりで教材から道徳的価値を考えるものになっている。 ○「道徳ノート」では、教材に示されている発問を提示し、生徒自身が自分の考えを書けるようになっている。また、「友達の意見や話し合いをメモしよう」という欄も設けられ、自分だけではなく他の人の考えを書けるようになっており、多面的・多角的な見方につながる。 ○いじめ問題では連続する教材を1年3回, 2年3回, 3年2回（2つまたは3つ）設定し、その間に見開き2ページで写真や挿絵と共に「学習の進め方」を示し、ロールプレイなど体験しながら発問について考えられるよう仕組みられている。 ○「プラットフォーム」で、具体的な取組や問題への対処の仕方や教材に関連する教材等が示してある。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりに、「考えよう」を2つ示し、それは中心発問となりうるもので教材の内容に関わる問いと自分に対する問いが含まれており、登場人物への自我関与を促し、生き方について考えきっかけとなり、自分との関わりで教材の道徳的価値を考えるものになっている。 ○教材の最後に「クローズアップ」を設定し、教材の道徳的価値について深く考えるための発問（教材の内容に関わる問いまたは自分に対する問い）を示し、自分の考えを書く欄を設けている。 ○「深めよう」（各学年6～8ずつ）を設定し、話し合いや役割演技等を通して自分の考えを広げる発問が示されている。 ○巻頭に「My Profile」を、巻末に「心の四季」を設定し、自分のことについて見つめ、書くことができる。 ○「クローズアップ プラス」という特設ページを設定し、生命尊重やいじめ防止につながる取組（メンタルトレーニング、アンガーマネジメント等）を示している。

<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○教材の終わりに「考える・話し合う」を設定し、その中に「学習の手がかり」の問いは決まりきった答えがでないものとなっており、「考えを広げる・深める」の2つの項目を示している。</p> <p>○「考える・話し合う」で、教材によって2～4問、価値に迫る発問、自分を振り返る発問がそれぞれ示されている。</p>
<p>日 科</p>	<p>○教材文の終わりに「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」を設定し、HowやWhyの問いかけが3つずつ用意されている。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 問題解決的な学習を取り入れた工夫

<p>発行者名</p>	<p>意見（ ○ 長所 ● 課題 ）</p>
<p>東 書</p>	<p>○作品の最後に「考えよう」があり、思考を促す工夫がしてある。</p> <p>○マンガなど視覚を通して、絵を見ながらいじめを見抜く力を育てようとしている。（1年いじめに当たるのはどれだろう）</p> <p>○1年「自然の力と向き合って」の写真が迫力あり、自然の素晴らしさを実感しやすい効果がある。</p> <p>○「山にくる資格がない」の教材で「無謀なことをする」「頑張る」の違いを問う発問が設定されている。生徒に考えさせたい視点で、新鮮な切り口。</p> <p>●「考えよう」の発問が、教科書を見るとすぐ考えられそうになっているので、発問の吟味がいるのではないか。</p> <p>●発問例が少ない。</p>
<p>教 出</p>	<p>○1年『「いじり」？「いじめ」？』『ルールとマナー』は、現代的な課題で、どの生徒にとっても身近な問題なので、自分事として考えやすい。</p> <p>○1年「あなたならどうしますか」は短く、日常生活でありがちな問題を分かりやすく切り取って考えさせる教材。問題解決的な学習として使いやすい。</p> <p>○2年「本当の友達って」は、生徒が陥りそうな悩みを取り上げている。考えやすい。</p>

光 村	<p>○考えを深められるように、「考えよう」や「見方を変えて」などで、思考を深めている。</p> <p>○2年「段ボールベッドへの思い」が、会話文に似顔絵をつけていて、視覚的に誰の会話文かが分かりやすい。</p> <p>●「考えよう」の発問が、読解力が必要なものが多く、生徒にとって考える必然性をもてない。</p> <p>●3学年が長い読み物教材が多く、議論したり問題解決的に学ぶことになりにくい。</p>
日 文	<p>○教材が短く、読み物が苦手な生徒でも集中力が途切れない。</p> <p>○1年「あったほうがいい?」「毎日を安全に過ごすために」「使っても大丈夫」は、考え、議論する学習につながる。</p> <p>○教材が短く、読み物が苦手な生徒でも集中力が途切れない。</p> <p>●教材は短い、生徒が自分事として考えたいようなものが少ない。従来の「押しつけの道徳」を感じさせる教材が並んでいる。例/1年「ゆうへ」「光のカーテン」「花火に込めた平和への願い」等</p> <p>●イラストが全体的に現代的でなく、色使いがはっきりしすぎるか、線が細すぎるかで、視覚支援が効果的ではない。</p> <p>●「参考」等のページが情報量が多すぎて読む気が起こらない生徒も出てくる。</p>
学 研	<p>○1年の「3挨拶しますか、しませんか?」では、投書を基に多角的に物事を選択させる工夫がある。</p> <p>○各単元の巻末に、さらに葛藤教材を提示して内容を深めるような工夫がある。</p> <p>○読み物教材が比較的短く、読解が苦手な生徒の助けとなるように絵やデータ、資料などを組み合わせている。</p> <p>○2年「未来から来たおじいさん」3年「アップロードダウンロード」「優介の決意」等、現代的な課題を扱う読み物が従来になく、新鮮。考えさせる切り口が新しく、提案性がある。</p> <p>○3年「笛」「礼儀って何」のように問題解決的な学習につなげやすい教材がある。</p> <p>○ユニット学習として同じ内容項目の異なる教材を続けて設定しているので、より価値理解を深めることができる。</p> <p>○クローズアップの「ネットがないと生きていけない?」は、ネット依存について考えさせる問題で、自分のこととして考えやすい教材である。</p>
廣 あ か つ き	<p>●別冊は、工夫がみられない。主体的に学ぶ心構えが作りにくい。</p> <p>●名作は多いが、現代的な課題を考える際の工夫がよりあるとよい。</p>

日 科	○問題解決的な学習ができるよう、教材文の終わりに「考えよう、話し合ってみよう　そして、深めよう」のコーナーを設けている。
--------	--

視点② 体験的な学習を取り入れた工夫

発行者名	意 見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○Action でロールプレイをして体験的に考える力をつけようとしている。</p> <p>○巻末の付録にホワイトボードに自分の意見を書いて示すような工夫がみられる。心情円を使用して、一人一人の気持ちの度合いが図れるように工夫している。</p> <p>○図や絵を効果的に用いて考えやすくするための工夫がある。思考ツールに書き込んだり、手作り新聞の実物提示、問題場面を絵や漫画で提示していたり、生徒が自分事として考えやすくなるような工夫がある。</p> <p>○二年「正しい判断とは」「見方を変えて考えてみる」の思考ツールはわかりやすい。スマホを中心にして、視点の違いで受け止め方が違うことが視覚的に分かりやすい。</p> <p>●役割演技、思考ツールはあるが、「生徒が価値のある考えをもっている」前提で設定されている者が多い。例えば「自分を信じて生きるとは…」では「人間の弱さ・みにくさ」「人間の強さ・気高さ」を記入させる表があるがみにくさや気高さがどのようなものか、抽象的で分かりにくい発問が多く、思考ツールや書き込みの表が多くても実際の生徒が書けなくては意味がない。</p>
教 出	<p>○「やってみよう」を動作化させる設定は、体験的に学べる工夫で、主体的な学びにつながりやすく、印象に残る。</p>
光 村	<p>○見方を変えて という場面では、ほかの人の立場になって考えさせる場面が見られ、「深めたいむ」ではより思考を深めようと、同じ項目であるが別の角度から切り込むという工夫があった。</p> <p>○1年「父の言葉」の「考えよう」で、動作化を取り入れている。自分事として考えるための工夫としてよい。</p> <p>○図書館のきまりを考えさせるのは、自分たちも利用したことがある場所なので考えやすく、深まりやすい。</p> <p>○1年「異文化の人々と共に生きる」は、漫画が効果的で、状況が分かりやすいので、何が問題になっているかを把握しやすい。</p> <p>○2年「テニス部の危機」は、生徒にとって考えやすい問題を取り上げている。二人の視点が異なる様子を視覚的に表現しているので、考えを深めやすい。</p> <p>●3年の教材は、体験的な学びになりにくい。</p>

日 文	<p>○ロールプレイによって、体験的に考える工夫がある。</p> <p>○「違いを意識したコミュニケーション」で五つの色分けをしたカードの優先順位を考えさせる学習は、互いの違いが視覚的にわかりやすく、気づきが大きいのではないか。</p>
学 研	<p>○本文の内容から、別の観点からの資料が添付してあり、多角的・多面的に思考を深めようとしている。「1年 11本の世界よ、皆に届け」赤毛のアン</p> <p>○「深めよう」の発問が唐突でないので、思考の連続性が保障される。</p> <p>○「クローズアップ」の工夫が秀逸。①「問題意識をもてるようなデータの表示」を示しているのので、例えば「スマホの使い方」「他国と比べた日本の学生の未来への期待感」など、生徒にとって興味深く、自分事として考えるきっかけになるような比較的新しい数値がわかりやすく示されている。②「心に響く言葉」の選び方がよい。押しつけがましくない名言が厳選され、大きな字で示されている。③図や絵を効果的に用いて考えやすくするための工夫がある。思考ツールに書き込んだり、手作り新聞の実物提示、問題場面を絵や漫画で提示していたり、生徒が自分事として考えやすくなるような工夫がある。</p> <p>○「エルトゥール号の遭難」では紙芝居がわかりやすく載せてあり、話を体験的につかむことができる工夫がされている。</p> <p>○「深めよう」で「二つの心の対話を演じてみよう」では、対話を演じることを提案しているため、体験的な学習を通じて考えを深めることができる。</p> <p>○「あるピエロの物語」では、演じながら内容をつかむ教材になっている。</p>
廣 あ か つ き	<p>○別冊の「中学生の道徳ノート」により、自分のことを深く考える内容が書かれている。</p> <p>●別冊の「中学生の道徳ノート」では自分の振り返りはできるが、交流などを通して考えや意見を深めるような工夫がない。</p> <p>●文字数が、「thinking」のコラムにおいても、多くの言葉が並んでいる。内容はよいが、生徒が授業の教材に加えて読むには、負担が大きい。</p>
日 科	<p>○「礼儀はなぜ必要なのか」(B 礼儀)において3つの場面ごとに礼儀正しい振る舞いと無礼な振る舞いについて具体的な場面をもとに考える活動を仕組むことができる。</p>

視点③ 自己の生き方につなげる工夫

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>○自分の今後の生き方について、終末が問いかけるような終わり方で、深く考えさせる場面があった。</p> <p>○教材の始めに漫画の一コマを用いて考えさせたい事柄を分かりやすく提示している。学習の心構えをつくる方法として面白い。</p> <p>○3年間を通してタマゴマンたちが登場して、親しみやすく、思考の継続ができ自分自身の生き方について考えやすい。</p> <p>○1年「自然の力と向き合って」の写真が迫力あり、自然の素晴らしさを実感しやすい効果がある。</p> <p>○2年「よりよい社会を目指して」は監視カメラの是非を問う現代的な課題を取り上げている。生徒にとっては身近で主体的に考えられる。</p>
教出	<p>●教材の終わりについている発問例が、分かり切っていることを聞いているのでいわゆる「きれいごと」しか書けない生徒が多いのでは。</p> <p>●「情報とよりよくつきあう」「いじめに立ち向かう」等のコラムのような頁の情報量が多すぎて、読むのに疲れる。何を考えさせるかを分かりやすく焦点化して示す方がよい。</p> <p>●生徒にとって遠い教材が多い。3年「あふれる愛」「テーブルの卵焼き」等。2年「三年生を送る会」は一見学校生活を取り上げて生徒には考えやすそうだが一般的な行事の設定ではなく、入り込みにくい。</p>
光村	<p>○教材の内容に関わる内容を「深めたいむ」により、自分のこととして考えさせる工夫がある。</p> <p>○絵がユニバーサル的でわかりやすい。</p> <p>○単元の資料等により、より作品の内容が心に響くものにつながっている。「1年20 捨てられた悲しみ～」</p> <p>○教材によって「深めたいむ」を使ったり、広げたりすることで、自身のことをより考える工夫がみられる。</p> <p>●3年の教材が「あの日生まれた命」「小さな出来事」「サグラダ・ファミリア」「落葉」「恩讐の彼方に」等、全体的に生徒が自分につなげて考えにくい教材が多い。</p> <p>●「広げよう」のコラムが情報量が多く、読むのが苦手な生徒はついていけないことが予想される。</p>
日文	<p>○作品⇔ロールプレイ⇔思考を深めるというステップが示されていて自分の意見等を考えやすい。</p> <p>○二つの作品が二人の立場から書かれており、自分のこととして深く掘り下げてとらえられる教材がある。</p> <p>●巻末の中学生の顔のイラストとともに「考えてみよう」「自分に+1」といった発問があるのが、表情や手のしぐさから、共感性よりも押しつけを感じる。</p>

<p>学 研</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の終わりにある「深めよう」で、自己の生き方につなげていくような工夫がしてある。 ○「クローズアップ」による客観的なデータや思考を広める工夫がある。 ○一つ一つの資料が面白く、短いので、自分の生き方につなげやすい。 ○「挨拶しますか、しませんか」では、いろんな角度から挨拶について考えを述べているので、自分もどの考えに賛成かを考えながら日ごろの自分のコミュニケーションのありかたを見直すことにつながる。 ○「深めよう」の「自分の生活を見直してみよう」では、自分の生活のコントロールの仕方をイラスト付きで具体的に提案しているので、生活習慣を整えることにつながるができる。 ○「余命ゼロ 命のメッセージ」では、現実にあった話が短く生徒にとっても響く言葉でまとめられているので、命の大切さを考えることにつながる。 ○「アップロード ダウンロード」では現代的な課題をわかりやすく取り上げて考えさせているため、スマホとの向き合い方を自分のこととして考え深めることができる。
<p>廣 あ か つ き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「考える」「話し合う」の中に「考えを広げる・深める」を設けてあり、特に別冊「中学生の道徳ノート」においては、自分のことを振り返る資料が示してある。 ○教材の最後の「考える・話し合う」に学習の手掛かりとして、「～について考える」という何を考えるのかという方向性が明示されている。抽象的な思考が苦手な生徒にとって手助けとなる。 ○どの学年の教材も、従来からある名作と言われるものが多い。 ○絵のタッチが濃い過ぎず、印象が強くなりすぎないので、思考を邪魔しない。 ●「中学生の道徳ノート」が道徳とはこうであるべきのような示し方がしてあるので、思考を深めたり、主体的に考えたりしにくい。 ●道徳ノートが付録についているが、用いている写真が、「押しつけの道徳」のような印象を受け、生徒が主体的に学ぶ心構えが作りにくい。
<p>日 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「書いてみよう」「話してみよう」「もっと知りたい」「届けたい言葉」「込められた想い」などのコラムがあり、より一層自分の考えを広げたり深めたりできる。

様式1-2

【調査研究結果】

(3) 内容の構成・配列・分量

① 分量や教材の数, ② 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○AB版, ページ数(1年196, 2年204, 3年204), 4つの視点(1年A7B8C14D8, 2年A7B7C14D9, 3年A7B7C15D8) 教材は, 本編28+付録5+2, 最初から順に進める。</p> <p>○いじめ(1年4, 2年3, 3年3) 3つの教材で構成されたいじめ問題対応ユニット「いじめのない世界へ」を設け, 4~5月に配置。巻末に「人権・いじめ」をテーマとした教材を示している。</p> <p>○情報モラル(各学年1), 命に関わるもの(各学年3), 郷土の内容(1年2, 2年1, 3年1)</p>
教出	<p>○B5版, ページ数(1年218, 2年202, 3年202), 4つの視点(1年A8B8C12D7, 2年A7B7C16D5, 3年A6B5C15D9) 教材は, 本編35, 最初から順に進める。</p> <p>○いじめ(1年4, 2年4, 3年3) いじめを直接的に扱った教材や, いじめを許さない心の教育を間接的に支えるための教材, コラムを組み合わせユニットを設け, 体系的に配置している。巻頭に「いじめ・人権」をテーマとした教材を示している。</p> <p>○情報モラルは(1年2, 2年1, 3年1), 命に関わるもの(1年3, 2年2, 3年3), 郷土の内容(1年1, 2年1, 3年1)</p>
光村	<p>○B5版, ページ数(1年197, 2年205, 3年205), 4つの視点(1年A8B10C14D9, 2年A11B8C13D9, 3年A10B9C14D9) *複数内容項目 教材は, 本編31+付録4, 最初から順に進める。</p> <p>○いじめ(1年[7], 2年[11], 3年[8] *複数内容項目) 複数の教材から成るユニット「いじめを許さない心について考える」を設け, 学年の前半に配置している。いじめについて考えることができる教材の後には「深めたいむ」を設けている。いじめ問題について考えられる教材が多い。</p> <p>○情報モラル(各学年1), 命に関わるもの(各学年3), 郷土の内容(1年2, 2年1, 3年1)</p>
日文	<p>○B5版, ページ数(1年198 [42], 2年198 [42], 3年198 [42]), 4つの視点(1年A6B7C15D7, 2年A6B7C15D7, 3年A6B6C16D7) 教材は, 本編35+他8</p> <p>○いじめ(1年7, 2年5, 3年5) いじめを直接的・間接的に扱った教材とコラム「プラットフォーム」をユニット化し, 年間で複数配置している。巻頭に「いじめと向き合う」をテーマとした教材を示している。いじめを扱う最初のユニットに扉ページを設定している。</p> <p>○情報モラル(1年1, 2年1, 3年3), 命に関わるもの(1年4, 2年4, 3年6), 郷土の内容(1年2, 2年1, 3年1)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的新しい教材を使用しているので、イメージしやすい。 ○1つの教材が4ページ程度にまとめてある教材が多く、わかりやすい。 ○別冊「道徳ノート」がある。教材別に記述ができる。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○A B 版，ページ数（1年186，2年198，3年198），4つの視点（1年A 8 B 7 C 13 D 7，2年A 8 B 7 C 12 D 8，3年A 8 B 8 C 12 D 7） 教材は，本編35，最初から順に進める。 ○いじめ（1年4，2年4，3年6）いじめ防止につながる教材を選定するとともに，いじめ防止につながる特設ページ「クローズアッププラス」を設けている。 巻頭において「いじめをなくすために」をテーマとした教材を示している。 ○情報モラル（1年1，2年2，3年1），命に関わるも（1年5，2年，3年7），郷土の内容（各学年1） ○各教材の終わりに，テーマにあった資料「クローズアップ」がある。
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> ○A B 版，ページ数（1年186 [52]，2年170 [52]，3年166 [52]）4つの視点（1年A 8 B 7 C 12 D 8，2年A 8 B 7 C 12 D 8，3年A 8 B 7 C 12 D 8） 教材は，本編35+他3+3，別冊有り。最初から順に進める。 ○いじめ（1年2，2年4，3年4）いじめを直接的に扱った教材とともに，教材の学びを深める「thinking」を設けている。「いじめ」の様々な内容項目の学習と関連させながら考えさせる特集ページ「いじめを許さない 私たちの心」を設けている。 ○各教材の終わりに，資料として「学習の手がかり」がある。 ○情報モラルは1（1年1：各学年に特設ページ），命に関わるもの（各学年3），郷土の内容（各学年1） ○別冊「中学生の道徳ノート」がある。
日 科	<ul style="list-style-type: none"> ○B 5 版，ページ数（1年194，2年194，3年194）4つの視点（1年A 6 B 8 C 17 D 6，2年A 7 B 8 C 15 D 7，3年A 7 B 7 C 15 D 8） ●どの話が「いじめ」をテーマにした教材がわかりにくい。お話の終わりにある「話し合ってみよう」をみて，何について考えるのかわかる。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(4) 内容の表現・表記

① 巻頭・巻末等の取扱いの工夫

発行者	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<p>○どの見開きでも写真やイラストがある。キャラクター、マンガの利用があるので興味・関心を持ちやすい。</p> <p>○巻頭で話し合いの仕方、1時間の道徳の授業の流れの例が掲載されていて、学習の仕方のイメージがつかめる。</p> <p>○巻末に「学期のまとめ」3枚、ホワイトボード用シート、心情円があり、学んだことを振り返ることができたり、気持ちを表現しやすくなったりしている。</p> <p>○各教材の内容項目をマークと色で示されていて、視覚的にわかりやすい。</p>
教出	<p>○巻頭に道徳科の学び方や話し合いの仕方が掲載されており、学習のイメージがつかみやすい。</p> <p>○巻末に1年間を振り返るページと学期のまとめを書く欄があるので、自己評価ができる。</p> <p>●巻頭にこの教科書で学んでいくテーマが掲載されているが、内容項目がわかりにくい。</p>
光村	<p>○巻頭で、道徳で何を学ぶにか、どうやって学ぶのかが4ページに渡って掲載されており、学習のイメージがつかみやすい。</p> <p>○巻末に教材別テーマ一覧や他教科等の関わりがまとめてあるので、関連がわかりやすい。</p> <p>○1年間のまとめを書く欄があるので、自己評価ができる。</p> <p>○紙の色が暖かく、イラスト等の色合いも落ち着いており、生徒が教材に集中しやすい工夫がされている。</p> <p>●巻頭・巻末の資料が多すぎるように感じる。</p>
日文	<p>○巻頭に道徳で学ぶことと学び方についての内容があり、学習のイメージがつかめる。</p> <p>○項目をカラーの見出しで示していたり、教科書に出てくるマークも精選されていたり、わかりやすい。</p> <p>○巻末に学習内容と他教科の関わりがまとめてあるので、関連がわかりやすい。</p>

学 研	<p>○巻頭に「道徳で学ぶこと・考えること」, 「よりよく生きるための22の鍵」, 「様々なテーマで学ぼう」での教材紹介, 年度当初の自分のプロフィールのページがあり, 道徳科の目的や学習の進め方がイメージしやすい。</p> <p>○巻末に各学期の「学びの記録」を書くページが設けられており, 評価に利用できる。</p> <p>●目次に教科書に使われているマークを載せているが, 項目が多くてわかりにくい。</p> <p>●巻末の教材等の一覧が載せてあるが, ページ数を記載するとわかりやすい。</p>
廣 あ か つ き	<p>○巻頭に「道徳の時間」についての説明があるので, 道徳科の目的はわかりやすい。</p> <p>●巻頭・巻末はイラスト・写真が少なく, 文字が多いため, 場面や状況などイメージしにくい。</p> <p>●目次は教材の順序のみ, 各教材の表題が小さい。内容項目がわかりにくい。</p>
日 科	<p>○巻頭に「道徳って何を学ぶの」があるので, 道徳科の目的はわかりやすい。</p> <p>○巻末に振り返りのページがあり, 内容項目から教材の関連がまとめてあるので評価に利用できる。</p> <p>●教材の配列が, 内容項目順になっている。</p>

② 教材の内容を理解させる工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東 書	<p>○「道徳の授業はこんな時間に」で授業の進め方等を理解させようとしている。(3ページ掲載)</p> <p>○教材の内容を広げるためのコラム(プラス:5ページ)が掲載されている。</p> <p>○役割演技などを取り入れた学習(アクション:4ページ)が掲載されている。</p> <p>○授業で使用できる「みんなで意見を書こう(ホワイトボード用紙)」や「心情円」が付いている。</p>
教 出	<p>○「道徳科で学びを深めるために」で授業の深め方を理解させようとしている。</p> <p>○役割演技やよりよい行動の練習をして教材の学びを深めるための活動のページ(やってみよう:2ページ)が掲載されている。</p> <p>○学習に役立つ情報をウェブサイトで見つけることができる学びリンクが48か所掲載されている。</p> <p>○いじめや差別について深く考えたり, 安全や防災について考える資料等が8ページ掲載されている。</p>

光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳の授業を始めよう」で、1時間の学びの道すじを示している。(4ページ掲載) ○「人と人との関係づくり」「共生」「環境」「国際理解」という4つのテーマのコラム(広げよう:5ページ)が掲載されている。 ○前の時間に学んだことを、活動を通して、さらに深めていくことができる教材(深めたいむ:6ページ)が掲載されている。 ○教材の途中にある資料等6ページ、有名人(松岡修造氏とヤマザキマリ氏)のメッセージ(あなたへのメッセージ:2ページ)が掲載されている。
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳科での学び方」では、「3つのステップ」で1時間の学習の流れが具体的に見える。(1ページ掲載) ○学習内容の理解を助けるコラム(参考:5ページ)、生き方のヒントや応援メッセージのコラム(私の生き方:4ページ)が掲載されている。 ○学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げるコラム(プラットフォーム:14ページ)が掲載されている。 ○道徳ノート(別冊)があり、学習の流れが掴みやすい。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○「考えを深める4つのステップ」で、考えを深めるプロセスをサポートしている。(2ページ) ○道徳の学びの提案(深めよう:7ページ)を掲載している。 ○関連情報により、生き方の選択肢を増やすコラム(クローズアップ:18ページ)が掲載されている。また、その中には偉人が残した言葉などが含まれている。 ○視点や学習内容の違う関連情報により、生き方の選択肢を増やすためのコラムやワークシート(クローズアッププラス:5ページ)が掲載されている。
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分を見つめようー道徳の時間とはー」で、授業の進め方等を理解させようとしている。 ○教材の最後に関連する偉人の言葉(偉人の言葉:35個)が掲載されている。 ○「いじめ」「情報」等に関する追加教材が6ページ掲載されている。 ○道徳ノート(別冊)があり、項目ごとにより深く考えることができる補助教材がある。
日 科	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳科って何を学ぶの?」「教科書の使い方」等で、授業の流れや取り組み方についてわかりやすく具体的に示している。(4ページ掲載) ○「交通安全に気を付けよう」「届けたい言葉」など、教材の理解を深めるためのコラムが11ページ掲載されている。 ○目次及び教材名の上に色別の内容項目を表す番号を示すとともに、教材を囲む罫線、マークなどを色分けして示している。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(5) 言語活動の充実

① 考えを伝え合う活動の工夫

発行者名	意見 (○ 長所 ● 課題)
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の開きページに「道徳の学習はこんな時間に」の中に、「話し合いの手引き」として具体的な話し合いの方法と学習の根拠を示している。 ○教材の中には役割演技や体験活動を通して議論する教材が各学年2カ所「ACTION!」の教材がある。 ○各学年の教材に話し合いを意識した記述欄がある。 1年 p24, 2年 p130, 3年 p146 ○教材の終わりに「考えよう」で思考を促している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「道徳科で学びを深めるために」の中で、学習の手順が示されている。 ○教材の終わりの「学びの道しるべ」の発問に、考える視点や話し合う視点を示している。 ○「やってみよう」のページで生徒の活動を利用した教材がある。 1年 p29, 81, 2年 p13, 107, 3年 p99
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも1回目の授業で道徳の授業の意義と対話の仕方を学んでから、教材に入るよう構成されている。 ○自分やグループの考えを記入する欄を設け利用できる教材がある。 1年 p52, 54, 147, 2年 p60, 133, 2年 p11, 154-159 ○グラフや数値を掲載し、根拠を示して考えることができる教材がある。 1年 p102, 2年 p58, 3年 p94-95 ○「深めたいむ」で話し合い活動を提案している。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の巻頭の「道徳科で学ぶこと」で話し合いの仕方について示している。 ○別冊の「道徳ノート」では、毎時間自分の考えとグループの考えを記述するようになっている。 ○どの教材でも話し合いができるように構成している。

学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「〇〇の扉を開く」の中で、「考えを深める四つのステップ」で「話し合おう」の活動を示している。 ○「深めよう」のページを各学年で6～8個の教材を用意し、話し合いなどで考えを深めるようになっている。 ○「クローズアップ」のページで考え方の違う視点を示している。
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「自分を見つめよう」で道徳の中では、話し合いが大切であることを説明している。 ○各教材の終わりに、「考える・話し合う」ポイントをまとめて示し、考えを交流することを促している。 ○別冊の「中学生の道徳ノート」には毎時間の学習の記録が記載できるようになっている。
日 科	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーに、話し合いを促す発問が示されており、各自の考えを交流することができるようになっている。

② 考えをまとめたり，振り返ったりする活動の工夫

発行巻	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「1年間で学ぶこと」の中に、年度当初の思いを記述する欄が設けられ、後に自分の成長が振り返ることができるようになっている。 ○巻末に切り取り式の学期ごとの自己評価用紙がある。心に残った教材や考えたことなどを記録することができる。 ○教材の終わりに「考えよう」で異なる見方・考え方を促している。 ●巻末にはテーマごとの振り返りはあるが、教材名を示しただけになっている
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「1年間で学ぶこと」の中に、年度当初の思いを記述する欄が設けられている。 ○巻末には次年度につながる思いを書く欄がある。 ●教材の終わりに「道徳の学びを記録しよう」の記録欄が設けていて、学習の記録ができるが、一言しか記入できない。

光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりに「考えよう」「つなげよう」「見方を変えて」と自らの考えを深める視点が示してある。 ○巻末に毎時間の記録を書くページがある。併せて、1年間の思いを記述するページもある。
日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の最後の「考えてみよう」「+1」で考え方の視点を示している。 ○別冊の「道徳ノート」で教材ごとに考えたことや話し合ったことを記録できるように構成されており、毎時間の「振り返り」は行いやすい。 ○別冊の「道徳ノート」は記入方法が同じなので、学習のまとめを書きやすい。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材の終わりの「考えよう」で、考える視点を示している。 ○各教材にメモ欄があり、直接記入できるようになっている。 ○教科書の最初に、年度当初の思いを記録するページがある。 ○巻末に各学期のまとめを書くシートがある。
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材の最後に「考える・話し合う」ポイントを示し、自分の考えをまとめて深めていく視点が示されている。 ○別冊の「中学生の道徳ノート」には、年度当初の思いを書く欄があり、数値資料なども掲載されている。 ○別冊の「中学生の道徳ノート」で毎時間の記録ができる。ただ、教材名をきちんと記録する必要がある。
日 科	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に1年間の成長を振り返るページを設けている。 ●巻末に、3年間の道徳について振り返るページを設けているが、現場にそのニーズがあるかどうか分からない。

